

上越教育大学 上廣道徳教育アカデミー

第 I 期（平成30年度～令和 2 年度）

事業報告書



上越教育大学上廣道德教育アカデミー 「第Ⅰ期終了」を祝して

上越教育大学学長
川崎 直哉

今年度（令和2年度）で3年目となり、第Ⅰ期終了年度を迎えました「上廣道德教育アカデミー」は、「道德教育」の推進・充実のために、公益財団法人「上廣倫理財団」からの研究助成により寄付研究部門、いわゆる本学で初めての寄付講座として開設されました。上廣倫理財団は、昭和62年4月1日に当時の文部省社会教育局の許可を受けて設立され、平成25年7月には内閣府により公益法人認定を受けた、公益活動を行う民間の教育振興財団です。学術振興助成として、国内では東京大学大学院上廣死生学講座、京都大学iPS細胞研究所上廣倫理研究部門ほか5つの研究拠点を設置し、海外ではオックスフォード大学、ハワイ大学等へ寄付講座を設置した実績があります。

「道德」は小学校及び中学校で特別の教科として導入されたため、教育現場の先生方には、どのような内容で、どのような授業を行えば良いかなど、疑問や不安を抱かれていた先生も多かったようです。そのようなこともあり、この「上廣道德教育アカデミー」のスタッフはそれぞれ、開設直後から、校内研修や研究会に参加・協力したり、またいわゆる出前講座のように現場に出向いて道德教育の推進・充実のための研修プログラムを提供するなどの活動を行ってきました。初年度は専任スタッフ、兼務スタッフの総勢5名でスタートしましたが、2年目には、専任スタッフが新たに加わり総勢6名となりました。

本当に、アカデミーのスタッフはあちらこちらから要請を受けて、研修の講師等が出向くことから、健康面で大丈夫かなと心配するくらいフル活動し、大きな実績を上げました。テキストとして「道德科Q&Aハンドブック」も作成して、研修の際に活用したことも成果をあげる要因となったようです。3年目は新潟県内のみではなく、近隣県からも派遣依頼があり、その活動の広がりが実感されましたが、残念ながら新型コロナウイルスの問題もあり、その活動が制限されたことは非常に残念なことでした。

そのような中で、本学では、この「上廣道德教育アカデミー」を大学の大きな柱のひとつとして大事に育ててきました。これは、上廣倫理財団からの強力なご支援はもとより、アカデミーのスタッフと大学の関係者のチームワーク・協力が、この大きな成果に繋がったと思います。このようなことから、無事、この「第Ⅰ期終了」の報告書をまとめることができることは、私にとりましても、この上ない喜びです。

さらに、これまでの成果を上廣倫理財団から評価していただき、あらたに「第Ⅱ期」としてご支援を受けることができることは、「道德」教育のために次のステップに繋がると期待しています。実際、特別支援学校・学級における道德授業のニーズや、新潟県内の各地域に道德に関する発信力のある学校をつくり、その地域の中核校として活躍してもらうことなど、新しい課題や計画もあるようで、これからはますます活躍の場が増えると思われます。上廣道德教育アカデミーという、本学にとって画期的な講座の、地域に対する貢献・成果について、敬服・感謝しながら「第Ⅰ期終了」のお祝いと致します。

事業実施報告

目次

平成30年度

・事業計画と事業報告（概要）	1
参考資料）開所式次第	
①派遣事業	5
②教職員のための自主セミナー（水曜セミナー）	14
③研究大会	17

令和元年度

・事業計画と事業報告（概要）	23
①派遣事業	28
②教職員のための自主セミナー（水曜セミナー）	38
③研究大会	42

令和2年度

・事業計画と事業報告（概要）	48
①派遣事業	52
②教職員のための自主セミナー（水曜セミナー）	62
③研究大会（中止報告）	66

平成30年度事業計画と事業報告（概要）

1) 上越教育大学上廣道德教育アカデミーの目的

公益財団法人上廣倫理財団からの寄附により、平成30年4月1日、本学に設置された寄附研究部門である上越教育大学上廣道德教育アカデミーは、次のような設置目的を持つ。

教科化された(中学校は来年度から)「特別の教科 道德(道德科)」について、学校現場の教員が子どもたちに対し充実した授業展開ができるよう、研修と研究を推進することを設置の目的とする。

2) 活動目標

- ①新潟県上越地区や新潟県内の義務教育諸学校並びに高等学校、及び教育委員会、教育センター、道德教育の充実に関する研究団体等を中心に（本年度の重点）、広く県外の義務教育諸学校並びに高等学校、及び教育委員会、教育センター、道德教育の充実に関する研究団体もその対象として拡げながら（来年度）、道德教育やその要としての「特別教科 道德」（道德科）の推進・充実に関する研修の場において、研修カリキュラムを展開する。
- ②①で提供する推進・充実のための研修カリキュラムの内容を実践的に検討し、カリキュラムの充実や開発の研究を行う。（初年度から継続して行う）
- ③上越教育大学と協働しながら、教員や教員を目指す大学院生、学生を対象とした研修会を開催する。（初年度から継続して行う）
- ④以上の活動を通して開発されたカリキュラムを、研究大会、シンポジウム、学会発表など様々な場で提供、発表し、道德教育や道德科、並びに倫理のさらなる推進・充実に寄与する。

		平成30年度	平成31年度	平成32年度
研修・人材育成	環境整備	▶		
	研修会の講師	▶		
	研修会の企画	上越教育大学学校教育実践研究センター 自主セミナー(水曜セミナー) ▶		
		記念シンポジウム →・開所式(記念講演) ・研究大会	研究大会 研究会組織立ち上げ 研修講座の企画・運営	研究大会/シンポジウム 合同研修会登録 研修講座の企画・運営
研	プロジェクト研究	▶		
	個人研究	▶		
	情報収集・発表等	研究会等での活動内容説明	学会・研究会	学会・研究会/書籍等企画
究	ホームページ	開設	改訂	大改訂(成果公表)
	報告	報告書	報告書/パンフレット …中間発表	報告書/パンフレット等 成果発表
	運営諮問委員会	各年度毎に1回実施		

(平成30年4月1日現在)

3)活動報告(概要)…活動内容(3つの柱)を中心に

①.【研修会への無償による講師派遣事業】

教員の道徳科に関する授業力の向上、学校での道徳科授業や道徳教育の充実、推進のため、各学校、教育委員会、教育センター、各種研究団体主催の研修会等に、**本アカデミーの職員を、無償にて講師として派遣する**

※ 派遣回数...**延べ83回**
県内:73回 県外:10回

(事前打ち合わせを入れず)

【派遣依頼機関】

- ・小学校...県内 28(佐渡市を含む)
 県外 3(千葉県)
- ・中学校...県内 21
 県外 1(千葉県)
- ・特別支援学校 県内 1
- ・教育委員会、教育センター
 県内 3
 県外 2(長野県, 千葉県)
- ・その他の研修団体
 県内 9
 県外 4



延べ参加者:2,730名

活動目標① (本年度の重点)

活動目標②

②.【研修講座の開設・実施】

質の高い多様な道徳科の授業、道徳科の理解、道徳科の評価、道徳教育推進のための計画づくりや体制づくりなど、大学、地域の教育センター等と連携し、**道徳教育の研修講座を開設・実施する。**

※ 上越教育大学学校教育実践研究センターにおける「教職員のための自主セミナー」で「上廣道徳教教育アカデミー 道徳教育セミナー」を開設。今年度、3コース計11回実施。

→延べ参加人数 150名



活動目標③

③.【研修プログラムの構築と、道德教育に関わる新しいスタイルの探究】

公益財団法人上廣倫理財団と連携し、全国展開できる研修プログラムの構築並びに道德教育や道德科授業の様々なスタイルを探究していく。

※ 平成30年8月20日-21日
「上越教育大学上廣道德教育アカデミー
道德教育研究大会」開催(会場:本学)

→参加人数**177名**

(県内教育関係者を中心に、全国の道德教育実施団体、
県外教育関係者等)



活動目標④

その他

○開所式

平成30年6月22日(金)に「上越教育大学上廣道德教育アカデミー」開所式を挙行了。(参考資料)開所式次第あり)

○日本道德教育学会 第92回大会(平成30年11月3日・4日 金沢工業大学)のパネルディスカッションにおいて、「カリキュラム・マネジメントと道德教育の推進 一年間指導計画の工夫や「連携」を中心に」(早川裕隆)の中で、上越教育大学上廣道德教育アカデミーの活動について、紹介した。

参考資料) 開所式次第

上越教育大学「上廣道德教育アカデミー」開所式

■日時	平成30年6月22日(金)
	受付 14:30 ~
	開所式 15:00 ~ 17:00
	祝賀会 17:15 ~ 19:00
■会場	デュオ・セレッソ 上越市西城町3丁目5番地20号

- 開所式次第 15:00 ~ 17:00 (受付 14:30 ~)
- 1 開式 司会 佐藤賢治コーディネーター
 - 2 開会挨拶 川崎 学長
 - 3 上廣倫理財団 丸山 専務理事・事務局長 挨拶
 - 4 来賓挨拶
 - ・新潟県教育委員会教育長
 - ・上越市教育委員会教育長
 - 5 上廣道德教育アカデミー スタッフ・事業計画紹介
早川 アカデミー所長説明
 - 6 記念講演
講師紹介 林 副学長
 - ・演題「これからの道德と学校教育」
 - ・講師：文部科学省初等中等教育局財務課長 合田 哲雄 様
 - 7 閉式挨拶 大庭 理事兼副学長

①派遣事業

(1) 成果

<アカデミーの周知>

アカデミーの開設について、事前より積極的な周知がなされていたため、開設間もない4月から県内の小中学校、団体より多数の研修への講師派遣依頼があった。4～7月期は主に本学周辺の上越市内の小中学校が多かったが、徐々に依頼の範囲が県内広域へと拡大していった。研修コーディネーターによる継続的な情報提供、周知活動により、派遣依頼は続いている。

<テキスト「道徳科 Q&A ハンドブック」の配布と活用>

研修訪問校には漏れなくテキストとして「道徳科 Q&A ハンドブック」を配布し、必要に応じて研修の中で活用してきた。先生方には大変好評であり、夏の大会で手に入れた先生が気に入り、「学校の職員分だけではないか」という要望をアカデミーに出してしまい、その後慌てて校内での研修を依頼してきたというケースもあった。

<実績と評価>

各学校、行政、研修団体からの依頼内容は、「道徳の教科化が始まったが留意すべき事項を学びたい」というものであった。小学校では、新しい指導要領の内容について前倒しでの実施が可能であり、時間的には準備期間は十分あったはずであった。しかし、教科書の支給、指導要録の形式が自治体ごとに決まったのも、本年度に入る直前であった。従って、実際に教科化で変わったこと、やらねばならないことについて、各学校ともに整理し切れないまま教科化がスタートしたというのが現状であった。依頼してきた各学校とも、「今までの道徳とのちがいが実はよく分からない」という切実感があった。そこで、基本的な研修内容を、

○道徳の教科化の概要（講話）

○道徳科の授業づくりの実際（訪問校の教員による授業展開と協議・アカデミー所員による示範授業・教員対象の模擬授業 等）

○道徳科の評価（講話）

を柱として実施してきた。

その結果、今まで実施してきた道徳と大きな変化はないが、

- ・教科書の教材を扱うことで、指導要領で述べられている指導内容が網羅されていくこと。従って、教材の差し替えは慎重を期すること。
- ・質の高い指導方法が示されたので、それらを活用して「考え議論する」道徳科の授業づくりを進めてほしいこと。
- ・道徳科の評価として指導要録の記載が義務付けられ、記載する際の視点も示されたが、通知表による評価は、飽くまでも行政・学校の判断であること。

等について伝えることで、先生方の「安心した」という声が一番大きかった。それとともに「これから何をすればよいのかがはっきりした」と、先生方が道徳の教科化を契機に、授業改善に取り組む意欲を高めた学校、先生方が増えた点が、教科化初年度、アカデミー開設初年度としては、貴重な成果と言える。

＜学校・行政・研修団体とのつながり＞

講師として多くの学校・行政・研修団体の派遣要請に応じてきたことで、たくさんのつながりが生まれつつある。

行政では、新潟県教育委員会（新潟県立教育センター、上越教育事務所も）、新潟市教育委員会、上越市教育委員会、糸魚川市教育委員会、佐渡市教育委員会、県内の小・中・特別支援学校の派遣先は、県内の11市（上越、妙高、糸魚川、柏崎、長岡、見附、佐渡、新潟、十日町、小千谷、五泉）に及んでいる。さらに、県内の研修団体として、新潟県、新潟市、糸魚川市それぞれの小学校教育研究会 道徳部会、柏崎市刈羽村中学校長会の依頼にも応えてきた。

また、上越教育大と長野県総合教育センターとの連携講座（※詳細は別途記載）の中に、本アカデミーによる「道徳の授業づくり」の講座を開設させていただいた。

これらの学校・行政・研修団体とのつながりを大切にしていくことにより、次年度以降の派遣依頼のニーズが生まれ、研究開発における協力依頼等を円滑に進めることが可能になると思われる。

(2) 課題

＜31年4月より始まる中学校の教科化に向けて＞

本年度から教科化実施に向けて計画的に準備（年間指導計画作成・校内指導体制・授業づくり研修等）を進めている中学校はいいのだが、新年度、実施してから派遣依頼が相次ぐことも考えられるので、そのための準備をしておきたい。

＜特別支援教育の道徳授業＞

研修を重ねるうちに、特別支援教育に携わっている先生方から、「支援学校での、知的特別支援学級の道徳はどうしたらよいですか？」という質問を受ける機会が増えてきた。指導行政側もほぼ手付かずの領域である。アカデミー所員には特別支援教育の現場経験者がおらず、道徳指導も全く未経験であることから、これについて情報収集を重ねながら実践研究していくことが必要である。

＜継続的なアカデミーについての情宣活動の必要性＞

本アカデミーの存在についての周知活動はパンフレットの更新、配布をはじめ、継続的に行う必要がある。徐々に依頼の範囲が県内広域へと拡大していったが、折々に研修コーディネーターによる継続的な情報提供、周知活動が大変重要である。

※長野県教育委員会と上越教育大学連携による教育研修講座（報告）

- ・日 時 平成30年9月20日 9:40～16:10
- ・場 所 長野総合教育センター（長野県塩尻市）
- ・担 当 早川 裕隆・小宮 健
- ・内 容 「教科化で変わったこと・変わらないこと」
 - ①教科化で変わったこと・変わらないこと（小宮）
 - ②道徳授業作りで大切なこと（評価を含む）（早川）
 - ③道徳授業づくりの実際 一体験的な活動を中心に—
小学校教材で（小宮） 中学校教材で（早川）

※なお、この講座は、講座で学んだことを事項での研修で広めていくことが課題として受講生に課せられている。

以下、感想の一部を紹介する。

- ・午前に教科としての道徳の知識やポイントを教えていただき、午後アウトプットとして実際に体験することで、知識を深めることができた。
- ・役割演技の力、効果について学ぶことができた。
- ・「指導書」にとらわれてしまう時があるが、今日の研修で、「ねらいを明確にしておくこと」が1時間の授業の評価、子どもたちに気付いて欲しい点になること、それを明確にした上で、発問を大事にしていくことが、授業づくりに大切だと教えていただいた。
- ・実際の教材についてどのように扱うか、考え方と共に理論と実践の両面から学ばせていただいた。
- ・「ねらいを明確にすること」「ねらいに即した評価」「考え・議論する授業展開」という点がはっきりしてきた。学校に戻って、共通理解できるようにしたい。
- ・午前では、基本的なことを端的に教えていただき、すべきことが焦点化してきた気がしてとてもよかった。午後は、模擬授業を通して、自分の思考が広がったり深まったりする感覚があった。お二人の同調したりさらに突っ込んだり、そういう手法、展開のなせるものだとも改めて思った。

2018 長野県教育委員会と上越教育大学連携による

教員研修講座

上越教育大学教職大学院、長野県教育委員会の連携による学校力・学力の向上を目指す研修講座を開設します。学校や教職員を取り巻く様々な教育課題が表出し、その早急な解決が求められています。長野県にとっての教育課題を決めだし、その解決に向けて6日間にわたり大学教員がそれぞれの研究をもとにわかりやすく語ります。実力向上を感じられる講座となることでしょう。あなたのご参加をお待ちしております。



会場

長野県総合教育センター

長野県塩尻市片丘南唐沢6342-4

日程

6/22(金)・7/27(金)・8/7(火)
8/27(月)・9/20(木)

9:40～16:10 ※詳細は、総合教育センター発行の研修講座案内をご覧ください。

対象

幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等に勤務する教職員

申込方法

県内の方は、長野県総合教育センターの研修講座への申込方法と同一です。県外の方で受講を希望される方は、下記問い合わせまで連絡して下さい。



お問い合わせ

ご不明な点等ありましたら、E-mailでお問い合わせください。

E-mail: kiryu@juen.ac.jp

(上越教育大学大学院学校教育研究科(教職大学院) 教授 桐生 徹)



講座コード・講座名	担当	テーマ	研修の概要
『学級づくり』 3-8-01-01 学力向上のための授業づくり・ 学級づくり ～協同性を高める学級を目指そう～ 6月22日(金) 定員20名	午前 大島 崇行 准教授 (上越教育大学教職大学院)	学力向上のための 授業デザインと分析	至る所で学力低下が叫ばれ、私たち教師は学力向上への取組が必須とされています。しかし、「学力」とは何でしょうか？ノンストップで駆け巡る学校現場。ここでちょっと立ち止まり「学力」と、学力向上の取組について考えます。
	午後 赤坂 真二 教授 (上越教育大学教職大学院)	学級経営の充実～指導力のある教師が知っていること～	新学習指導要領では、学級経営の充実を求めています。主体的・対話的で深い学びの実現のためには、学習集団の機能向上が望まれます。しかし、学級経営については学ぶ機会も少なく動や経験に頼って実践されているのが実情です。指導力の高い先生たちは何をしているのか、紹介します。
演習「リフレクションを通して、研修内容を明日の学校に活かそう」 講師 上越教育大学大学院 アドバイザー			
『ICT活用』 3-8-01-02 ICTが苦手な人のための 初歩の初歩講座 ～iPad1台で授業が変わる～ 7月27日(金) 定員20名	午前 榎原 範久 准教授 (上越教育大学教職大学院)	明日から使える 簡単ICT活用術	学校にICT機器は導入されるけれど、なんとなく手が出ない。使い方は分かるけど、どの場面で使うと効果的なのか、いまいちピンとこない…。そんな悩みを解決し、ICT機器の教室環境整備や、ICT機器のちよつと使いで授業の効率化を図り、子どもの学習の活性化の方法を提案します。
	午後 水落 芳明 教授 (上越教育大学教職大学院)	初めての先生向けの iPad活用法	iPadを授業で使ってみませんか？難しい知識は必要ありません。初めての方でもできるようにするための講座です。iPad等、ご用意いただく必要はありません。この際、使ってみようと思う気持ちだけをもってご参加ください。
演習「リフレクションを通して、研修内容を明日の学校に活かそう」 講師 上越教育大学大学院 アドバイザー			
『注目動向』 3-8-01-03 幼稚園・保育園・小学校・中学校・ 高等学校の連携教育 ～接続を意識したカリキュラムで 思考力を養う～ 8月7日(火) 定員20名	午前 木村 吉彦 教授 (上越教育大学教職大学院)	幼保小連携教育に基づく 接続期カリキュラム-茅野 市対応中心-	幼稚園における教育要領の実施に合わせて、小学校と幼稚園・保育園の連携教育の意義付けと重要性を学びます。小学校の学区内における小学校と幼稚園・保育園の先生方同士との打ち合わせ活動を基にした、接続期カリキュラム(=アプローチ&スタートカリキュラム)の長野県茅野市の実践を紹介します。
	午後 片桐 史裕 准教授 (上越教育大学教職大学院)	高等学校卒業後の姿を見 据えた中高接続カリキュ ラム作成の考え方	今から30年後、目の前の子どもたちは地域や会社や家庭を責任持って担っている年代です。30年後の日本や世界はどんな状況でしょうか？そして目の前の子どもたちはその社会にどのように関わってほしいですか？子どもの将来を見据えたカリキュラムの作成について学びます。
演習「リフレクションを通して、研修内容を明日の学校に活かそう」 講師 上越教育大学大学院 アドバイザー			
『授業改善』 3-8-01-04 主体的・対話的で深い学びの 授業実践 ～未来と深い学び～ 8月27日(月) 定員20名	午前 松沢 要一 教授 (上越教育大学教職大学院)	深い学びを実現する算数・ 数学の教材アレンジ	普段の授業で、子供たちの中に「問い」が生まれているでしょうか。深い学びを実現するためには、教科書教材をアレンジし、「問い」が発生するような仕掛けが必要です。教科書教材のどの部分をどのようにアレンジしたらよいかについて、具体的に考えていきます。
	午後 西川 純 教授 (上越教育大学教職大学院)	さまざまな「主体的・対話 的で深い学びの授業実践」	「主体的・対話的で深い学びの授業実践」とは何かを理解するには、子ども達の生きる50年先の日本がとてもしんどい時代になることを予測してみることから始まります。とてもしんどい時代です。これを乗り越えるためには、二つの道があります。エリートに頼る未来、みんなで築く未来について授業実践から学びます。
演習「リフレクションを通して、研修内容を明日の学校に活かそう」 講師 上越教育大学大学院 アドバイザー			
『注目動向』 3-8-01-05 特別の教科 道徳の授業づくり ～道徳の今とこれから～ 9月20日(木) 定員20名	早川 裕隆 教授 (上越教育大学教職大学院) (上廣道徳教育アカデミー所長)	教科化で変わったこと・ 変わらないこと	本講座は、3つのテーマに対して2人の講師で実施いたします。「道徳の時間」が「特別の教科 道徳(道徳科)」として教科化されます。教科化の背景には、義務教育として、全ての学校で、全ての先生が同じ様に、子どもたちと充実した道徳の授業を展開する願いがあります。そのため、 ①教科化で変わったこと・変わらないこと(小宮) ②道徳授業づくりで大切なこと(評価を含む)(早川) ③道徳授業づくりの実際-体験的な活動を中心に-(小宮山・早川) の3つの内容について、受講者の先生方の不安や疑問に応えながら、具体的な授業実践につながる授業力の向上について学びます。
	小宮 健 特任教授 (上越教育大学上廣道徳教育アカデミー)		

平成30年度 派遣事業研修内容一覧

回数	実施日	市町村名	校種・所属別	学校名等	参加人数	担当	内容等	講 話	道徳科の 評価	模擬 授業	授業づくり演習		その他
											授業公開	師範 授業	
1	4月16日	上越市	小	上下浜小	12	早川	「特別の教科 道徳」の時間の構想の立て方と役割演技	1					
							道徳の教材研究のポイント	1					
							「特別の教科 道徳」に向けた評価のあり方		1				
2	4月23日	上越市	小中	牧小・牧中①	20	小宮	教科道徳で押さえておきたい基礎、基本	1		1			
							主体的・対話的で深い学びを実現する道徳科授業づくり						
3	5月7日	上越市	小	谷浜小①	10	小宮	道徳の授業づくりについての講演	1		1			
							道徳授業についての質疑	1					
4	5月11日	上越市	小	直江津南小	21	小宮	特別の教科道徳導入の経緯と教科化で目指すもの	1					
							模擬授業：講師先生による役割演技を取り入れた授業展開例			1			
5	5月14日	上越市	小	針小	13	小宮	道徳の教科化の流れについて	1					
							授業の進め方について(教科書の使い方、留意点等)	1		1			
6	5月16日	上越市	大学	上越教育大学Pプラ	7	小宮	「特別な教科 道徳」について	1					
							授業公開・協議会				1		
7	5月17日	上越市	中	牧中	20	小宮	師範授業					1	
							全職員による授業協議会	1					
8	5月21日	上越市	中	吉川中①	16	小宮	道徳授業改善についてのご指導	1					
							道徳科授業について	1					
9	5月24日	新潟市	小	木戸小①	3	小宮	道徳全体計画・各学年指導計画の検討	1					
							年間指導計画検討	1					
10	5月24日	新潟市	中	新津第一中①	3	小宮	特別な教科「道徳」に求められるもの	1					
							自ら考え、主体的に取り組む道徳授業を実践するために					1	
11	5月28日	上越市	小	清里小①	12	小宮	評価について(概要)		1				
							研究授業(「道徳科」代表授業)				1		
12	5月30日	新潟市	中	新津第一中②	43	小宮	代表授業へのご指導	1					
							参加教員へのご指導	1					
13	6月4日	妙高市	小	新井北小	16	小宮	道徳の評価について	1		1			
							評価記述の具体		1				
14	6月5日	糸魚川市	教委	糸魚川市教委	35	小宮	「特別の教科 道徳」の教科化の意味	1					
							「考え、議論する道徳」とは 効果的な指導方法についても具体的			1			
15	6月7日	柏崎市	中	第五中①	15	林	道徳教育における評価について		1				
							教科化に向けて	1					
16	6月11日	上越市	小中	谷浜小②潮陵中	18	小宮	師範授業とその展開についての研修					1	
							道徳授業についての質疑	1					
17	6月13日	上越市	小	飯小①	21	小宮	師範授業					1	
							師範授業参観後の協議	1					
18	6月14日	上越市	小	八千浦小	15	早川	講話	1	1				
							授業の実際(役割演技)	1				1	
19	6月18日	上越市	小	牧小	20	小宮	授業における具体的な評価について		1				
							授業公開・協議会				1		
20	6月20日	千葉県	他	千葉教研道徳部船橋支部	127	小宮	道徳科実践上のポイント	1		1			
							道徳科の評価の在り方	1		1			
21	6月25日	上越市	小	春日新田小	22	小宮	通知表(要録)への記述において心掛けること		1				
							5年生(児童20人)道徳授業参観				1		
22	6月27日	上越市	小	清里小②	12	小宮	協議会への参加・ご助言	1					
							参観授業及び協議会、道徳授業全般に関わること	1					
23	6月28日	新潟市	小	木戸小②	26	小宮	模擬授業の公開(4限下学年クラス・5限上学年クラス)	1				1	
							考え、議論する道徳の授業のあり方について指導						
24	7月2日	上越市	小	飯小②	21	小宮	師範授業					1	
							師範授業参観後の協議	1					
25	7月6,7日	千葉県	小	千葉大附属小	100	小宮	講話	1					
							教育フェア講師	1		1			
26	7月9日	上越市	小	国府小①	23	小宮	校内研究授業の参観					1	
							授業参観後の研究協議会での助言・指導	1					
27	7月9日	十日町	中	中条中	17	林	授業改善について	1					
							評価について		1				
28	7月11日	佐渡市	小	新穂小	14	小宮	6年道徳研究授業の参観					1	
							授業へのご指導	1					
29	7月12日	佐渡市	センター	佐渡総合教育センター	44	小宮	「特別の教科 道徳」についてのご指導	1	1				
							新学習指導要領における道徳の授業改善の在り方について	1	1	1			
30	7月23日	新潟市	中	松浜中	25	小宮	(講義)教科化によってこれまでと何が異なるのか	1		1			
							(講義)教科書指導について	1					
31	7月27日	長岡市	小	関原小	32	早川	「生きるIV」「私たちの新しい生き方」の授業計画と指導・質疑	1					
							道徳の評価について		1				
32	7月30日	千葉県	他	習志野市道徳主任研修	26	小宮	通知表への記入の仕方		1				
							特別の教科 道徳の授業づくりと評価	1	1	1			
33	8月1日	新潟市	他	新潟市小研道徳部	96	早川	多面的・多角的な思考を促す道徳授業づくりの在り方	1					
							道徳科における評価の在り方		1				

回数	実施日	市町村名	校種・所属別	学校名等	参加人数	担当	内容等	講話	道徳科の評価	模擬授業	授業づくり演習 授業公開	師範授業	その他
34	8月2日	妙高市	小	新井小	32	小宮	「考え、議論する道徳」について 道徳の評価について 道徳の年間計画の作成について	1	1	1			
35	8月10日	千葉県	センター	千葉県総合教育センター	58	小宮	児童・生徒の本音を引き出すロールプレイング 道徳教科化における留意点	1					
36	8月22日	上越市	小	名立中・宝田小	33	小宮	具体的な道徳授業の展開例 道徳の評価方法		1	1			
37	8月23日	上越市	中	大潟町中	19	小宮	授業の進め方 評価の仕方	1	1				
38	8月24日	柏崎市	特学	はまなす特支	63	早川・小宮	知的特別支援学校・学級における道徳教育 理解が難しい児童生徒に対しての具体的な指導・方策 指導計画・評価について	1	1	1			
39	9月5日	新潟県	センター	県立教育センター	15	小宮	参加者実践レポートの指導 道徳科の専門性の向上と授業改善	1					1
40	9月10日	上越市	小	清里小③	12	小宮	協議会への参加・ご助言 参観授業及び協議会、道徳授業全般に関わるご指導	1			1		
41	9月13日	上越市	他	公孫会直江津支部	23	小宮	「特別の教科 道徳」への対応 主題・ねらいの明確化と評価の在り方	1	1	1			
42	9月20日	長野県	センター	長野県立教育センター	37	早川・小宮	「講義」教科化で変わったこと・変わらないこと	1					
43	9月25日	上越市	小中	牧小・牧中②	20	小宮	授業公開・協議会	1			1		
44	9月26日	上越市	小	谷浜小③	10	小宮	授業参観				1		
45	9月26日	妙高市	他	公孫会妙高支部	111	小宮	道徳教育最新情報 評価の具体	1	1				
46	10月1日	上越市	小	国府小②	23	小宮	「特別な教科 道徳」の見取りと評価について助言・指導 校内公開授業検討会	1	1				
47	10月2日	長岡市	中	稻吉中①	3	小宮	校内研究に関して	1					
48	10月10日	上越市	小	黒田小	14	小宮	道徳の授業づくりについて 評価について 質疑応答	1	1				
49	10月11日	長岡市	中	稻吉中②	16	小宮	師範授業 授業と評価に関する研修	1	1				1
50	10月15日	見附市	小	萬巻小	21	小宮	道徳の評価の仕方 評価につながる授業や授業の進め方の工夫 ノート(発問の答えや振り返りを書くため)を使った授業の組み立て方	1	1	1			
51	10月16日	小千谷市	中	南中①	11	小宮	教科としての道徳の授業の進め方について 道徳の評価について	1	1				
52	10月23日	上越市	小中	吉川中②・吉川小	13	小宮	1学年授業公開 全職員による授業協議会 道徳授業改善についてのご指導	1	1		1		
53	10月24日	長岡市	中	江陽中	28	小宮	道徳の教科化により、今までの道徳と何が異なるのか 「考え、議論する道徳」とは何か 道徳の評価はどうしていけばよいのか	1		1			
54	10月25日	上越市	小中	牧小・牧中③	20	小宮	授業公開・協議会・講演会 2年1組の授業参観	1	1		1		
55	10月29日	上越市	小	高田西小①	20	小宮	2年1組の授業協議会への参加 道徳の授業の作り方についてのご指導	1					
56	11月6日	上越市	他	公孫会 くびきの支部	13	小宮	模擬授業 考え、議論する道徳授業の実際と評価の在り方	1	1				
57	11月7日	糸魚川市	他	市教研道徳部	24	小宮	師範授業(6年生対象の1校時) 参加者の悩みへの御回答(事前送付) 「特別の教科 道徳」実践上のポイント	1					1
58	11月9日	糸魚川市	小	大和川小	23	小宮	示範授業(3年生 35名) 道徳授業の基本、流れ、工夫について 通知表への所見と指導要録記載について	1					1
59	11月12日	妙高市	中	新井中	49	小宮	道徳科の評価について 道徳科の授業展開について	1	1	1			
60	11月13日	小千谷市	中	南中②	11	小宮	講師による道徳の示範授業 授業後、協議会及び講師による指導	1					1
61	11月14日	上越市	小	富岡小	12	小宮	参観授業ご指導 道徳授業の組み立て方について 道徳授業の組み立て方について	1	1		1		
62	11月15日	長岡市	中	稻吉中③	16	小宮	研究授業(3年2組 森田華菜子)全職員参観 授業研究協議会(授業に関するワークショップ) 「考え、議論する道徳授業」の実現を目指した研修	1	1		1		
63	11月15日	柏刈	他	柏崎刈羽中学校長会	14	林	「特別の教科 道徳」の完全実施に向けて	1					
64	11月19日	新潟県	中	亀田西中①	27	小宮	道徳科の授業づくりを進める上で留意すること 「考え議論する道徳」の背景(講義) 学習課題とまとめ、振り返りとの関係(講義)	1		1			
65	11月21日	柏崎市	小中	西山中校区(3校)	48	早川	授業参観 授業を参観しての講義・演習、質疑	1			1		

回数	実施日	市町村名	校種・所属別	学校名等	参加人数	担当	内容等	講 話	道徳科の 評価	模擬 授業	授業づくり演習		その他
											授業公開	師範 授業	
66	11月26日	上越市	中	板倉中	17	小宮	道徳の教科化の概要	1					
							年間指導計画作成や授業の進め方	1	1				
							道徳の評価方法		1				
67	11月29日	柏崎市	中	第五中②	21	林	道徳教育における評価について		1				
							教科化に向けて	1					
68	12月3日	長岡市	中	秋葉中	20	小宮	教科書を用いた授業の進め方	1		1			
							評価の在り方		1				
69	12月5日	五泉市	小	大蒲原小	10	小宮	「考え、議論する」道徳の授業づくりのポイント	1					
							道徳科の教材研究の進め方と発問について			1			
70	12月8日	千葉県	他	千葉県母と女性教員の会	453	小宮	パネルディスカッション	1					
71	12月18日	長岡市	中	南中	27	早川	道徳授業評価についての検討会		1				
							今後の道徳授業及び評価についての講話	1					
72	12月25日	県小教研	他	会場 アトリウム長岡	31	小宮	新学習指導要領に対応した「特別の教科 道徳」模擬授業			1			
							参会者との質疑応答	1					
73	12月26日	上越市	小	高田西小②	20	小宮	役割演技の模擬授業			1			
							授業の中での評価の仕方		1				
74	12月27日	上越市	小中	清里中学校区	22	小宮	新学習指導要領での道徳科の授業実践の在り方	1		1			
							道徳科の評価の在り方		1				
							道徳科での小中一貫教育の在り方	1					
75	1月18日	千葉県	小	市川市立南行徳小	30	小宮	道徳科授業参観と講話	1	1		1		
76	1月21日	千葉県	小	習志野市立谷津南小	26	小宮	2年C組授業参観					1	
							授業についての講評	1					
							道徳の教科化と評価について	1	1				
77	1月21日	上越市	中	直江津東中	32	林	授業参観・協議会 道徳授業の進め方	1				1	
							2年C組授業参観					1	
							授業についての講評	1					
78	1月22日	千葉県	中	習志野市立第六中	28	小宮	道徳の教科化と評価について	1	1				
							授業参観・協議会講話	1				1	
							授業についての講評	1					
79	1月28日	上越市	小	高田西小③	20	小宮	授業参観・協議会講話	1			1		
80	2月5日	上越市	中	春日中	39	小宮	教科書や副読本を使用した「考え議論」するための手立て	1		1			
							評価方法・所見		1				
81	2月8日	遠隔研修	小中	佐渡金井小、十日町小、堀之内小	86	小宮	学教センターからの遠隔研修	1	1				
82	2月15日	新潟市	中	亀田西中②	42	小宮	「道徳教育の抜本的改善」とは(講義)	1					
							道徳科の授業づくりを進める上での留意点(講義)				1		
							校内推進体制の構築について(講義)	1					
83	02月21日	千葉県	他	君津もみじ会(指導主事会)	62	小宮	道徳科新設に伴う新たな課題	1	1				

平成30年度 派遣事業研修回数及び派遣先一覧

平成30年度最終報告

地域	回数	小学校	中学校	特別支援学校	教育委員会	その他
上越市	35	15) 上下浜・牧・谷浜・直江津南・清里・飯・八千浦・春日新田 国府・宝田・黒田・吉川・高田西・富岡・針	9) 牧・吉川・潮陵・名立・大潟町・板倉 清里・春日・直江津東		教育委員会	4) 公孫会くびきの支部 公孫会直江津支部・大学Pブラ 学校教育実践研究センター
妙高市	4	2) 新井北・新井	1) 新井		1) 糸魚川市教委	1) 公孫会妙高支部
糸魚川市	3	1) 大和川			1) 糸魚川市教委	1) 市教研道徳部
柏崎市	5	2) 二田・内郷	2) 西山・第五中	1) はまなす特別支援		1) 柏崎刈羽中学校校長会
長岡市	7	1) 関原	4) 江陽・秋葉・南・栖吉			
新潟市	8	1) 木戸	3) 新津第一・松浜・亀田西			1) 小教研道徳部
小千谷市	2		1) 南			
三条市						
十日町市	1+①	1) 十日町*	1) 中条			
五泉市	1	1) 大蒲原				
見附市	1	1) 葛巻				
魚沼市	1+①	1) 堀之内小*				
佐渡市	2+①	2) 新穂・金井*			1) 佐渡市教育センター	
新潟県	2				1) 新潟県立教育センター	1) 県小教研
新潟県合計	73	新潟県小学校 28	新潟県中学校 21	新潟県 1	新潟県の教育委員会・センター 3	新潟県 9
千葉県	9	3) 千葉大附属小・谷津南・南行徳	1) 習志野第六		1) 千葉県総合教育センター	4) 千葉教研船橋支部道徳部 習志野道徳主任会 君津市もみじ会(指導主事会) 県母と女性教員の会
長野県	1				1) 長野県立教育センター	
合計	83	31)	22)	1)	5)	13)

まとめ
 延べ派遣回数 83回 (県内…73回 県外…10回)
 延べ参加人数 2730名
 派遣依頼機関数 65件 (県内…55件 県外…10件)
 受講機関数 72件 (県内…62件 県外…10件)

ア 回数は延べ派遣回数(①の3回は遠隔授業につき、合計では①の3つを1回にカウント)
 イ 事前の打ち合わせはカウントしない
 ウ 受講機関数は同一校で複数回開催は1カウント、同一開催で複数校実施(合同)は各校数で計上
 エ 注) 上記により派遣依頼機関数と受講機関数は一致しない
 オ 教育センターは教育委員会でカウント
 キ 「*」付きの3小学校(金井小・十日町小・堀之内小)は上越教育大学の学校教育実践研究センターの遠隔授業として実施
 上記以外
 ・上越教育大学実践研究センターの水曜セミナーで9回開催(延べ参加者150名)
 ・アカデミー主催の中学校向け研修会(2月12日)の参加者22名

②教職員のための自主セミナー（水曜セミナー）

「上廣道徳教育アカデミー 道徳教育セミナー」

1. 開催日 9回実施（毎回、18:30～20:00）
なお、文科省での教科書検定が入った関係で、9月26日予定の内容は、10月10日に変更。
また、10月17日及び11月7日については、ニーズがなかったため、中止した。
2. 場 所 上越教育大学学校教育実践研究センター
3. 実施内容
 - ・初級コース、推進者コース、中学校コースを設けた。
 - ただし、選択したコースの別なく、興味関心に応じて、どの日でも参加可能とした。
 - ・初回と第2回は、時期を考え、どちらか出られる日を選択してもらうようにして、同じ内容で展開した。
 - ・中学校教科書採択直後のニーズを想定して、中学校の教材等に特化した「中学校コース」を後半に設けた。
4. 参加人数 9回の延べ人数は、150名であった。

5. 評価と課題

まず、筆者が6年前と7年前に本セミナーで講座を開いた際には、院生やゼミ生を含めて、毎回5名から7名程度であったことを考えると、平均して15名を超える人数の参加があったことは、それだけ、教科化された道徳科授業づくりに関して、切実感が高まったことが感じられる。

実際、アンケートの記述を見ると、例えば、

- ・実際の教材を活用したことは、今後の実践につながる。
- ・「考え、議論する道徳」について、具体的に分かって良かった。
- ・道徳担当になり、少し不安だったが、安心した。
- ・無料でこのような研修をやってくださることがありがたい。
- ・とても具体的で、良く理解できた。
- ・中学校の発達段階に応じた内容でご教授いただき、大変勉強になった。中学現場の人材育成に生かしたい。
- ・発問に対する答えに問い直し、問い返しをしていくことで、その答えの背景を深めていくことや深まっていくことを体感させていただいた。

など、高評価が多かった。

一方で、評価の「文例」に関するニーズが小学校の教員で多かったこと、経験による違いで、理解の内容や深まり方の違いが見られることが課題としてあげられよう。これらのことを踏まえて、次年度に生かすために、ある程度、受講生の道徳に関する理解度を予め把握した上、次のような運営を考えたい。

○道徳科の目標や内容、ねらい・主題など、道徳科の基礎的な内容については、必ず扱うこと。

とりわけ、準備が遅れている中学校教師の駆け込みが予想されるため、特に、本内容の受講が前提として参加できる設計を考える。

○教授の場としての設計の他に、意見交換の場としての内容が必要である。そのため、第1回目はガイダンスとして、どんなニーズがあるのか、情報交換の場の提供と、できるだけニーズに応じた内容構成の工夫をする。

○上越地区で採択された教科書教材を使った「授業づくり」のための演習を充実させる。

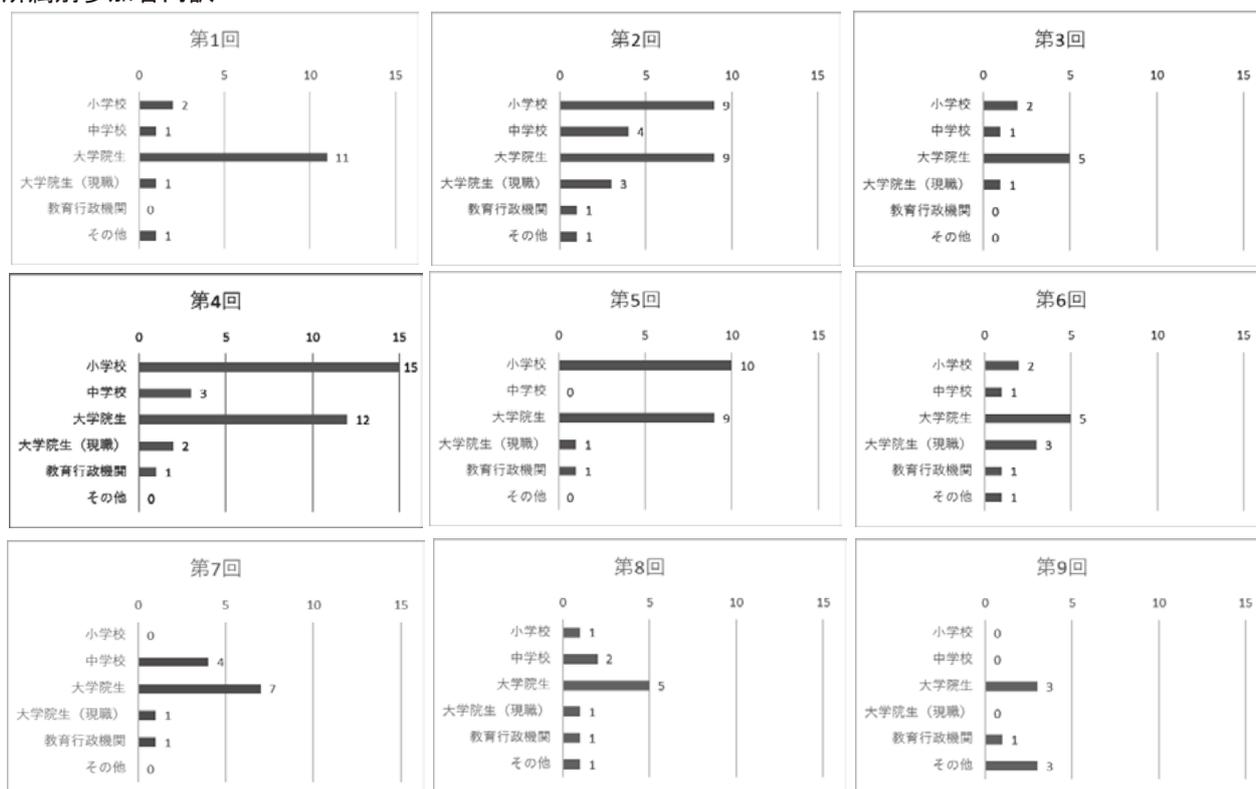
○評価については、文例を示すことはできないものの、各校の紹介による意見交換や、他校の例などの紹介、基本的な考え方の確認など、独立した回を設ける。ただし、道徳授業の充実が評価の前提となるため、この回だけ安易に参加しようとする受講希望者については、受け入れないことを前提としたい。

平成30年度 教職員のための自主セミナー(水曜セミナー)「上廣道徳教育アカデミー 道徳教育セミナー」実施一覧

会場:上越教育大学学校教育実践研究センター

回	実施日	対象・テーマ・内容	講師	参加数
1	5月16日	【初級/推進者/中学校コース】 主題・ねらいの明確化と評価の在り方(概要) ※5/16と5/23は同一内容2回	早川・小宮	16
2	5月23日	【初級/推進者/中学校コース】 主題・ねらいの明確化と評価の在り方(概要)	早川・小宮	27
3	5月30日	【推進者コース】 全体計画と別業(各校持寄り)	早川	9
4	6月13日	【初級/推進者コース】 教科書教材による授業づくり演習と評価 ①自我関与	小宮	33
5	6月20日	【初級/推進者コース】 教科書教材による授業づくり演習と評価 ②役割演技	早川	21
6	7月4日	【初級/推進者コース】 教科書教材による授業づくり演習と評価 ③モラルジレンマ	林	13
7	9月12日	【中学校コース】 授業づくり演習と評価 ①自我関与	小宮	13
8	9月19日	【中学校コース】 授業づくり演習と評価 ②モラルジレンマ	林	11
9	10月10日	【中学校コース】 授業づくり演習と評価 ③役割演技	早川	7
			合計	150

所属別参加者内訳



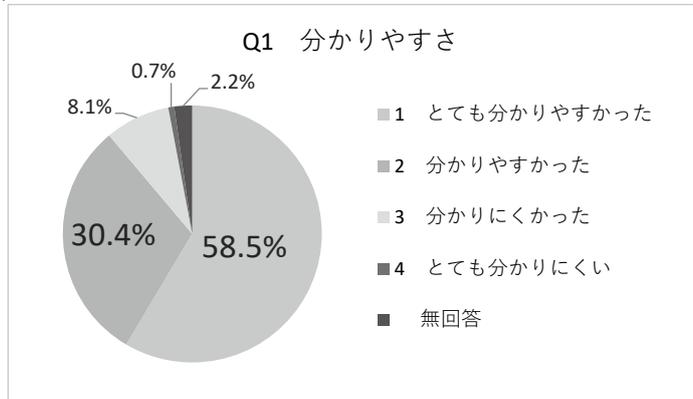
平成30年度 教職員のための自主セミナー（水曜セミナー）
 「上廣道德教育アカデミー 道德教育セミナー」アンケート結果（自由記述除く）

回答数 135（延べ参加者数150名）

アンケート回収率 90.0%

Q1 研修内容は分かりやすかったですか(分かりやすさ)

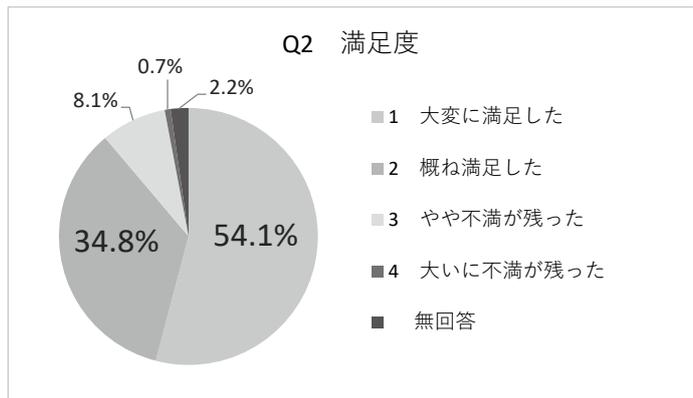
回答番号	回答	%
1	とても分かりやすかった	79 58.5%
2	分かりやすかった	41 30.4%
3	分かりにくかった	11 8.1%
4	とても分かりにくい	1 0.7%
	無回答	3 2.2%



有効回答数（※無効回答0） 135 100.0%

Q2 研修内容は満足のいくものだったでしょうか(満足度)

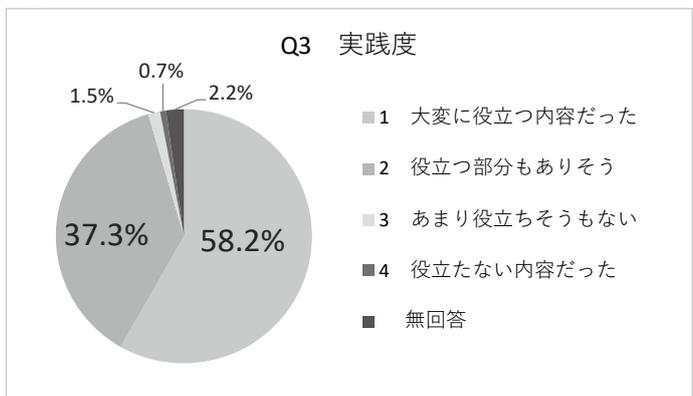
回答番号	回答	%
1	大変に満足した	73 54.1%
2	概ね満足した	47 34.8%
3	やや不満が残った	11 8.1%
4	大いに不満が残った	1 0.7%
	無回答	3 2.2%



有効回答数（※無効回答0） 135 100.0%

Q3 貴校の今後の実践に役立つ内容だったでしょうか(実践度)

回答番号	回答	%
1	大変に役立つ内容だった	78 58.2%
2	役立つ部分もありそう	50 37.3%
3	あまり役立ちそうもない	2 1.5%
4	役立たない内容だった	1 0.7%
	無回答	3 2.2%



有効回答数（※無効回答1） 134 99.3%

③上廣道徳教育アカデミー道徳教育研究大会について

(1) 運営

本年8月21～22日に、上越教育大学との共催で「上廣道徳教育アカデミー道徳教育研究大会」を、上越教育大学を会場として開催した。小学校の道徳の教科化がスタートした直後、来年度からは中学校での実施が始まるというタイミングであり、

- ・教科化に係る諸課題についての情報発信の機会提供、諸問題についての討論の場とする。
- ・教科化を見据えた道徳教育、道徳科授業の様々なスタイルの提案と協議の場とする。

ことを趣旨として開催した。2日間で実質177名の参加者があり、全国の道徳教育実施団体、県外からの教育関係者からも大勢の参加があった。夏季休業中の行事と若干重なりはしたが、県内の小中学校の先生方にも呼びかけ大勢の参加があった。

運営はアカデミースタッフ総勢5名、研究連携課に加え、教職大学院生と学部生合わせて6名で行った。

(2) 内容

<道徳授業ワークショップ>

(1日目 午前10:10～11:30 午後12:20～13:40 講師4名、2会場同時進行で実施)

午前は、

A会場 「道徳科授業のねらいとする価値についてのおさえ」

齋藤眞弓先生(つくば国際大学東風小学校講師) 参加者55名

B会場 「道徳授業づくりと評価」

毛内嘉威先生(秋田公立美術大学教授) 参加者70名

午後は、

A会場 『考え議論する』道徳授業づくりのために必要なこと」

上地完治先生(沖縄道徳セミナー 琉球大学教授) 参加者43名

B会場 「発問を変え、道徳授業を変える」

加藤宣行先生(KTO道徳授業研究会 筑波大学附属小学校) 参加者88名

を実施した。

<シンポジウム> (1日目 13:55～16:30)

テーマ「道徳の教科書の効果的な活用と指導方法の工夫について」

シンポジスト 馬場 勝先生(文部科学省教科書調査官)

毛内 嘉威先生(秋田公立美術大学教授)

田沼 茂紀先生(國學院大學人間開発学部長)

コーディネーター 林 泰成(本アカデミー統括監督者)

以上のテーマ、陣容で実施した。参加者137名であった。

<模擬授業>

(2日目 [研修1] 10:05~11:40 [研修2] 12:40~14:10 講師2名、同一会場で実施)

研修1 「泣いた赤鬼」を教材にして 北川沙織先生(名古屋市立小坂小学校教諭)

参加者96名

研修2 「さかあがり」を教材にして 龍神美和先生(大阪府豊能町立東ときわ台小学校教諭)

参加者104名

<懇親会> (1日目 17:30~19:30)

高陽荘にて約50名の参加で行った。

(3) 成果と課題

- 新潟県内での開催で交通の便が必ずしもよいとは限らない地での開催であったが、全国から、そして県内からも大勢の参加があり、予想を上回る盛会であった。県内の先生の中には大きな影響・刺激を受けた先生も多数おり、また、県内の校長会から高い評価を得た点が非常に心強い。今後継続して開催する意義を感じる。
- ワークショップと模擬授業が多彩な顔ぶれと内容であったことが、高評価であった。即効性のある「発問」や「発言の取り上げ方」、「『心の顔』のような心情の表出法」や「役割演技の手順」といった指導技法から、先生方同士で話し合う形式により方法論でなく授業観まで学べたという幅広さが、先生方それぞれのニーズを満たしたようである。しかし、内容が充実するほどに「もっと時間が欲しかった」という声も数多く頂戴した。また、今回は「教科化元年」という括りを大事にしたため、ワークショップや模擬授業を学校種別に企画しなかった。次からは、小学校と中学校を分ける等の企画が検討されてよい。一つの講座における時間の保証、対象者の検討という課題が明らかになった。
- シンポジウムは、国の教科書作成のトップ、幅広い識見の大学教授2名という最先端のメンバー構成での実施であった。教科化スタート直後であり、3名のシンポジストの情報はそれぞれに貴重であり、情報不足の感があった県内の先生方には聞き応えがあったようである。しかし、聞き手のニーズが多岐に渡っていたため、しかも今回は教科化元年なのでなおさらであったが、その全てに応えられたわけではなかった。(例えば、評価についてもっと聞きたかった等)次はもう少し焦点化したテーマでのシンポジウムが出来そうである。
- 研究開発事業として、平成31年度も本年度同様に本アカデミー主催の道徳研究大会を開催する方向で検討を進めたい。全国からの来訪者、新潟県内の先生方等の利便性を考慮した会場の選定、夏季休業中の各学校の動態を考慮した日程の調整を考慮しつつ準備を進めていきたい。

上越教育大学
上廣道德教育アカデミー

平成30年度
上越教育大学 上廣道德教育アカデミー
道德教育研究大会のご案内

小学校においては道德が教科化されて1学期間が終了いたしました。中学校においては次年度からの本格実施のために教科書が採択される時期です。今一度、全国の実践研究団体のメンバーの皆様とともに、教科書の有効な利用や指導の工夫の在り方などについて研鑽し合い、具体的な実践的理解や、意見交流を図る研修の場を持ちます。是非お誘い併せの上ご参加ください。

テーマ『道德教科書の効果的活用と指導方法の工夫』

期 日：8月20日（月）9：45～16：30 懇親会 17:30～19:30

8月21日（火）10：00～14：30

会 場：国立大学法人上越教育大学（新潟県上越市山屋敷町1番地）

参加者：150名

主 催：国立大学法人上越教育大学 上廣道德教育アカデミー

共 催：公益財団法人上廣倫理財団

後 援：新潟県教育委員会、上越市教育委員会、新潟県・新潟市小学校教育研究会
新潟県中学校教育研究会

〈大会実行委員長〉

上越教育大学上廣道德教育アカデミー 所長

上越教育大学大学院教授

早川 裕隆

TEL/FAX 025-521-3515

E-mail hayakawa@juen.ac.jp

〈事務局・連絡先〉

上越教育大学上廣道德教育アカデミー

特任教授

大会実行委員会事務局長 小宮 健

住所 〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地

TEL / FAX 025-521-3323 / 025-521-3305

E-mail academy@juen.ac.jp

ホームページ <http://www.juen.ac.jp/400academy/>

平成30年度 研究大会実施要項

日 程 (敬称略)

◆ 1日目 ◆ 平成30年8月20日(月) 9時15分より受付開始

09:15		●受付開始
09:45		開会式 特別講義室(講301)
10:10		●道徳授業ワークショップ(午前)
		A会場(人113): 齋藤 眞弓(つくば国際大学東風小学校講師) 「道徳科授業のねらいとする価値についてのおさえ」 B会場(講201): 毛内 嘉威(秋田公立美術大学教授・副学長) 「道徳授業づくりと評価」
11:30		休 憩 (昼 食) ※学生食堂を利用できます。
12:20		●道徳授業ワークショップ(午後)
		A会場(人113): 沖縄道徳セミナー(上地 完治: 琉球大学教授) 『考え、議論する』道徳授業づくりのために必要なこと ～教師も考え議論しよう～ B会場(講201): KTO道徳授業研究会(加藤 宣行: 筑波大学附属小学校) 「発問を変え、道徳授業を変える」
13:40		休 憩
13:55		●シンポジウム: テーマ「道徳の教科書の効果的な活用と指導方法の工夫について」 特別講義室(講301)
		○シンポジスト 馬場 勝(文部科学省教科書調査官)(提案 14:00 ~ 15:00) 毛内 嘉威(秋田公立美術大学教授・副学長)(提案 15:00 ~ 15:20) 田沼 茂紀(國學院大學人間開発学部長) (提案 15:20 ~ 15:40)
		○コーディネーター 林 泰成(上廣道徳教育アカデミー統括監督者・上越教育大学副学長)
16:30		終 了
17:30		●懇 親 会 (場所: 高陽荘: 上越市西城町3-6-22) 会費 5,000 円 ※希望者には、会場までバスが利用できます(参加申込書での事前申し込みが必要)
19:30		終 了

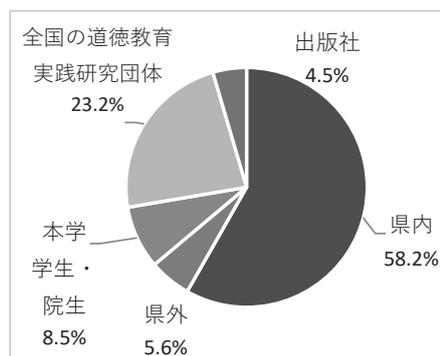
◆ 2日目 ◆ 平成30年8月21日(火) 9時30分より受付開始

09:30		●受付開始 (講301)
10:00		開会
10:05		●模擬授業 研修1 (講301)
11:40		北川沙織(愛知県名古屋市立小坂小学校教諭)
		休 憩 (昼 食) ※学生食堂を利用できます。
12:40		●模擬授業 研修2 (講301)
		龍神美和(大阪市立ときわ台小学校教諭)
14:10		●閉会行事・終了

平成30年度 上越教育大学上廣道德教育アカデミー—道德教育研究大会 参加者集計

所属別

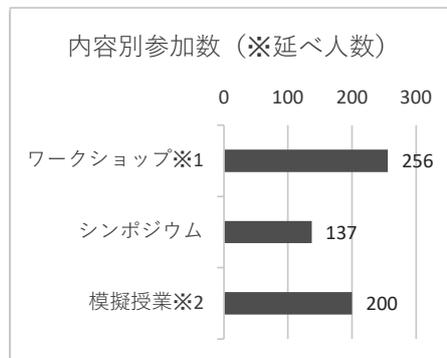
所属区分	参加数	%
県内	103	58.2%
県外	10	5.6%
本学学生・院生	15	8.5%
全国の道德教育実践研究団体	41	23.2%
出版社	8	4.5%
全参加数	177	100.0%



内容別参加数

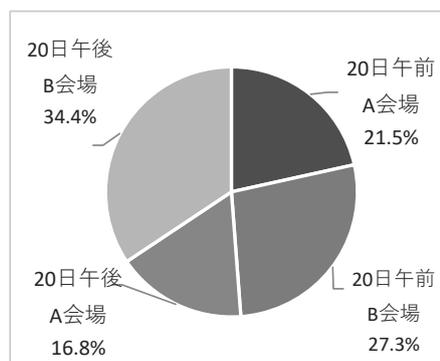
参加内容	参加数	※延べ人数
ワークショップ※1	256	※延べ人数
シンポジウム 「道德の教科書の効果的な活用と指導方法の工夫について」	137	
模擬授業※2	200	※延べ人数

※ワークショップは20日と21日の午前・午後で各2会場の全4会場、模擬授業は午前・午後で全2会場開催の為延べ人数



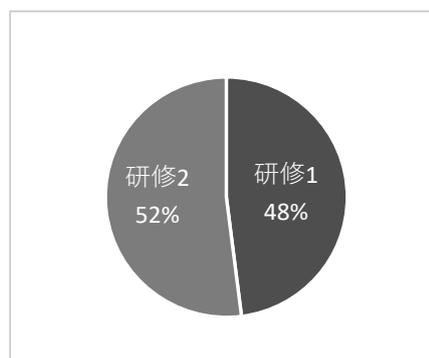
※1 ワークショップ内訳

参加内容	参加数	%
20日午前 A会場 「道德科授業のねらいとする価値についてのおさえ」	55	21.5%
20日午後 B会場 「道德授業づくりと評価」	70	27.3%
21日午前 A会場 「『考え議論する』道德授業づくりのために必要なこと～教師も考え議論しよう～」	43	16.8%
21日午後 B会場 「発問を変え、道德授業を変える」	88	34.4%
ワークショップ参加数	256	100.0%



※2 模擬授業内訳

参加内容	参加数	%
研修1 教材名「泣いた赤鬼」	96	48.0%
研修2 教材名「さかあがり」	104	52.0%
模擬授業参加数	200	100.0%



平成30年度 上越教育大学上廣道德教育アカデミー道德教育研究大会 アンケート結果（自由記述除く）

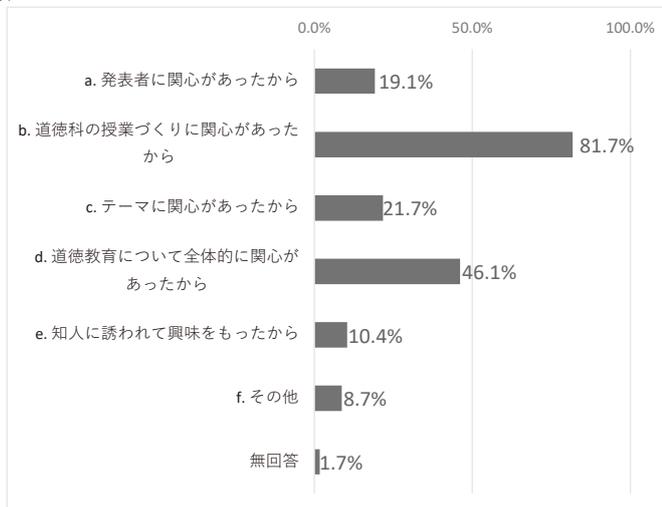
回答数 115（参加者数177名）

アンケート回収率 65.0%

Q1 大会では何に参加されましたか。 ※別途参加者集計あり

Q2 本大会に参加された理由をお教えてください。（複数回答可）

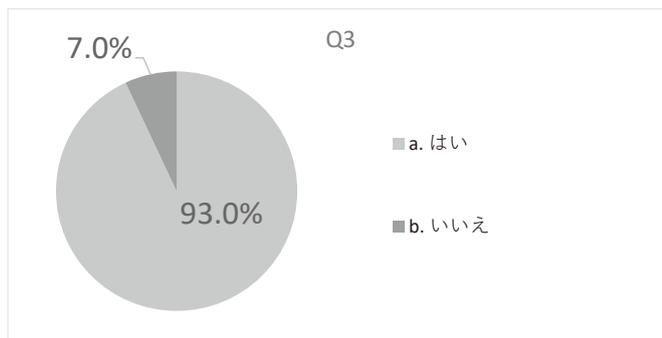
回答番号	回答	%
a.	発表者に関心があったから	22 19.1%
b.	道德科の授業づくりに関心があったから	94 81.7%
c.	テーマに関心があったから	25 21.7%
d.	道德教育について全体的に関心があったから	53 46.1%
e.	知人に誘われて興味をもったから	12 10.4%
f.	その他	10 8.7%
	無回答	2 1.7%



有効回答数（※無効回答0） 115

Q3 開催日については、適当でしたか。

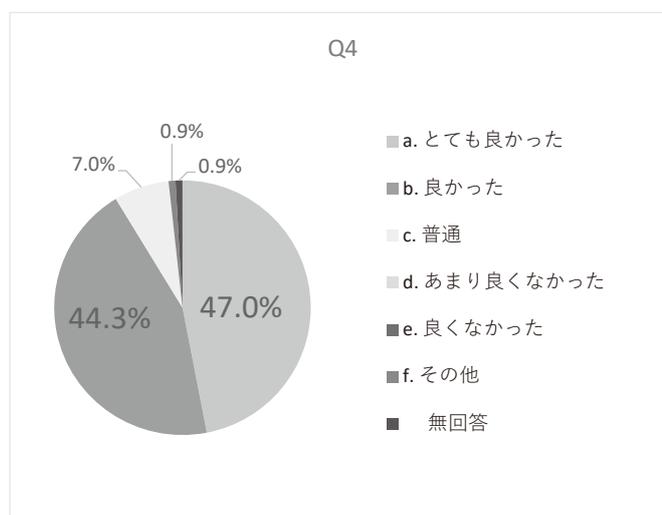
回答番号	回答	%
a.	はい	107 93.0%
b.	いいえ	8 7.0%



有効回答数（※無効回答0） 115 100.0%

Q4 本大会の内容はいかがでしたか。（一つ選択）

回答番号	回答	%
a.	とても良かった	54 47.0%
b.	良かった	51 44.3%
c.	普通	8 7.0%
d.	あまり良くなかった	0 0.0%
e.	良くなかった	0 0.0%
f.	その他	1 0.9%
	無回答	1 0.9%



有効回答数（※無効回答0） 115 100.0%

令和元年度事業計画と事業報告（概要）

1) 上越教育大学上廣道德教育アカデミーの目的

公益財団法人上廣倫理財団からの寄附により、平成30年4月1日、本学に設置された寄附研究部門である上越教育大学上廣道德教育アカデミーは、次のような設置目的を持つ。

教科化された「特別の教科 道德」(道德科)について、学校現場の教員が子どもたちに対し充実した授業展開ができるよう、研修と研究を推進することを設置の目的とする。

2) 開設当初の活動目標（年度は令和に修正）

- ①新潟県上越地区や新潟県内の義務教育諸学校並びに高等学校、及び教育委員会、教育センター、道德教育の充実に関する研究団体等を中心に（平成30年度の重点）、広く県外の義務教育諸学校並びに高等学校、及び教育委員会、教育センター、道德教育の充実に関する研究団体もその対象として拡げながら（令和元年度）、道德教育やその要としての「特別の教科 道德」（道德科）の推進・充実に関する研修の場において、研修カリキュラムを展開する。
- ②①で提供する推進・充実のための研修カリキュラムの内容を実践的に検討し、カリキュラムの充実や開発の研究を行う。（平成30年度から継続して行う）
- ③上越教育大学と協働しながら、教員や教員を目指す大学院生、学生を対象とした研修会を開催する。（平成30年度から継続して行う）
- ④以上の活動を通して開発されたカリキュラムを、研究大会、シンポジウム、学会発表など様々な場で提供、発表し、道德教育や道德科、並びに倫理のさらなる推進・充実に寄与する。

		平成30年度	令和元年度	令和2年度
研修・人材育成	環境整備	▶		
	研修会の講師	▶		
	研修会の企画	上越教育大学学校教育実践研究センター 自主セミナー(水曜セミナー) ▶		
		記念シンポジウム →・開所式(記念講演) ・研究大会	研究大会 研究会組織立ち上げ	研究大会/シンポジウム 合同研修会登録
			研修講座の企画・運営	研修講座の企画・運営
研	プロジェクト研究	▶		
	個人研究	▶		
究	情報収集・発表等	研究会等での活動内容説明	学会・研究会	学会・研究会/書籍等企画
	ホームページ	開設	改訂	大改訂(成果公表)
	報告	報告書	報告書/パンフレット …中間発表	報告書/パンフレット等 成果発表
	運営諮問委員会	各年度毎に1回実施		

3) - 1 活動報告(概要): 活動内容(3つの柱)を中心に

①.【研修会等への無償による講師派遣事業】

教員の道徳科に関する授業力の向上、学校での道徳科授業や道徳教育の充実、推進のため、各学校、教育委員会、教育センター、各種研究団体主催の研修会等に、本アカデミーの職員を、無償にて講師として派遣する

派遣件数...延べ122回

【派遣先】

- 県内88件(うち、佐渡5件)
- 県外32件
 - ・千葉県 12件 ・石川県 14件
 - ・富山県 2件 ・長野県 1件(2人)
 - (合同研 東京1件, 栃木県2件)
- 学会大会2件
 - ・大分県(2人) 1件
 - ・県内 1件



延べ参加人数：2, 852人

派遣依頼機関

- 小学校
 - ・県内 20 (うち、佐渡 3)
 - ・県外 13
- 中学校
 - ・県内 18 ・県外 5
- 教育委員会・教育センター
 - ・県内 5 ・県外 3
- その他
(高等学校, 小中一貫校等)
 - ・県内 2
- 学会
 - ・日本道徳教育学会新潟支部
 - ・日本臨床心理劇学会(大分)
- 研究会等 15



②.【研修講座の開設・実施】

質の高い多様な道徳科の授業、道徳科の理解、道徳科の評価、道徳教育推進のための計画づくりや体制づくりなど、大学、地域の教育センター等と連携し、**道徳教育の研修講座を開設・実施**する。

※ 上越教育大学学校教育実践研究センターにおける「教職員のための自主セミナー」で「上廣道徳教育アカデミー 道徳教育セミナー」を開設。

今年度、6回実施

→延べ参加人数 52名



③.【研修プログラムの構築と、道徳教育に関わる新しいスタイルの探究】

公益財団法人上廣倫理財団と連携し、全国展開できる研修プログラムの構築並びに道徳教育や道徳科授業の様々なスタイルを探究していく。

令和元年8月20日

「第2回上越教育大学上廣道徳教育アカデミー
道徳教育研究大会 長岡大会」

(会場:アトリウム長岡)

- ・基調講演「道徳教育の未来
～教科化後の課題を考える～」
- ・道徳授業づくりワークショップ(小低・小高・中学)
- ・シンポジウム
「道徳の教科化 ～その工夫と課題～」

→参加人数**106名**



その他

○学会における活動

「日本道徳教育学会新潟支部第 23 回大会」（令和元年 11 月 2 日）において「子どもたちと共に創る道徳授業－模擬授業「泣いた赤鬼」を通して－」（小宮 健）で、また、「第 45 回日本臨床心理劇学会大分大会」（令和 2 年 2 月 22 日）において、ワークショップ「道徳教育とロール・プレイング」（早川裕隆，小宮 健）を担当し、研修プログラムの一部を展開した。

○研究会の立ち上げ

令和 2 年 3 月 9 日、「越後 道徳ときめき研究会」を立ち上げ、合同研究会への登録を申請した。

4) 活動報告：人事

1. 特任教授の増員…1名

平成 31 年 4 月 1 日より、田村 博久 特任教授を採用。着任。

2. 研修支援コーディネーターの交代

- ・佐藤 賢治：平成 31 年 3 月 31 日をもって退任。
- ・平成 31 年 4 月 1 日より、岩城 淑樹を採用。着任。

5) 活動計画と活動の実際の違い等(今年度の重点を中心に)

① 研修会への無償による講師派遣事業

■新潟市立総合教育センター主催の研修講座への講師派遣

- ・新潟県立教育センター主催の研修会に講師派遣実施（昨年度からの継続）
- ・県教委主催の「パワーアップ研修会」（各市町村教育委員会指導主事や推進教師などの参加）では、書籍を配布しての研修会実施。その際、アカデミーの活動も報告・宣伝。
- ・新潟市小学校教育研究会道徳部会主催の研修会に講師派遣（昨年度からの継続）

◇新潟市教育委員会・新潟市立総合教育センターからの派遣要請はなし。

◇長野県については、昨年度と同様、長野県総合教育センターにて、1 日講座を 2 名で担当

■富山県、富山市、高岡市、氷見市の教育センター主催の研修講座への講師派遣（今年度中に、説明、交渉の予定。遅くとも、令和 2 年度からの開催を目指す。）

◇教育委員会・教育センターからの依頼は無し。

◇黒部市立生地小学校及び、高岡市立中田小学校における校内研修会に講師派遣（担当:早川）

◇来年度、令和 2 年 8 月 17 日、魚津地区教育センター協議会（朝日町、入善町、黒部市、魚津市の 4 地区の教育センター組織）への講師派遣決定（担当:早川）

■石川県、白山市の教育センター主催の研修講座への講師派遣（令和元年度中に説明、交渉を行い、令和 2 年度開催を目指す。）

◇教育委員会・教育センターからの依頼は無し。

◇石川県内の学校からの派遣依頼は 14 件

② 道徳教育の推進・充実に関する研修カリキュラムの充実や開発の研究(継続)

■効果測定に関する基礎研究を行い、評価の充実と、今後のプログラム開発の基礎とする。

◇今年度のアンケートには、研修内容の、今後の活用について問う項目を加えるなど、見直しを図った。

この結果を現在集計中であり、これを基に、さらに数量的な分析を可能とする具体的な設問の工夫を予定している。

③ 上越教育大学との協働による、研修会の開催(継続)

■道徳教育研修大会の開催

・8月開催予定(1日)…平成30年度の反省を生かした日にちの決定を行う

・長岡造形大学での開催を検討する。

・小・中の学校種毎に分かれた具体的な授業づくりワークショップを内容とする。

◇会場は、アトリウム長岡であったが、8月20日に実施。基調講演やシンポジウムの他に、

①小学校低学年 ②小学校中学年 ③中学校の3つに分けての授業づくりワークショップ

を実施した。

④ 研究大会、シンポジウム、学会発表など、開発されたカリキュラムを提供

■令和元年度は、北海道大学における「日本心理劇学会大会」(10月12日～14日 予定)

での、上廣道徳教育アカデミー主催のワークショップ発表の実施を検討(教員対象とした、校種別ワークショップの開催も検討予定)

■②の成果を生かした研究デザインの作成と、データの収集

◇「日本心理劇学会」からの要請はなかったため、参加しなかった。

だが、令和2年2月22日に別府大学を会場に実施された「日本臨床心理劇学会」において、役割演技による授業づくりに関するワークショップ(5時間)の依頼があり、早川、小宮の2名で講師として、ワークショップを開設した。

■特別支援学校における道徳授業の在り方を明らかにする研究のための基盤となる、調査・基礎研究の検討、開始(熊本大学附属特別支援学校におけるロール・プレイングの道徳科への応用発展をベースにすることの可否の検討を中心に)。

◇9月に熊本大学附属特別支援学校において、自立活動におけるロール・プレイングの実際を参観し、道徳科における役割演技の活用についても、情報収集と情報交換を行った。

今後、今回の参観校と連携した研究の取り組みについても視野に入れた検討をしていきたい。また、参観内容をもとに、カリキュラムの作成などを行い、予備研究として、県内の学校と協働した研究の在り方を探りたい。

① 派遣事業

(1) 成果

<アカデミーの周知について>

開設2年目の本年度は、新潟県教育委員会、新潟県立教育センターをはじめ県内の小・中学校校長会にも出向き周知活動を行い、更に本学の近隣市から範囲を広げ、県内の新潟市、長岡市にも足を運び、周知活動を拡大した。

前年度よりアカデミーが周知されていたことから、年度の始めである4月の派遣依頼を皮切りに、本年度も県内の小中学校、行政、研究団体より多数の研修への講師派遣依頼があった。更に高校からの依頼もあった。研修コーディネーターによる継続的な情報提供、周知活動により、派遣依頼は続いている。

<テキスト「道徳科 Q&A ハンドブック」の配布と活用>

本年度も研修訪問校には漏れなくテキストとして「道徳科 Q&A ハンドブック」を研修に参加した先生方個々に配布し、必要に応じて研修の中で活用してきた。本年度の配布総数は1,850冊である。Q&Aの形式により、先生方の疑問に合わせてどこからでも読むことが出来、大変好評であった。

<派遣依頼の機関について>

講師として多くの学校・行政・研修団体の派遣要請に応じてきた。

県内の小・中学校の派遣先は、県内の10市（新潟、長岡、上越、糸魚川、柏崎、見附、佐渡、南魚沼、加茂、三条）に及んでいる。行政では、新潟県教育委員会（新潟県立教育センター）、上越市教育委員会、柏崎市教育委員会、佐渡市教育委員会、三条市教育委員会、そして新潟県・新潟市の小学校教育研究会道徳部会、柏崎市刈羽郡中学校長会の依頼にも応えてきた。また、日本道徳教育学会新潟支部、日本臨床心理劇学会をはじめ、研究研修団体からも多くの依頼があった。

県外では、近隣の富山県高岡市、黒部市の小学校からの依頼にも応えた。他に石川県、千葉県からも多くの依頼があった。

また、上越教育大学と長野県総合教育センターとの連携講座（※詳細は別途記載）の中に、本アカデミーによる「道徳の授業づくり」の講座を開設させていただいた。

これらの学校・行政・研修団体とのつながりを大切にしていくことにより、次年度以降の派遣依頼のニーズが生まれ、研究開発における協力依頼等を円滑に進めることが可能になると思われる。

<実績と評価>

中学校が教科化初年度、小学校が2年目を迎え、各学校、行政、研修団体からの依頼内容には、温度差も感じられた。中学校の中には「道徳の教科化が始まったので留意すべき事項を学びたい」という率直な要望もあったが、「講話はなくてもよいから、実際の授業をやって見せて欲しい」「教員対象の模擬授業を体験させて欲しい」「模擬授業を通して教師の役割について考えたい」等、具体的な要望も多く見られるようになってきた。

示範授業を実施する際も、「この学年、この教材でお願いしたい」「偉人の教材で」「生命尊重の内容で」といった、学校内の道徳科授業の課題や先生方の困り感に対応した要望も増えてきた。

昨年度、数多く寄せられた「何でも良いので講話を」「評価について教えてほしい」といった受動的な要望は大きく減り、先生方対象の模擬授業、アカデミー所員による示範授業の要望が多数を占めた。

先生方が、理論と同時に具体的な授業力を身に付けたいと意欲的になってきたためであろう。アカデミーによる派遣事業の存在意義の一つが「先生方対象か児童生徒対象の授業」を実際にやって示すことにあるという点が、明確になってきたところである。

本年度の派遣事業を俯瞰して明らかになりつつあるのは次の点である。

教科書の教材を用いた模擬授業によって「考え議論する道徳」の一例を、頭で理解するのではなく「体感」して理解していただけたようである。子どもの立場になり、人の意見をじっくり聞いてみる、自分の考えを素直に思いのまま話してみるといった体験、どんな意見も教師が受容し価値づけてくれる安心感や喜び等を体験することにより、道徳授業のイメージづくりに役だったようである。

また、多くの先生方は、道徳授業では「一定の型がある」「間違えてはいけない」「ねらいに到達しなければならない」といった迷信に近い認識があったが、「もっと簡単に考えて良いのだ」「ねらいをしっかりと立てれば良いのだ」「子どもが考えたくなる発問が大事なのだ」等、個々に気づきがあり、「目からうろこが落ちた」という言葉を聞くことも多かった。

指導要領に示された「質の高い指導方法」である問題解決的授業、体験的な活動（役割演技）についても示範授業、模擬授業を通して具体を示すことができた。学んだことを活かして、「次は自分達が行う授業を参観し、助言してほしい」という新たな派遣依頼に繋がるケースもあった。

今までの、「教えなければならない」授業から、「先生が教えるのではなく、子どもが考え発見する」授業へと、先生方の道徳の授業観は変わりつつある。「楽しい授業をしたくなった」と先生方や学校全体が前向きに元気になっていくのを目の当たりにすることも多くなってきた。また、評価についても、関心は「通知表の文言」から、授業中・授業後の評価へと移ってきた。先生方の中にも「良い授業をしなければ良い評価など出来るはずがない」といった考えが浸透し始めたようである。

(2) 課題

<派遣先の拡大>

県内の多くの機関からの派遣依頼には引き続き応えつつ、近隣の県の依頼にも応えられるよう、範囲の拡大を図る。本年度も富山県からの依頼があったが、富山県、石川県、長野県へと拡大しアカデミーの周知を図る。

<近隣の小中学校への派遣>

派遣先の拡大を図る一方で、地元の小中学校も大事にしていく必要がある。この2年間で本アカデミーの地元上越市の小中学校からの派遣依頼は26校である。これは上越市内の小中学校等75校の約3分の1である。本学がお世話いただいている学校ばかりである。依頼がまだ来ない学校へ積極的に働きかけ、道徳教育に少しでも貢献したいところである。

また、2年続けて依頼がある学校もあり、継続していくことにより先生方の意欲、授業の質が高まっている学校もある。これらの学校との繋がりを大事にし、新たな取り組みへと発展していける素地を作っていきたい。

<特別支援教育の道徳授業>

昨年度来、特別支援教育に携わっている先生方から、「特別支援学校・学級での、道徳授業はどうしたらよいですか？」という質問を受ける機会が頻繁にある。アカデミー所員には特別支援教育の現場経験者がおらず、道徳指導も未経験であることから、昨年度は千葉県立印旛特別支援学校、本年度は

熊本大学教育学部附属特別支援学校に出向き、道徳授業の実際を参観させていただき取り組みについて説明を受けてきているところである。今後も特別支援教育における道徳教育の動向について情報収集を重ねながら、実践校の取り組みについても研鑽していく必要がある。

＜継続的なアカデミーについての情宣活動の必要性＞

本アカデミーの存在についての周知活動はパンフレットの更新、配布をはじめ、継続的に行う必要がある。徐々に依頼の範囲が県内広域へと拡大していったが、折々に研修コーディネーターによる継続的な情報提供、周知活動が必要である。

※長野県教育委員会と上越教育大学連携による教育研修講座（報告）

- ・日 時 令和元年7月25日（木） 9:40～16:10
- ・場 所 長野県総合教育センター（長野県塩尻市）
- ・担 当 早川 裕隆、小宮 健
- ・内 容 「道徳授業づくりの理論と実践」
 - ① 道徳授業づくりで大切なこと
 - ② 道徳科の評価の在り方
 - ③ 道徳授業づくりの実際 一 道徳的行為に関する体験的な学習を中心に—
小学校教材で（小宮） 中学校教材で（早川）

※なお、この講座は、講座で学んだことを事項での研修で広めていくことが課題として受講生に課せられている。

以下、感想の一部を紹介する。

—講話—

- ・教科化に伴い何が変わったのか要点をまとめて説明をしていただき、とても参考になった。
- ・道徳科の目標について細かく知ることができた。
- ・具体的なねらいがあることで、評価しやすくなると感じた。
- ・午前の理論から、午後の実践がとても分かりやすかった。

—模擬授業—

- ・実際にロールプレイをさせていただき、様々な視点から教材を見ることの大切さを知った。
- ・教材の扱い、発問、板書、ロールプレイの仕方、ロールプレイの発問がよく分かった。
- ・授業での生徒の考えの引き出し方を見せていただいた。
- ・発問の大切さ、問い返し大切さを改めて感じた。
- ・他の先生方の色々な考えを聞きながら、自分の考えを広げたり深めたりすることを体験させていただいた。
- ・役割演技に向かうための基盤に、きちんと共有された人物、心情、状況の理解が大切だと感じた。
その上で行われる役割演技は、教材をより豊かに自分事として捉えていくツールになると感じた。
- ・道徳科の授業の質的転換を考えた時に、評価のための授業にならない方法を教わった気がする。

上越教育大学流
JOETSU UNIVERSITY OF EDUCATION

国立大学法人
上越教育大学
Joetsu University of Education

長野県教育委員会

2019 長野県教育委員会と上越教育大学教職大学院連携による

教員研修講座

上越教育大学教職大学院教科教育・学級経営実践コース、長野県教育委員会の連携による学校力・学力の向上を目指す研修講座を開設します。学校や教職員を取り巻く様々な教育課題が表出し、その早急な解決が求められています。長野県にとっての教育課題を決めだし、その解決に向けて5日間にわたり大学教員がそれぞれの研究をもとにわかりやすく語ります。実力向上を感じられる講座となることでしょう。みなさんのご参加をお待ちしております。



会場 長野県総合教育センター

長野県塩尻市片丘南唐沢6342-4

日程 6/21(金)・7/25(木)・8/5(月)
8/26(月)・9/17(火)

9:40～16:10 ※詳細は、総合教育センター発行の研修講座案内をご覧ください。

対象 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等に勤務する教職員

申込方法 県内の方は、長野県総合教育センターの研修講座への申込方法と同一です。県外の方で受講を希望される方は、下記問い合わせまで連絡して下さい。



お問い合わせ ご不明な点等ありましたら、E-mailでお問い合わせください。
E-mail: katagiri@juen.ac.jp
(上越教育大学教職大学院教科教育・学級経営実践コース 准教授 片桐 史裕)



講座コード・講座名	担当	テーマ	研修の概要
「プログラミング教育初めの一歩講座」 3-8-01-01 アンブラグドと ドローンによるプログラミング 教育の基礎と実践 6月21日(金) 定員20名	午前 大島 崇行 准教授 片桐 史裕 准教授 (上越教育大学教職大学院 教科教育・学級経営実践コース) 午後 桐生 徹 教授 (上越教育大学教職大学院 教科教育・学級経営実践コース)	プログラミング的思考 入門編 プログラミングの授業 実践編	一連の活動を実現するために、最適な言語や記号の組み合わせを考える活動を、ICT機器を使わないで行う授業プランを提案します。それらを実際に行ってみて、その授業プランを改善していきましょう。 プログラミングが初めての方を対象に iPad を用いて演習を行います。スクラッチで画面上の2点間を移動するプログラム、ドローンで空間を移動するプログラム等を通して、子どもと同じ学びの過程を体験しながら、このプログラミング教育という学習方法を理解していきましょう。
「道徳授業づくり講座」 3-8-01-02 道徳授業づくりの 理論と実践 7月25日(木) 定員20名	早川 裕隆 教授 (上越教育大学教職大学院 教科教育・学級経営実践コース) (上廣道徳教育アカデミー所長) 小宮 健 特任教授 (上越教育大学上廣道徳教育アカデミー)	道徳授業づくりの理論 と実践	①道徳授業づくりで大切なこと ②道徳科の評価の在り方 ③道徳授業づくりの実際—道徳的行為に関する体験的な学習を中心に一等をテーマに、2人の講師で受講者の先生方の不安や疑問に応えながら、具体的な授業実践を可能とする授業力の向上を目指します。特に午後は、小学校と中学校の模擬授業を行います。主題や具体的なねらい、効果的な発問や補助発問、道徳的諸価値の理解や生き方に関する理解を深める具体について、実践的に理解をしていきましょう。
「ICT の初歩の初歩講座」 3-8-01-03 授業での ICT 活用の 基礎と実践 8月5日(月) 定員20名	午前 榑原 範久 准教授 (上越教育大学教職大学院 教科教育・学級経営実践コース) 午後 水落 芳明 教授 (上越教育大学教職大学院 教科教育・学級経営実践コース)	明日から使える簡単 ICT 活用術 初めての先生向き iPad の活用	ICT の研修と聞くと気分が乗らない ICT が苦手な人のための講座です。基本的な ICT の役割を知り、授業場面での簡単な使い方を ICT 機器に触れながら体験的に実践します。苦手意識を興味に変えるための講座内容です。 iPad を授業で使ってみませんか?新しい知識は必要ありません。初めての方ができるようにするための講座です。iPad 等をご用意いただく必要もありません。使ってみようと思う気持ちだけをもってご参加ください。
「学級経営の評価と実践」 3-8-01-04 効果的な集団づくり 8月26日(月) 定員20名	午前 岡田 広示 准教授 (上越教育大学教職大学院 教科教育・学級経営実践コース) 午後 赤坂 真二 教授 (上越教育大学教職大学院 教科教育・学級経営実践コース)	学級経営の評価 指導力の高い教師の 知識・技術	グループワークで学級経営における評価規準の作成を行い、学級経営の今日的な課題と傾向を把握します。その評価規準表を活用して今後予想される課題の予防と解決方法を考え、年度後半の学級経営計画を作成します。 効果的な指導をしている教師たちは、どのような考えの元にどのようなことをしているのでしょうか。研究や実践をもとに考えます。
「主体的・対話的で深い学びの授業づくり」 3-8-01-05 算数・数学と国語での 「深い学び」 9月17日(火) 定員20名	午前 松沢 要一 教授 (上越教育大学教職大学院 教科教育・学級経営実践コース) 午後 佐藤多佳子 教授 (上越教育大学教職大学院 教科教育・学級経営実践コース)	深い学びを実現する算数・ 数学の教材アレンジ 深い学びを実現する国語 授業デザイン	算数・数学の授業で、子供たちに「問い」が生まれているでしょうか?深い学びを実現するためには、教科書教材をアレンジし、「問い」が発生するような仕掛けが必要です。教科書教材のどの部分をどのようにアレンジしたらよいかを、具体的に考えてみましょう。 国語科における「深い学びの過程」とはどのようなものなのでしょうか。実際に作品を読みながら「深い学びの過程」を体験し、「問い」や学習デザインを参加のみみなで考えるワークショップ中心の講座です。

令和元年度 派遣事業研修内容一覧

回数	実施日	市町村名	校種・所属別	学校名等	参加人数	担当	内容等	講話	道徳科の評価	模擬授業	授業づくり演習 授業公開	示範授業	その他
1	4月3日	上越市	中	潮陵中	9	小宮・田村	道徳科の教科化実施にあたって 道徳の教科科が目指すもの、道徳の目標、指導方法 模擬授業(二通の手紙、銀色のシャープペンシル)	1 1		1			
2	4月22日	佐渡市	小	小木小	25	小宮	授業参観(第3学年) 師範授業(第3学年) 講義「道徳科における主体的な学び」	1 1 1			1	1	
3	4月26日	長岡市	中	栖吉中①	16	小宮	全クラス公開道徳				1		
4	5月8日	上越市	小	高田西小(事前)		小宮	事前打ち合わせ						1
5	5月9日	上越市	小	高志小(事前)		小宮	事前打ち合わせ						1
6	5月13日	上越市	小	高田西小①	21	小宮	職員対象の研修 職員を児童と見立てた道徳授業 教師の働きかけ「共感」「共鳴」「承認」「価値づけ」「焦点化」「整理」「確認」「つなぎ」などを盛り込んだ授業	1 1		1			
7	5月14日	糸魚川市	小	糸魚川東小(事前)		小宮	事前打ち合わせ(糸魚川東小の研究について、講演の内容について、模擬授業の内容について)						1
8	5月14日	糸魚川市	小	西海小(事前)		小宮	事前打ち合わせ(職員アンケートより道徳の評価について、当日の研修内容について、当日の日程調整について)						1
9	5月16日	上越市	小	高志小	27	小宮	模擬授業 道徳授業に関する質疑応答	1		1			
10	5月17日	長岡市	中	南中①	23	田村	示範授業 講義「本時の授業・評価について」「道徳授業の展開例・工夫等」	1 1					1
11	5月20日	上越市	中	中郷中	11	田村	中2師範授業 講義「道徳化の授業づくりと評価について」	1 1					1
12	5月20日	糸魚川市	小	西海小	12	小宮	道徳の評価 道徳の授業の進め方について	1 1	1				
13	5月21日	上越市	小	黒田小(事前)		小宮	事前打ち合わせ						1
14	5月23日	上越市	小	谷浜小(事前)		小宮	事前打ち合わせ						1
15	5月27日	上越市	中	板倉中①	21	田村	授業参観 参観授業や授業づくりについての意見交換 授業づくりや研究の方向性についての指導・講話	1 1	1				
16	5月27日	糸魚川市	小	糸魚川東小	22	小宮	多面的・多角的に考え、議論が深まる授業づくりについて(発問や形態の工夫、アプローチの仕方等) 模擬授業 評価方法について	1 1		1			
17	5月28日	新潟市	中	金津中	11	田村	模擬授業「いじめ」に対する意識の向上を図る教材 講義「全員の意見を引き出す工夫・方法について」 講義「見取りを生かす評価方法・評価の観点について」	1 1 1	1				
18	5月30日	新潟市	中	巻東中	26	田村	授業参観 全体研修・講演「考え議論する道徳科の授業づくり、振り返り」	1 1			1		
19	5月31日	上越市	小	清里小①	13	小宮	実践する資料の分析 役割演技を取り入れた指導案検討 授業での振り返りの在り方 役割演技以外の手法、議論する道徳の授業の在り方	1 1 1 1		1			
20	6月3日	上越市	小	黒田小	13	小宮	5年生を対象にした師範授業 職員向け研修	1 1					1
21	6月4日	上越市	センター	上越市教育センター①	9	小宮	小学校対象、模擬授業を通して道徳科の指導方法を学ぶ	1		1			
22	6月4日	上越市	小	南川小(事前)		田村	事前打ち合わせ						1
23	6月5日	柏崎市	中	第五中①	14	林	道徳教育全般に関する内容(仮)	1	1				
24	6月5日	上越市	中	春日中(事前)		田村	事前打ち合わせ						1
25	6月6日	新潟市	中	山の下中	28	早川	どう評価すればよいか 学び合いのある道徳授業にするために	1 1	1				1
26	6月6日	上越市	小	高士小(事前)		小宮	事前打ち合わせ						1
27	6月10日	上越市	小	谷浜小①	10	小宮	師範授業(5年生) 授業についてのグループ協議、講義	1					1
28	6月11日	上越市	中	春日中①	24	田村	師範授業 講義(評価について)	1 1					
29	6月13日	加茂市	中	須田中①	9	田村	授業研究(2年生) 協議会、当校の道徳の取組へのアドバイス・指導	1 1			1		
30	6月14日	三条市	教委	三条市教育委員会	47	早川	「特別の教科 道徳」の目指すもの 「考え議論する道徳」における多様な指導方法について 道徳の評価について	1 1 1	1	1			
31	6月14日	上越市	小	高士小	9	小宮	師範授業(3・4学年複式16名) 協議会 講話～考え議論する道徳授業の進め方～	1 1					1
32	6月17日	新潟県	センター	県立教育センター	13	田村	教科リーダー養成講座(小中)、講義「学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり」	1 1	1	1			
33	6月17日	見附市	小	葛巻小①	29	小宮	4年生での示範授業 講義	1					1
34	6月18日	上越市	中	吉川中(事前)		小宮	事前打ち合わせ						1
35	6月19日	上越市	小	南川小①	16	田村	師範授業(5年生) 講義	1 1					1

回数	実施日	市町村名	校種・所属別	学校名等	参加人数	担当	内容等	講話	道徳科の評価	模擬授業	授業づくり演習 授業公開	演習 示範授業	その他
36	6月20日	千葉県	中	習志野市立第六中学校	26	小宮	道徳の授業づくり	1		1			
							道徳授業の適切な評価方法	1	1				
							評価記入の実際	1	1				
							授業中における評価をどのようにするべきか	1	1				
37	6月24日	上越市	中	吉川中①	12	小宮	2年生での模擬授業「加山さんの願い」			1			
							協議・指導「話し合いが深まる授業のポイント」(模擬授業を基にして)	1				1	
38	6月24日	石川県	小	白山市立鳥越小学校①	12	田村	特別授業(2年・6年)					1	
							道徳の授業づくり・評価の在り方	1	1				
39	6月27日	富山県	小	高岡市立中田小学校	22	早川	他の教科への汎用	1					
							授業参観(3年1組)「森のけいじゅってん」			1			
40	6月28日	石川県	小	白山市立北陽小学校	29	田村	研究協議会				1		1
							指導講話	1		1			
41	6月29日	千葉県	小	千葉大学教育学部 附属小学校	85	小宮	研究主題「児童の考えが生きる授業づくり」に関連した示範事業(2年)	1	1		1	1	
							学習会(授業に対する質問等意見交換)	1					
42	7月3日	佐渡市	中	南佐渡中(羽茂)	17	田村	講義	1					
							師範授業					1	
43	7月5日	石川県	小	能美市立福岡小学校①	14	田村	協議会・講義	1	1				
							師範授業					1	
44	7月8日	上越市	中	吉川中②	12	小宮	提案授業				1		
							講話	1	1				
45	7月8日	柏崎市	小	柏崎小	32	早川	師範授業(1年)					1	
							協議会(自我関与が高まる授業のポイント:師範授業を基にした協議と指導)	1					1
46	7月9日	上越市	中	牧中(事前)		小宮	プレ授業				1		
							示範事業(2年)「泣いた赤鬼」					1	
47	7月12日	柏崎市	センター	柏崎市教育センター	37	田村	講話「道徳における深い学びとは～深い学びを引き出す教師の支援・働きかけについて～」	1		1			
							事前打ち合わせ会						
48	7月17日	石川県	小	白山市立鳥越小学校②	12	田村	示範授業(中1～中3、33名)	1	1			1	
							講義						
49	7月18日	石川県	小	白山市立朝日小学校	23	田村	特別授業(2年・6年)					1	
							道徳の授業づくり・評価の在り方	1	1				
50	7月18日	上越市	中	牧中①	9	小宮	他の教科への汎用	1					
							示範授業(2年、3年)	1	1				1
51	7月19日	上越市	中	板倉中②	18	田村	講演	1					
							生徒や保護者の情報モラルを高める道徳授業(中1～中3・35名、保護者20名、職員10名)	1					1
52	7月25日	長野県	センター	長野県総合教育センター	12	早川・小宮	示範授業					1	
							授業づくりや評価、所見についての意見交換	1	1				
53	7月29日	佐渡市	センター	総合教育センター(畑野)	38	田村	授業づくりや研究の方向性についての指導・講話	1					
							講義「道徳授業づくりの理論と実践」	1	1				
54	7月30日	千葉県	教委	習志野市教育委員会	23	小宮	講義「道徳授業づくりの理論と実践」	1					
							中学校での道徳の授業の教科化を受けて、主体的で対話的な学びの要素を加味した授業の進め方	1	1	1			
55	7月31日	上越市	小	清里小②	14	早川	学びの様子を授業でどのように見取り、評価に取り入れるか	1	1				
							小中学校の連携の在り方	1					1
56	7月31日	新潟市	他	新潟市小学校教育研究会 道徳部会	72	小宮	「特別の教科 道徳の授業づくりと評価」	1	1	1			
							役割演技を取り入れた模擬授業と振り返り	1			1		
57	7月31日	上越市	他	公孫会 くびき野支部	11	田村	道徳科の体験的な授業の在り方と1年間を見通した評価の在り方にかかわる講演	1	1				
							演習・講義「道徳的価値の実感的な理解を促す道徳授業の在り方について」	1		1			
58	8月1日	新潟市	中	松浜中	24	田村	青年部研修、小学校高学年向けの師範授業	1	1				
							青年部研修、講義(道徳の評価についての在り方)	1					
59	8月1日	上越市	他	公孫会 高田支部	41	小宮	模擬授業(3年)			1			
							講話「受容を大切にした道徳授業の展開」	1	1				
60	8月3日	千葉県	他	千葉県道徳授業スキル アップ研究会	100	小宮	道徳の授業づくりと評価	1	1	1			
							公開授業					1	
61	8月6日	東京都	他	道徳教育シンポジウム	50	田村	講演、授業づくりワークショップ	1		1			1
							道徳模擬授業研修			1			
62	8月8日	上越市	他	公孫会 直江津支部	71	田村	講義	1					
							シンポジウム	1					1
63	8月8日	柏崎市	中	西山中①	9	小宮	教育課題研修、道徳科における「主体的・対話的で深い学び」づくり	1	1	1			
							教育課題研修、道徳科における評価の在り方	1	1				
64	8月22日	三条市	小中	大崎学園	49	田村	「特別の教科 道徳」における評価の仕方について	1	1	1			
							道徳の授業の作り方(評価方法も含める)	1	1				
65	8月23日	三条市	小	大島小 ①	11	小宮	模擬授業			1			
							1年 特別の教科 道徳 指導案検討	1		1			1
66	8月26日	石川県	中	金沢市立城南中学校	21	田村	これからの道徳の授業に求められること	1	1	1			
							道徳の指導と評価	1	1				
67	8月29日	富山県	小	黒部市立生地小	13	早川	山場を意識した授業展開	1					
							模擬授業			1			

回数	実施日	市町村名	校種・所属別	学校名等	参加人数	担当	内容等	講話	道徳科の評価	模擬授業	授業づくり演習 授業公開	示範授業	その他
68	8月29日	新潟市	小	亀田小	26	小宮	道徳科の授業の作り方 模擬授業 評価について	1 1		1			
69	9月4日	長岡市	中	南中②	28	田村	道徳授業 授業研究会・協議会	1	1		1		1
70	9月6日	上越市	小	谷浜小②	10	小宮	授業参観(2年)「がんばれボボ」、指導		1		1		
71	9月9日	上越市	小	南川小②	16	田村	公開授業(5年) 協議会	1	1		1		1
72	9月9日	千葉県	小	市川市立百合台小学校①	25	小宮	道徳科で育てたい力について 道徳科の授業づくりについて	1 1		1			
73	9月17日	長岡市	高	県立長岡大手高校(事前)	56	小宮	事前打合わせ(本校の生徒の様子、本校における道徳教育の取組、本研修のねらい)						1
74	9月19日	加茂市	中	須田中②	12	田村	師範授業「裏庭でのできごと」 協議会 懇談「道徳の授業づくりについて」	1	1				1 1
75	9月20日	柏崎市	中	西山中②	6	小宮	師範授業(1年生)、指導	1				1	
76	9月24日	長岡市	中	三島中	20	田村	師範授業(3年) 講話(道徳授業の活性化に向けて、評価のポイント)	1	1			1	
77	9月25日	上越市	他	公孫会 高田支部	69	田村	道徳科に関する授業力の向上や道徳科授業の充実のための講話	1	1	1			
78	9月30日	上越市	中	牧中②	9	小宮	模擬授業、協議・指導	1		1			1
79	10月1日	上越市	小	谷浜小③	10	小宮	道徳の授業参観と指導(主題名 誠実な生き方 教材名「手品師」)	1			1		
80	10月2日	石川県	他	白山市学校教育研究会	31	田村	研究授業(6年) 授業整理会、情報交換会	1			1		1
81	10月2日	石川県	小	能美市立福岡小学校②	5	田村	示範授業(1年)、示範授業(5年) 担任・研究担当との懇談					1	1
82	10月7日	石川県	小	白山市立千代野小学校	24	田村	師範授業(4年生) 協議会 講話	1	1			1	1
83	10月7日	千葉県	小	市川市立百合台小学校②	25	小宮	道徳研究授業(3年3組) 模擬授業 全体協議会・指導	1			1		1
84	10月8日	石川県	小	野々市市立菅原小学校	24	田村	師範授業(3年) 研究会	1	1				1
85	10月11日	千葉県	小	習志野市立香澄小学校①	18	小宮	授業研究	1			1		
86	10月16日	柏崎市	小	大洲小	14	田村	研究主題「児童の考えが生きる授業づくり」に関連した示範授業(6年:14名、教材「手品師」) 学習会(授業に対する質問等、授業の意図や説明等)、研修 授業参観(1年)	1	1			1	1
87	10月18日	三条市	小	大島小②	11	小宮	研究授業協議会における助言・指導 これからの道徳科についての指導	1 1			1		
88	10月21日	上越市	中	吉川中③	12	小宮	吉川中の先生の授業(3年) 授業協議会 道徳授業改善についての指導	1			1		1
89	10月23日	上越市	センター	上越市教育センター②	7	田村	中学校対象、模擬授業を通して道徳科の指導方法を学ぶ	1		1			
90	10月28日	上越市	小	高田西小②	21	小宮	授業公開(1年2組)「はしのうえのおおかみ」 役割演技について 子ども同士のかかわらせ方について	1 1			1		
91	10月30日	上越市	小	南川小(事前)		田村	事前打合わせ会、指導案検討(1年)「はしのうえのおおかみ」						1
92	11月01日	千葉県	センター	木更津市教育委員会 まなび支援センター	102	小宮	授業公開(中学校道徳) 協議会 講話	1					1
93	11月02日	新潟県	他	日本道徳教育学会 新潟支部	39	小宮	講演「子どもたちと共に創る道徳授業 模擬授業「泣いた赤鬼」を通して」 道徳トーク	1 1		1			1
94	11月09日	新潟市	他	公孫会下越協議会(中堅部・青年部)秋季研修会	43	早川	道徳科の授業づくり 道徳科の評価 模擬授業	1 1	1		1		
95	11月13日	上越市	中	春日中②	23	田村	公開授業(5限) 協議会 ご指導	1			1		1
96	11月13日	佐渡市	小	八幡小	11	小宮	示範授業 講演	1				1	
97	11月14日	佐渡市	小	羽茂小	16	小宮	師範授業 研究授業(3年) 協議会・指導・講演	1			1		1
98	11月14日	柏崎市	他	柏崎刈羽中学校長会	14	早川	中学校道徳の師範授業 評価について(通知表・指導要録含む)	1	1				
99	11月18日	柏崎市	中	第五中②	14	林	道徳教育全般に関する内容(仮)	1		1			
100	11月18日	長岡市	小	神田小	12	小宮	示範授業(役割演技を取り入れた道徳授業) 協議会 講演(道徳科の実践について)	1 1				1	
101	11月19日	柏崎市	中	第二中	19	田村	2時間構成の道徳、午前1時間、午後1時間の師範授業(1-1)「最後の一葉」、全体研修会、指導	1	1			1	
102	11月20日	柏崎市	小	二田小	15	早川	授業参観(6年) 特別の教科道徳の講義	1	1	1		1	

回数	実施日	市町村名	校種・所属別	学校名等	参加人数	担当	内容等	講話	道徳科の評価	模擬授業	授業づくり演習		その他
											授業公開	示範授業	
103	11月24日	千葉県	他	第66回千葉県母と女性教職員会の会	45	小宮	第5分科会 子どもと環境	1					1
104	11月25日	上越市	中	板倉中③	16	田村	示範授業					1	
							授業づくりや評価、所見についての意見交換	1	1			1	
							授業づくりや研究の方向性についての指導・講話	1					
105	11月28日	南魚沼市	小	六日町小	20	小宮	師範授業(5年)					1	
							授業に関する解説、講演	1					
106	12月02日	見附市	小	葛巻小②	22	小宮	葛巻小の先生の公開授業				1		
107	12月02日	上越市	小	南川小③	16	田村	協議会	1				1	
							公開授業(1年)				1		
							示範授業(3年)「絵葉書と切手」					1	
108	12月04日	長岡市	中	栖吉中②	16	小宮	協議会	1	1				1
							協議会「参観した授業についての指導」「道徳科の指導方法の指導」「評価についての指導」						
							授業参観(1年、2年)				1		
109	12月05日	千葉県	小	富津市立湊小学校	90	小宮	示範授業					1	
							研究協議講評	1					1
							講演会「考え議論する道徳授業・道徳科の評価」	1					
110	12月05日	石川県	中	白山市立松任中学校	41	田村	生徒を対象にした示範授業					1	
							教職員を対象とした道徳科授業に関する講話	1	1				
111	12月06日	石川県	中	野々市市立野々市中学校	45	田村	示範授業(2年)					1	
							講話「道徳授業の指導と評価の在り方」	1	1				
112	12月07日	新潟市	他	新潟道徳実践研究会	15	早川	道徳科のこれからの動向	1					
							授業における体験的な活動(役割演技等)の効果的な活用法			1			
							教材を自分事にするための工夫	1					
113	12月17日	栃木県	他	上廣合同研修会(事前)		田村	事前の示範授業	1				1	
114	12月21日	新潟県	他	ときわ会全県道徳サークル・セミナー合同研修会	32	早川	講演「小学校道徳科の成果と課題、中学校道徳科の現状」	1	1	1			
115	1月9日	石川県	他	金沢市小学校教育研究会	64	田村	道徳教育実践発表、これからの道徳教育について講話	1					
116	1月10日	千葉県	小	習志野市立香澄小学校②	19	小宮	授業研究	1			1		
117	1月20日	上越市	小	高田西小③	22	小宮	授業公開(3年1組)「しんぼんは 自分たちで」 役割演技について	1			1		
118	1月20日	石川県	中	白山市立光野中学校	25	田村	示範授業					1	
							道徳に係る教員対象の講義	1					
119	1月22日	長岡市	中	南中③	23	田村	道徳授業				1		
							授業研修会	1				1	
							講義	1					1
120	1月31日	千葉県	小	市川市立南行徳小学校	27	小宮	講話:道徳の授業づくりと評価	1	1				
121	2月1日	栃木県	他	上廣合同研修会	120	田村	示範授業 講話	1				1	
122	02月22、23日	大分県	他	日本臨床心理劇学会(別府大学)	30	早川・小宮	ワークショップ「道徳教育とロールプレイング」での講師	1		1			

令和元年度 派遣事業研修回数及び派遣先一覧

令和元年度最終報告

地域	回数	小学校	中学校	小中一貫校・高等学校・特別支援学校	教育委員会	その他
上越市	4 2	7) 黒田2・清里2・高田西4・高志2・南川5・谷浜4・高士2	6) 中郷1・板倉3・潮陵1・吉川4・春日3・牧3		1) 上越市教育センター2	4) 公孫会くびき野支部1 公孫会直江津支部1 公孫会高田支部中堅青年部1 公孫会高田支部教育課題1
糸魚川市	4	2) 糸魚川東2・西海2				
柏崎市	1 0	3) 大洲1・柏崎1・二田1	3) 第五2・西山2・第二1		1) 柏崎市教育センター1	1) 柏崎刈羽中学校長会1
長岡市	8	1) 神田1	3) 南3・酒屋2・三島1	1) 県立長岡大手高校1		
新潟市	8	1) 亀田1	4) 松浜1・山の下1・金津1・巻東1			3) 新潟市小教研道徳部会1 公孫会下越協議会1 新潟道徳実践研究会1
三条市	4	1) 大島2		1) 大崎学園1	1) 三条市教育委員会1	
加茂市	2		1) 須田2			
見附市	2	1) 葛巻2				
南魚沼市	1	1) 六日町1				
佐渡市	5	3) 小木1・羽茂1・八幡1	1) 南佐渡1		1) 佐渡総合教育センター1	
新潟県	3				1) 新潟県立教育センター1	2) とぎわ会全県道徳サークル1 日本道徳教育学会新潟支部1
新潟県合計	8 9	新潟県小学校 2 0	新潟県中学校 1 8	新潟県 2	新潟県の教育委員会・センター 5	新潟県 1 0
千葉県	1 2	5) 千葉大附属1・習志野市立香澄2・富津市立湊1・市川市立百合台2・市川市立南行徳小1	1) 習志野市立第六1		2) 習志野市教育委員会1 木更津市教育委員会まなび支援センター1	2) 千葉県道徳授業スキルアップ研究会1 千葉県母と女性教職員の会1
石川県	1 4	6) 白山市立朝日1・白山市立北陽1・白山市立鳥越2・能美市立福岡2・白山市立千代野1・野々市市立菅原1	4) 金沢市立城南1・白山市立松任1・野々市市立野々市1・白山市立光野1			2) 白山市学校教育研究会1 金沢市小学校教育研究会1
富山県	2	2) 黒部市立生地1・高岡市立中田1				
長野県	1				1) 長野県総合教育センター1	
栃木県	2					1) 上廣合同研修会2
東京都	1					1) 上廣道徳教シンポジウム1
大分県	1					1) 日本臨床心理師学会1
合計	1 2 2	3 3	2 3	2	8	1 7

ア 回数は延べ派遣回数

イ 事前の打ち合わせもカウントした

ウ 受講機関数は同一校で複数回開催は1カウント

エ 教育センターは教育委員会でカウント

オ 上記以外

・上越教育大学学校教育実践研究センターの水曜セミナーで6回開催(延べ参加者52名)

まとめ

延べ派遣回数

延べ参加人数

派遣依頼機関数

受講機関数

1 2 2回 (県内…8 9回 県外…3 3回)

2 8 5 2名

8 3件 (県内…5 5件 県外…2 8件)

8 3件 (県内…5 5件 県外…2 8件)

*本年度は小中合同研修等はなし

② 教職員のための自主セミナー（水曜セミナー） 「上廣道徳教育アカデミー 道徳教育セミナー」

1. 開催日

本年度は5月～10月に6回（5.22 5.29 6.12 6.26 9.25 10.9）実施した。
毎回18:30～20:00 に実施。

2. 場所

上越教育大学学校教育実践研究センター

3. 実施内容

6回のうち、小学校教員対象2回、教科化初年度の中学校教員対象を3回設けた。また、1学期の通知表への記述時期に合わせ、6月12日の回を、小中学校合同で「道徳科の授業づくり」に「道徳科の評価」も加えて実施した。6回の実施内容は次のとおり。

<小学校教員対象>

- 5.22 「受容を大切にした道徳科授業」の意義や展開について、模擬授業を交えて実施。
- 9.25 道徳科授業において明らかになってきた課題についての協議。課題を基にした模擬授業の実施と授業の評価についての協議。

<中学校教員対象>

- 5.29 道徳科授業づくりについて、ねらいの立て方・発問の設定の仕方についての演習。
- 6.26 道徳的行為に関する体験的な学習について、役割演技の実際を模擬授業を交えて実施。
- 10.9 「受容を大切にした道徳科授業」の意義や展開について、模擬授業を交えて実施。

<小中学校合同>

- 6.12 ねらいを明確にした、子どもが意欲的に考える道徳科の授業づくり、ねらいを基にした多様な評価のあり方について講話と協議を実施。

4. 参加人数

6回の延べ参加人数は52名であった。

5. 評価と課題

勤務を終えた後に参加する意欲的な先生方を対象とした講座であることから、先生方のニーズに応じた具体的な内容となるように工夫して実施した。そのため、演習や模擬授業を多く取り入れた。その結果、手応えを感じる先生方が多かった。毎回セミナー修了後に実施したアンケートの記述には次のようなものが見られた。

①授業づくりの基本について（ねらい・発問の立て方）

- ・ねらいや発問の立て方で悩むことが多く、他の先生方にどう伝えたらよいか道徳教育推進教師として困っていた。目標の立て方が大切なのだということを学ぶことができた。
- ・子どもに問いを作らせる、子どもの感想や疑問から問いを作っていくことの大切さを強く感じた。
- ・子どもの疑問や問いを追及していく授業は、現代の教育の主體的な学びに向かって行けるような気がした。

②指導方法「受容を大切にした授業」について

- ・模擬授業で全員が挙手をし、「どうですか」と確認、相互指名で全員が発言できるシステムが、生徒が主体的に思考、想像できる学びの仕掛けだと思い、勉強になった。
- ・全員が話し、それを受容しながら授業を進める模擬授業が良かった。自分と相手の意見を比べ、そこで共感や確認ができた。

③指導方法「役割演技」について

- ・中学生になると恥ずかしがってロールプレイングで前に出てやることは難しいと思っていたが、「こうすればよいのか」と。自分自身がよく知らなかったのだと勉強になった。
- ・ロールプレイングの意義が分かった。実際に演じることで、頭で考えている以上のものが見えてくる、分かってくる。演じている人の気持ちにも変化が生じてくる。「その変化を伝え合うことも大切なんだ」ということが分かった。

④道徳科の評価について

- ・児童の道徳授業の振り返りシートを活用して、コメントを書き、家庭に配布するという手立ては、子どもにとっても保護者にとっても有効であると考えた。
- ・「自分にはよいところがある」と「先生はあなたのよいところを認めてくれる」には相関があることを知り、改めて教師の構えの大切さを痛感した。
- ・評価評価と騒がしく聞こえていたが、何よりも授業を大切にしようと思った。

⑤協議の場として

- ・参加者の教材を読んだ感想や発問、ねらいや発問についての自分と違う考えを聞けて、とてもよい学びになった。
- ・課題に対して多くの先生方の考えを聞くことで、自分の考えと比較し、補充や考え直しができる、より深く考えることができた。

参加された先生方のアンケートの記述内容を①～⑤のように分類整理すると、ある程度先生方のニーズの応じられたと言える。

次年度は、教科化が定着し、学校としても先生方個々も困り感や課題がより具体的に見えてくる時期であることから、次の点に留意して運営にあたりたい。

○上越地区の小中学校で採択されている教科書を用いた授業づくりの演習は引き続き欠かせないものとなる。特に小学校は、新たに採択された新しい教科書を使用していくこととなるため、教科書の教材を最大限に活かす授業についての演習を重視する。

○本年度も多くの回で、模擬授業を行って協議する形を取り入れることにより、先生方が生き生きとして、その後の協議も充実したものとなっていた。模擬授業によって何を明らかにしようとするのかを明確にして行っていきたい。

○勤務時間外とは言え、近くに大きな行事が控えている場合、先生方は学校を出にくい。次年度の予定を立てる際、市内共通の大きな行事の日時を確認し、なるべく多くの先生方が参加可能な日取りを選ぶことにする。併せて回ごとの対象教員(小学校か中学校か)やテーマを具体的に設定し、年度始めに学教センターより年間予定を示したチラシを、上越市内の小中学校に送付する。

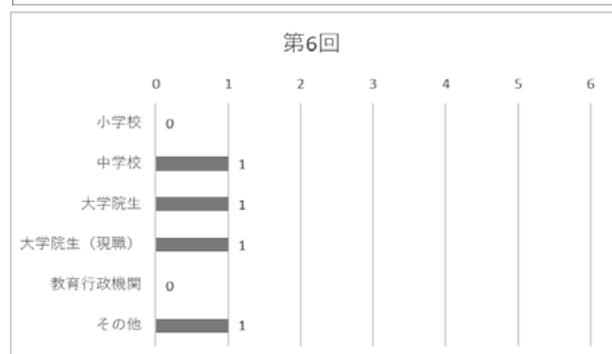
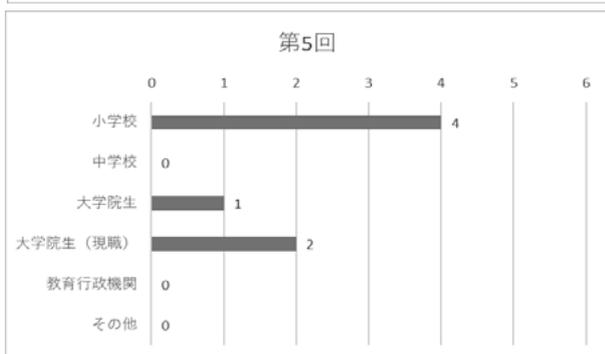
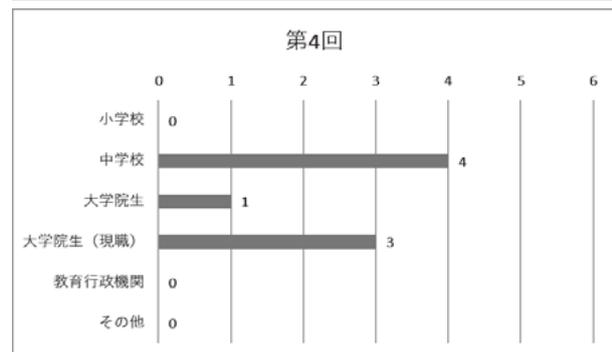
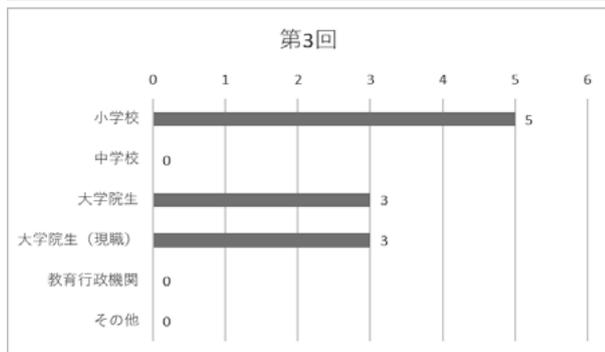
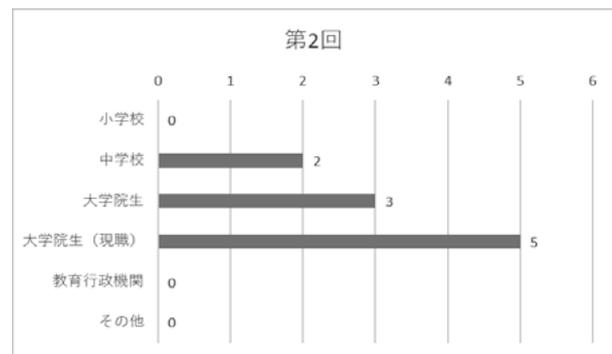
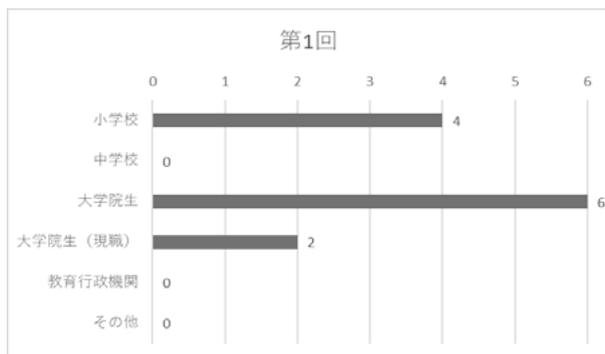
○アカデミー所員が講師となって講座を運営することは言うまでもないが、教授型の運営にとどまらず、上の⑤に見られるように意見交換・情報交換の場としても機能させることが大事である。参加しようとする先生方の本セミナーへの期待や要望を事前に捉える方法、セミナーの中での意見交換・情報交換の場の設定等についても準備をして次年度を迎えたい。

令和元年度 教職員のための自主セミナー(水曜セミナー)「上廣道德教育アカデミー 道德教育セミナー」実施一覧

会場:上越教育大学学校教育実践研究センター

回	実施日	対象・テーマ・内容	講師	参加数
1	5月22日	【小学校教員対象①】 「受容を大切にした道徳科授業」の意義や展開について、模擬授業を交えて実施	田村	12
2	5月29日	【中学校教員対象①】 道徳科授業づくりについて、ねらいの立て方・発問の設定の仕方についての演習	小宮	10
3	6月12日	【小中学校合同】 ねらいを明確にした、子どもが意欲的に考える道徳科の授業づくり ねらいを基にした多様な評価のあり方について講話と協議を実施	小宮・ 田村	11
4	6月26日	【中学校教員対象②】 道徳的行為に関する体験的な学習について、役割演技の実際を模擬授業を交えて実施	田村	8
5	9月25日	【小学校教員対象③】 道徳科授業において明らかになってきた課題についての協議 課題を基にした模擬授業の実施と授業の評価についての協議	小宮	7
6	10月9日	【中学校教員対象③】 「受容を大切にした道徳科授業」の意義や展開について、模擬授業を交えて実施	田村	4
			合計	52

所属別参加者内訳



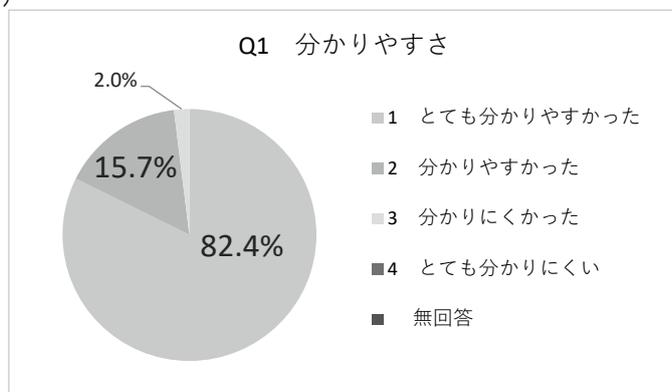
令和元年度 教職員のための自主セミナー（水曜セミナー）
 「上廣道徳教育アカデミー 道徳教育セミナー」アンケート結果（自由記述除く）

回答数 51（延べ参加者数52名）

アンケート回収率 98.1%

Q1 研修内容は分かりやすかったですか(分かりやすさ)

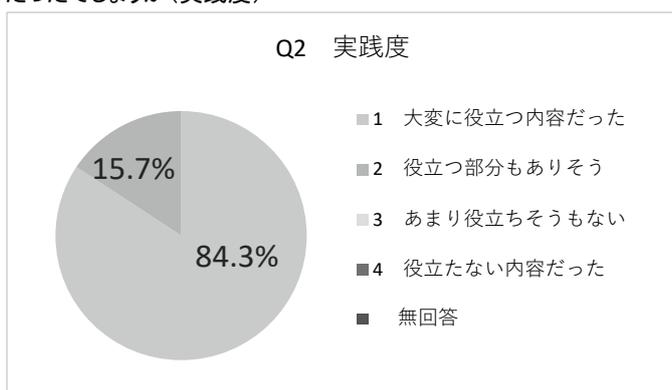
回答番号	回答	%
1 とても分かりやすかった	42	82.4%
2 分かりやすかった	8	15.7%
3 分かりにくかった	1	2.0%
4 とても分かりにくい	0	0.0%
無回答	0	0.0%



有効回答数（※無効回答0） 51 100.0%

Q2 貴校(または先生ご自身)の今後の実践に役立つ内容だったでしょうか(実践度)

回答番号	回答	%
1 大変に役立つ内容だった	43	84.3%
2 役立つ部分もありそう	8	15.7%
3 あまり役立ちそうもない	0	0.0%
4 役立たない内容だった	0	0.0%
無回答	0	0.0%



有効回答数（※無効回答0） 51 100.0%

③ 上廣道德教育アカデミー—道德教育研究大会長岡大会について

(1) 運営

本年 8 月 20 日に、上越教育大学上廣道德教育アカデミー—道德教育研究大会長岡大会を開催した。小学校の道德の教科化に引き続き、中学校の道德の教科化が実施された時期であり、

- ・教科化された道德科で明らかになってきた課題について、情報発信の機会を提供し、諸問題について意見交流する場とする。
 - ・教科化された道德科授業の様々なスタイルの提案を通じて実践的理解や協議の場とする。
- ことを趣旨として開催した。

1 日の開催であったが、全国の道德教育実践団体、県外からの教育関係者を含め 106 名の参加者があった。県内は、夏季休業中の行事と若干重なったが、小中学校から 56 名の参加となった。

運営はアカデミースタッフ 6 名、教職大学院生 5 名で行った。

(2) 内容

<基調講演>

10:20～11:25 (白鳳・天平の間 2F) 参加者 101 名

「道德教育の未来—教科化後の課題を考える」

林 泰成 (上廣道德教育アカデミー統括監督者 上越教育大学大学院教授)

<道德授業づくりワークショップ>

12:20～13:50

A 会場 (オリオンの間 1F) 小学校Ⅰ：低学年・中学年

小宮 健 (上廣道德教育アカデミー 特任教授) 参加者 24 名

B 会場 (天平の間 2F) 小学校Ⅱ：中学年・高学年

田村博久 (上廣道德教育アカデミー 特任教授) 参加者 26 名

C 会場 (白鳳の間 2F) 中学校

大館昭彦先生 (千葉県教育庁東葛飾教育事務所指導室長) 参加者 43 名

<シンポジウム>

14:05～16:30 (白鳳・天平の間 2F) 参加者 101 名

テーマ 「道德の教科化～その工夫と課題～」

シンポジスト

小学校：北川沙織先生 (愛知県名古屋市立小坂小学校 教諭)

小学校：菅原友和先生 (新潟県新潟市立小針小学校 教諭)

中学校：林智子先生 (千葉県流山市立おおたかの森中学校 教諭)

大学：澤田浩一先生 (國學院大學教授 前文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官)

コーディネーター 早川裕隆 (上廣道德教育アカデミー所長 上越教育大学教職大学院教授)

(3) 成果と課題

○新潟県内での開催で、全国、そして県内から大勢の参加があり盛会であった。まだまだ手探り状態

の教科道徳として、多様な意見交換がなされたことが評価された。県内にはアカデミーの活動に刺激を受け参加した人が多数いる。また、県内の教育委員会や校長会からも高い評価を得た。これまでアカデミーの講師が訪問している学校の教員は、学校での研修が良かったので参加したが、これから自信を持って楽しみながら授業ができそうだと感想をあげ、来年度も引き続き課題の克服をテーマに掲げてほしいと書いている。今後も継続していく意義がある。

○ワークショップが学年ごとの多彩な内容であったこと評価された。即効性のある「発問」や「発言の取り上げ方」、「役割演技の手順」や「問題解決的授業」といった指導法の工夫から授業観まで幅広く学ぶ機会となり、参加者のニーズを満たしたようである。

「中学校現場の現状を分かっている講師の話は機会が限られ、今日の話題は現場全員に聞かせたい。」

「模擬授業で一番学びが深まる。授業前と授業後の自分の考えが変容していて、改めて考える時間だった。」

「模擬授業が全員参加型でとてもためになった。子ども間の相互指名を初めて体験しハラハラドキドキ感を感じつつもその分深く考えることができた。自分の学級でもやってみたいと思った。チャレンジしたいことがいっぱいになった。」

「模擬授業を提案授業とされたことで、後に一つの教材や指導の仕方について様々な先生の考えを知ることができた。「自分なら授業をどうするか」と実感の持てる演習で勉強になった。」

「模擬授業を体験して、自分の考えがどの発問でゆさぶられ、他者の発言ではどのように揺さぶられるか実感できた。すっきりしない場合は、発問の仕方が、発言できなかったためか、考えることがはっきりしなかったためか、考えることができた。教師の発問やつながぎを実感した。」

「ワークショップの時間でさらに「授業づくりの方法」や「教材の深まりをどうするか」「発問の仕方」など話し合いを詰めていきたかった。話し合える時間がほしかった。」

「具体的に1時間の授業づくりを学びたい」

など、多くの評価・要望も多く、今後の大会でもワークショップや模擬授業をより丁寧に企画していきたい。

○シンポジウムは、小・中・大学現場の実践者4名の構成で実施した。4名のシンポジストの情報は具体的で貴重な内容であり、「シンポジウムが理論だけでなく、実践的な内容であることがよかった。」等、行政機関からの参加者を含めた大会参加者に広く情報を発信することができた。聞き手のニーズは多様だが、「大会テーマが一つの柱となって共有したいことや深めたいことがぶれていない。基調講演がとても興味深くわかりやすかった。「アカデミーならではの」提案を期待する。」等テーマが焦点化されたシンポジウムとの評価があった。

○研修プログラムの提供と、道徳教育に関わる新しいスタイル探究の場としての研究大会を、次年度も開催する。その会場として、新潟市内を想定した準備を進める。

令和元年度
上越教育大学 ^{うえひろ} 上廣道德教育アカデミー
道德教育研究大会長岡大会のご案内

昨年度多くの皆様からご参加いただきました道德教育研究大会を、本年度は長岡市にて開催いたします。小学校・中学校で教科化された道德科の工夫や明らかになってきた課題について、全国の実践研究団体のメンバーの皆様とともに、研鑽し合い、具体的な実践的理解や、意見交流を図る研修の場を持ちます。是非お誘い合わせの上ご参加ください。

テーマ

「特別の教科 道德」の充実と課題

－教科化された道德科の工夫や明らかになってきた課題の克服を中心に－

期 日：8月20日（火）10：15～16：40（受付9：45～）

会 場：アトリウム長岡（新潟県長岡市弓町1丁目5-1）

参加者：100名（先着順） ※参加費無料

主 催：国立大学法人上越教育大学 上廣道德教育アカデミー

共 催：公益財団法人上廣倫理財団

後 援：新潟県教育委員会、新潟市教育委員会、

長岡市教育委員会、上越市教育委員会、

新潟県・新潟市小学校教育研究会、新潟県中学校教育研究会

〈大会実行委員長〉

上越教育大学上廣道德教育アカデミー 所長

上越教育大学大学院教授

早川 裕隆

TEL/FAX 025-521-3515

E-mail hayakawa@juen.ac.jp

〈事務局・連絡先〉

上越教育大学上廣道德教育アカデミー 特任教授

大会実行委員会事務局長

田村 博久

住所 〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地

TEL / FAX 共通 025-521-3305

E-mail academy@juen.ac.jp

ホームページ <http://www.juen.ac.jp/400academy/>

令和元年度 研究大会実施要項

日 程 (敬称略)

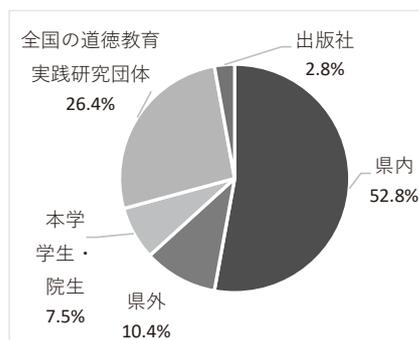
◆ 令和元年8月20日(火) 9時45分より受付開始

09:45	<input type="checkbox"/>	●受付開始
10:15	<input type="checkbox"/>	開会式 白鳳・天平の間(2F)
10:20	<input type="checkbox"/>	●基調講演(午前) 林 泰成(上廣道德教育アカデミー統括監督者・上越教育大学大学院教授) 「道德教育の未来～教科化後の課題を考える～」
11:25		休 憩 (昼 食) ※会場内での飲食可能ですが、会場設営を行います。
12:20	<input type="checkbox"/>	●道德授業づくりワークショップ(午後) ※希望制ですが、会場の関係でご希望に添えない場合がございます。 A会場(元禄の間 1F) 小学校Ⅰ:低学年・中学年(小宮 健:上廣道德教育アカデミー特任教授) B会場(天平の間 2F) 小学校Ⅱ:中学年・高学年(田村 博久:上廣道德教育アカデミー特任教授) C会場(白鳳の間 2F) 中学校 : (大館 昭彦:千葉県教育庁東葛飾教育事務所指導室長)
13:50		休 憩 (会場設営)
14:05	<input type="checkbox"/>	●シンポジウム:テーマ 「道德の教科化 ～その工夫と課題～」 白鳳・天平の間(2F) ○シンポジスト 小学校:北川 沙織(愛知県名古屋市長小坂小学校教諭) 小学校:菅原 友和(新潟県新潟市立小針小学校教諭) 中学校:林 智子(千葉県流山市立おおたかの森中学校教諭) 大 学:澤田 浩一(國學院大學教授・前文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官) ○コーディネーター 早川 裕隆(上廣道德教育アカデミー所長・上越教育大学大学院教授)
16:30	<input type="checkbox"/>	閉会式
16:40	<input type="checkbox"/>	終 了

令和元年度 上越教育大学上廣道德教育アカデミー—道德教育研究大会長岡大会 参加者集計

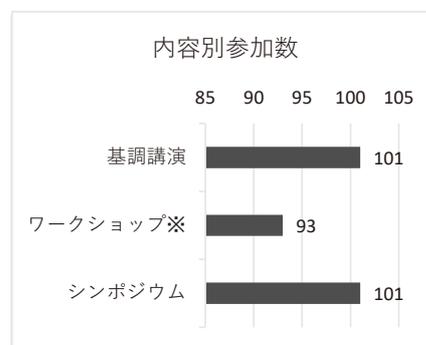
所属別

所属区分	参加数	%
県内	56	52.8%
県外	11	10.4%
本学学生・院生	8	7.5%
全国の道德教育実践研究団体	28	26.4%
出版社	3	2.8%
全参加数	106	100.0%



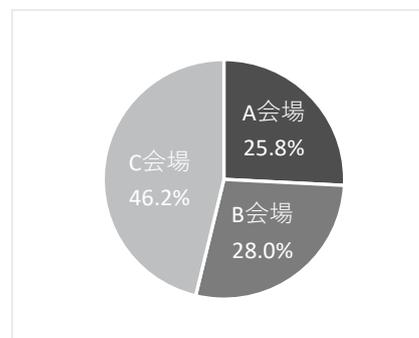
内容別参加数

参加内容	参加数
基調講演 「道德教育の未来～教科化後の課題を考える～」	101
ワークショップ※	93
シンポジウム 「道德の教科化～その工夫と課題～」	101



※ ワークショップ内訳

参加内容	参加数	%
A会場 小学校Ⅰ：低学年・中学年	24	25.8%
B会場 小学校Ⅱ：中学年・高学年	26	28.0%
C会場 中学校	43	46.2%
ワークショップ参加数	93	100.0%



令和元年度 上越教育大学上廣道德教育アカデミー道德教育研究大会 アンケート結果（自由記述除く）

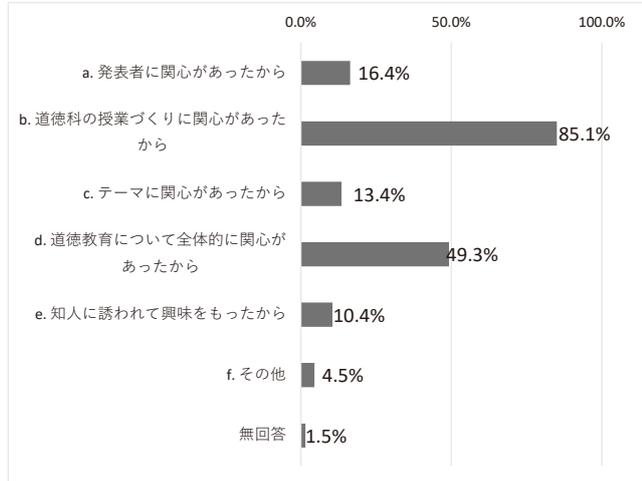
回答数 67（参加者数106名）

アンケート回収率 63.2%

Q1 本大会では何に参加されましたか。 ※別途参加者集計あり

Q2 本大会に参加された理由をお教えてください。（複数回答可）

回答番号	回答	%
a.	発表者に関心があったから	11 16.4%
b.	道德科の授業づくりに関心があったから	57 85.1%
c.	テーマに関心があったから	9 13.4%
d.	道德教育について全体的に関心があったから	33 49.3%
e.	知人に誘われて興味をもったから	7 10.4%
f.	その他	3 4.5%
	無回答	1 1.5%

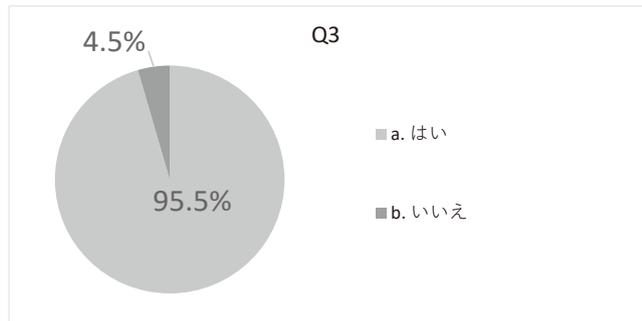


有効回答数（※無効回答0） 67

Q3 開催日については、適当でしたか。

回答番号	回答	%
a.	はい	64 95.5%
b.	いいえ	3 4.5%

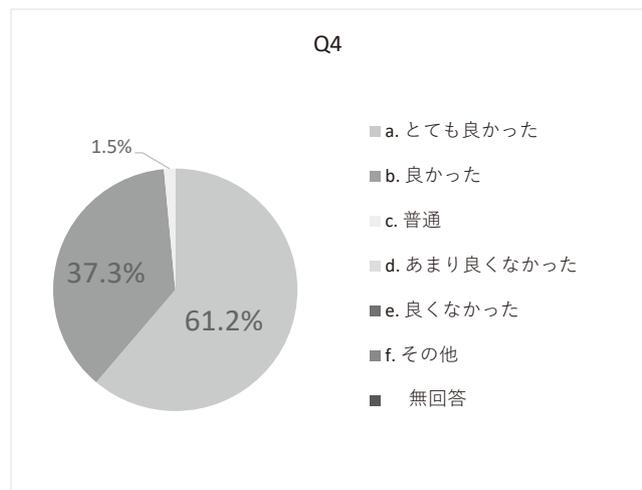
有効回答数（※無効回答0） 67 100.0%



Q4 本大会の内容はいかがでしたか。（一つ選択）

回答番号	回答	%
a.	とても良かった	41 61.2%
b.	良かった	25 37.3%
c.	普通	1 1.5%
d.	あまり良くなかった	0 0.0%
e.	良くなかった	0 0.0%
f.	その他	0 0.0%
	無回答	0 0.0%

有効回答数（※無効回答0） 67 100.0%



令和2年度事業計画と事業報告（概要）

1) 上越教育大学上廣道徳教育アカデミーの目的

公益財団法人上廣倫理財団からの寄附により、平成30年4月1日、本学に設置された寄附研究部門である上越教育大学上廣道徳教育アカデミーは、次のような設置目的を持つ。

教科化された「特別の教科 道徳(道徳科)」について、学校現場の教員が子どもたちに対し充実した授業展開ができるよう、研修と研究を推進する。

2) 活動内容について

		平成30年度	令和元年度	令和2年度
研修・人材育成	環境整備	▶		
	研修会の講師	▶		
	研修会の企画	上越教育大学学校教育実践研究センター 自主セミナー(水曜セミナー)		
		記念シンポジウム →・開所式(記念講演) ・研究大会	研究大会 研究会組織立ち上げ	研究大会/シンポジウム 合同研修会登録
研 究			研修講座の企画・運営	研修講座の企画・運営
	プロジェクト研究		▶	
	個人研究	▶		
	情報収集・発表等	研究会等での活動内容説明	学会・研究会	学会・研究会/書籍等企画
	ホームページ	開設	改訂	大改訂(成果公表)
	報告	報告書	報告書/パンフレット …中間発表	報告書/パンフレット等 成果発表
運営諮問委員会	各年度毎に1回実施			

3) 令和2年度の活動計画(令和2年4月時点)と活動報告

1-① 研修会への無償による講師派遣事業の計画

◇令和元年度に引き続き、新潟県内の義務教育諸学校並びに高等学校、及び教育委員会、教育センター、道徳教育の充実に関する研究団体等の主催による研修会への派遣を継続する。

■次期事業に向け、派遣事業の内容に「拠点校の設置」を視野に入れた取り組みの可能性を探る予備的な事業を行う。

※拠点校：本アカデミーで重点的に複数回派遣を行うことで、そこで学んだものを、他校に広げる中心的な学校を養成する。次年度、その試みとして、何校かを拠点校として要請する予備的研究活動を行う。

■石川県（同県内市町村）、富山県（同県内市町村）長野県（同県内北信地区市町村）教育委員会、教育センター、または、県市町村教育研究会主催の研修講座や研修会を中心に、講師派遣を行う。

※その際、今年度の反省を踏まえ、次のような計画を設定することを、今年度末までの課題とする。

- ①県外予算枠を設け、その予算内での活動を行う。（派遣回数：長野県 5、富山県 5、石川県 10）
- ②県内では佐渡の予算枠と回数の上限、派遣時期を明確にする。（派遣回数：4回 派遣時期：4月～10月末まで）
- ③以上のことも踏まえながら、派遣回数の上限を明示することを含めた、適切な派遣事業の在り方を明確にする。（年間120回を上限…事前打ち合わせを含める）

1-② 研修会への無償による講師派遣事業の実際

【研修会への無償による講師派遣事業】

教員の道徳科に関する授業力の向上、学校での道徳科授業や道徳教育の充実、推進のため、各学校、教育委員会、教育センター、各種研究団体主催の研修会等に、**本アカデミーの職員を、無償にて講師として派遣する**

派遣件数...延べ62回

- ・県内:47回
- ・県外:15回

※**客員講師の設置**

○上越教育大学上廣道徳教育アカデミー設置要項 第6条

学校現場の教員を対象とした研修講座等を実施するため、学外の教員等を招致することができる。

2 前項の規定により招致した者を客員講師と称する。



- 本年度は、新型コロナウイルスの影響により、特に年度前期に大幅な派遣要請の減（要請のキャンセル、または延期も含める）がみられた。
- 一方で、派遣回数の上限（特に県外派遣）を設けたことに伴い、公益財団法人上廣倫理財団の全面的なご支援のもと、新たに「上越教育大学上廣道徳教育アカデミー 客員講師」の制度を設け、早速、拠点校の派遣制度に活用した。
- 第Ⅱ期事業に向けた試行として、上越市立板倉中学校及び、上越市立清里小学校を**拠点校**として定め、複数回の研修会への講師派遣を行った。

2 上越教育大学との協働による、研修会の開催

上越教育大学学校教育実践センターにおける、上廣道德教育アカデミー道德教育セミナー(自主セミナー)

2.【研修講座の開設・実施】

質の高い多様な道德科の授業、道德科の理解、道德科の評価、道德教育推進のための計画づくりや体制づくりなど、大学、地域の教育センター等と連携し、**道德教育の研修講座を開設・実施**する。

※ 上越教育大学学校教育実践研究センターにおける「教職員のための自主セミナー」で「上廣道德教育アカデミー 道德教育セミナー」を開設。

今年度、6回実施



3 道德教育研修大会の開催

【研修プログラムの構築と、道德教育に関わる新しいスタイルの探究】

公益財団法人上廣倫理財団と連携し、全国展開できる研修プログラムの構築並びに道德教育や道德科授業の様々なスタイルを探究していく。

令和2年8月20日
新潟県立教育センター

新型コロナウイルス
感染拡大防止の
ため中止



4 シンポジウム、学会発表など、開発されたカリキュラムを提供

【研究発表】

事業活動を通して開発されたカリキュラムを、研究大会、シンポジウム、学会発表など様々な場で提供、発表し、道徳教育や道徳科、並びに倫理のさらなる推進・充実に寄与する。

令和2年2月22日 早川裕隆, 小宮 健
「第45回日本臨床心理劇学会大分大会」
ワークショップ「道徳教育とロール・プレイング」

令和2年11月29日 日本道徳教育学会第96回大会 自由研究発表
・「上越教育大学 上廣道徳教育アカデミーの活動の内容とその意義について」
・田村博久 小宮 健 林 泰成 「道徳示範授業、模擬授業の意義に関わる分析的研究」(個人研究)

上越教育大学教職大学院研究紀要第8巻掲載
「上越教育大学上廣道徳教育アカデミーの意義について
－講師派遣依頼の研修テーマの変遷と、提供した内容を中心に－」

5 その他

「越後 道徳ときめき研究会」発足

会則 第2条〔目的及び事業〕

- 1 本会は、道徳教育や道徳科授業の充実発展に関する実践的研究、指導方法の理論と実践の融合を図る研究等を行いながら、その正しい理解、効果的な展開と応用を図るとともに、関連諸分野の総合研究の推進を図ることで、学校教育の拡充や教員研修、教員養成に貢献することを目的とする。
- 2 前項の目的を達成するために以下の各号の事業を行う。
 - (1) 研究会、研究発表会、シンポジウムなどの開催
 - (2) 会報などの刊行
 - (3) 内外の関連組織との連携活動
 - (4) 講習会、講演会などの開催
 - (5) その他、本会の目的を達成するために必要な事業

① 派遣事業

(1) 成果

<アカデミーの周知について>

開設3年目の本年度は、新潟県教育委員会、新潟県教育センターをはじめ県小・中学校校長会、研究大会開催地の新潟市にも足を運ぶとともに、本学の所在地である上越市はもとより近隣の妙高、糸魚川、柏崎の3市と刈羽郡の教育委員会、校長会にも出向き丁寧に周知活動を行った。また、本年度より拡大した派遣先である富山県の教育委員会、東西の教育事務所、長野県の教育委員会、北信教育事務所にも昨年度末に出向き周知活動を行った。

アカデミーが各方面に周知されつつあること、これらの周知活動とが奏功し、年度の始めである4月の派遣依頼を皮切りに、本年度も県内の小中学校、行政、研究団体より多数の研修への講師派遣依頼があった。更に県立高等特別支援学校からの依頼もあった。研修コーディネーターによる継続的な情報提供と周知活動により、派遣依頼は続いている。

<テキスト「道徳科Q&Aハンドブック」の配布と活用について>

本年度も研修訪問校には漏れなくテキストとして「道徳科Q&Aハンドブック」を研修に参加した先生方個々に配布し、必要に応じて研修の中で活用してきた。開設当初から参加者に配布しているため既に持っている方も多く、本年度の配布総数は891冊である。今後の増刷がないため配布数に限りがあるが、Q&Aの形式により先生方の疑問に合わせてどこからでも読むことが出来、大変好評である。

<派遣依頼の機関について>

本年度も年度当初の時点ですでに多くの派遣依頼があった。しかしコロナ禍により、派遣を延期や中止せざるを得ないケースも多々あり、実際の派遣件数は62回であった。対面を避けてオンラインにより実施したケースもあったが、依頼に至らず断念した機関も多数あったと想像される1年であった。

それでも講師として多くの学校・行政・研修団体の派遣要請に応じてきた。県内の小・中・特別支援学校の派遣先は、県内の12市（新潟、長岡、上越、妙高、糸魚川、柏崎、五泉、佐渡、魚沼、南魚沼、新発田、十日町）に及んでいる。行政では、上越市教育委員会、柏崎市教育委員会、佐渡市教育委員会、長岡市教育委員会、魚沼市教育委員会、そして上越市のみならず妙高市、魚沼市の教育研究団体からの依頼にも応えてきた。

新型コロナウイルス感染拡大防止により派遣中止となったが、県外に拡大した派遣先である富山県からも2件依頼があった。他に石川県、千葉県からも多くの依頼があった。

また、本学と他大学・他機関との連携事業として、本年度も長野県総合教育センターとの連携講座（※詳細は別途記載）の中に、本アカデミーによる「道徳の授業づくり」の講座を開設させていただいた他に、新たに秋田公立美術大学との連携事業として秋田県内の小中学校での示範授業及びシンポジウムを開催させていただいた。

これらの学校・行政・研修団体とのつながりを大切にしていけることにより、次年度以降の派遣依頼のニーズが生まれ、研究開発における協力依頼等を円滑に進めることが可能になると思われる。

＜実績と評価＞

小学校が教科化3年目、中学校が2年目となり、各学校、行政、研修団体からの依頼内容の温度差は徐々に小さくなってきている。初年度に見られた「道徳科の評価」に関する依頼は減り、アカデミーからの働きかけもあるが、小中学校ともに「講話よりも実際の授業をやって見せて欲しい」

「教員対象の模擬授業を体験させて欲しい」という示範授業、模擬授業の要望が定着してきた。アカデミー所員による子ども対象の示範授業、先生方対象の模擬授業を中核とした研修メニューの提供が、アカデミーによる派遣事業の存在意義として明確に位置づいてきた。先生方が、理論と同時に具体的な授業力を身に付けたいという意欲が高まってきたためであろう。

示範授業を見る、模擬授業を行うといった、実際に道徳授業を見たり体験したりするという研修では、教師がどのように発問を投げかけ、子どもの発言をどう受け止めているのかといった指導案には表しきれない役割を目の当たりにできる。また、子どもの立場から人の意見をじっくり聞いてみる、自分の考えを素直に思いのまま語ってみるといった体験、どんな意見も教師が受容し価値づけてくれる安心感や喜び等を体験できる。このような、頭で理解するのではなく、「体感」することで、授業を理解することによって道徳授業のイメージがより鮮明になっていくことが、最も大きな意義になっているようである。

多くの先生方は、道徳授業では「一定の型がある」「間違えてはいけない」「ねらいに到達しなければならない」といった迷信に近い認識があったが、「もっと簡単に考えて良いのだ」「ねらいをしっかり立てれば良いのだ」「子どもが考えたくなる発問が大事なのだ」等、個々に気づきがあり、「目からうろこが落ちた」という言葉を聞くことも多かった。

今までの、「教えなければならない」授業から、「先生が教えるのではなく、子どもが考え発見する」授業へと、先生方の道徳の授業観は変わりつつある。「楽しい授業をしたくなった」と先生方や学校全体が前向きに元気になっていくのを目の当たりにすることも多くなってきた。また、評価についても、「良い授業をしなければ良い評価など出来るはずがない」といった考えが浸透し始めたようである。

(2) 課題

＜近隣学校への派遣・拡大された派遣先への派遣＞

県内の多くの機関からの派遣依頼には引き続き応えつつ、近隣に拡大された範囲から依頼にも応えられるよう備える。本年度、富山県からの依頼があったが残念ながら新型コロナ感染拡大防止のために派遣が実現しなかったが、引き続き拡大された富山県、石川県、長野県へのアカデミーの周知を図る。

一方で、地元上越市の小中学校からの派遣依頼がコロナ禍の影響もあり非常に少なかった。本学がお世話いただいている学校に積極的に働きかけ、道徳教育に少しでも貢献したいところである。

また、県内には3年続けて依頼を受け、継続していくことにより先生方の意欲、授業の質が高まっている学校もある。これらの学校との繋がりを大事にし、新たな取り組みへと発展していける素地を作っていきたい。

＜特別支援教育における道徳授業＞

特別支援教育に携わっている先生方より、「特別支援学校・学級での道徳授業はどうしたらよいですか？」という質問を受ける機会が頻繁にある。全国的にも、特別支援教育における道徳教育と道

徳授業については、実践事例が甚だ少ないのが現状である。

アカデミー所員には特別支援教育の現場経験者がおらず、道徳指導も未経験であることから、一昨年度は千葉県立印旛特別支援学校、昨年度は熊本大学教育学部附属特別支援学校に出向き、道徳授業の実際を参観させていただき取り組みについて説明を受けてきた。折しも本年度は、新潟県立西蒲高等特別支援学校から派遣依頼を受け、校内で取り組み始めた道徳授業について一緒に考えるというスタンスで参加している段階である。

今後、特別支援教育における道徳教育、道徳授業のあり方について研鑽の機会を増やすとともに、県内外の支援学校、知的支援学級にも働きかけ、情報交換を目的としたネットワークを構築していくことが課題である。

<拠点校への派遣事業の実施に向けて>

道徳に関する地域の中核校として発信する力を持つ学校をつくっていくために、県内の各地域に拠点校を委嘱していくことを第Ⅱ期の新規事業として計画している。本年度はその準備段階として、上越市内の小学校1校（清里小学校）、中学校1校（板倉中学校）に拠点校の役割を担っていただいた。それぞれの学校には、年間3回までという回数の上限を超えてアカデミーより講師を派遣して研修を重ねてきた。また、客員講師の派遣も行っているところである。

次年度より、上越市内の小中学校各1校（上越市立稲田小学校、上越市立板倉中学校）、中越地区の中学校1校（長岡市立栖吉中学校）、新潟市の小学校1校（新潟市立小針小学校）と拠点校としての覚書を結んだところである。これらの学校には、年間を通じて重点的に講師を派遣して研修を充実させるとともに、広報活動を通じて近隣の学校や教員に研修会への参加希望を募っていくことにより、拠点校としての機能が発揮できるように進めていきたい。

<継続的なアカデミーについての広報活動の必要性>

本アカデミーの存在についての周知活動はパンフレットの更新、配布をはじめ、継続的に行う必要がある。徐々に依頼の範囲を県内広域、近隣の他県へと拡大していったが、折々に研修コーディネーターによる継続的な情報提供、周知活動が必要である。

<コロナ禍における派遣事業への対応>

今後、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、派遣事業に携わる所員が健康管理に留意することはもちろんであるが、対面を避けたオンラインの研修についてもどのような形での実施が可能かを検討していくことが課題である。

※長野県教育委員会と上越教育大学連携による教育研修講座（報告）

- ・日 時 令和2年9月18日(金) 9:40~16:10
- ・場 所 長野総合教育センター（長野県塩尻市）
- ・担 当 早川 裕隆・小宮 健
- ・内 容 「道徳授業づくりの理論と実践」
 - ①教科化で変わったこと・変わらないこと（小宮）
 - ②道徳授業作りで大切なこと（評価を含む）（早川）
 - ③道徳授業づくりの実際 一体験的な活動を中心に一

小学校教材で「泣いた赤鬼」(小宮)

中学校教材で「偽りのバイオリン」(早川)

○以下、受講生の感想の一部を要約して紹介する。

- ・道徳が教科になり、今自分が行っている道徳の授業に自信がもてず、本当に子どものためになっているのか、また、自分を高めているのかわかりませんでした。本日の研修で、授業を考えるにあたって、「ねらい」を明確にして、授業づくりを行うことの大切さを教えていただきました。また、わかりきったこと、当たり前のことを言わせるのではなく、心を揺さぶる、多様な考えが出る、発問の工夫もしていきたいと思います。
- ・やはり授業をうけてみると、いつの間にか自分との関わりで考えたり、多面的・多角的に考えている自分がいて、自分の授業でも子どもたちがこんな風になるには、どうすればいいか、また、どうしてみたいかということ具体的にイメージできた。道徳はやはりおもしろい。
- ・道徳の教科の概念が変わりました。”教材を読めばわかること”をゴールに授業を行っていたのですが、「赤鬼」の演習の最後の発問「このあと赤鬼はどうするか」こそが大切な場面なのだと感じました。役割演技はチャレンジしていきたい。
- ・午後の演習の時間です。生徒や児童の立場に立ってみると今まで見えなかったことや分からなかった感情が分かった。発言しなくても考えている子どもはいるし、「なんで?」とか「どんな?」と考えるのが難しいと分かった。生徒の立場に立って分かることってあると痛感しました。私達は、道徳を受け慣れていないのに授業をしているのでうまくいくはずがないですね。
- ・小宮先生の演習では、発言の受けとめ方や問い返しがとても勉強になりました。意識が途切れることなく、赤鬼くんの気持ちやその後について考える自分がいました。「そんなに都合良くいかない」ことに気づかせる・考えさせることも大切だと思いました。早川先生の演習では、悩んだり葛藤したりと、登場人物のように苦しい場面がありました。それだけ自分を投影させて考えていたのだと思いました。このような授業を生徒に経験させてあげたいと思いました。
- ・「色々な立場の考え方に会わせる」これが道徳科の中で大切なことだと強く感じました。様々な人の立場、全てに立たせることを要求するのではなく、それぞれ違った価値観を持った者同士での対話を通して自分の考えを深められるような機会を作っていきたいと感じました。それが道徳科の充実につながると感じました。
- ・役割演技を、今まで”発表や楽しむ活動”としてとらえていた自分がいました。しかし、そうではなく、子どもたちが自分の言葉で思いや考えを語り合い、それを自分なりに解釈していく学習活動があるのだと考えさせられました。正直、自分は避けてきましたが、チャレンジしてみたいと思います。道徳をもっと勉強したくなりました。
- ・教科書の読み物から、自分のクラスの子どもたちに、どのような価値観や思いを持ってもらいたいか、自分なりに考え、授業を作っていきたいと思いました。やらせる、教えるのではなく、自分も楽しく、一緒に考えようという気持ちを大切にしたいです。特に、まとめ方について、「価値観を押しつけない」⇔「でも、この価値に気づいてほしい」という思いの間でどうしていいか悩んでいました。一般的なまとめをし、その後、「わたしにとっては・・・」(自分のこととして)語っていく授業をまず、やってみたいです。物語の読み深めていく様子。教師の発問、役割演技、終末のもっていき方、自分が知りたいこと、全てがありました。まだまだうまくできないと思いますが、自分も楽しんで、授業を作っていきたいです。最後のロールプレイ感動してしまいました。



長野県教育委員会

2020 長野県教育委員会と上越教育大学教職大学院連携による

教員研修講座

上越教育大学教職大学院教科教育・学級経営実践コース、長野県教育委員会の連携による生徒指導力・学力の向上を目指す研修講座を開設します。学校や教職員を取り巻く様々な教育課題が表出し、その早急な解決が求められています。長野県にとっての教育課題をピックアップし、その解決に向けて6日間にわたり大学教員が研究の成果をもとに語ります。実力向上が感じられる講座となることでしょう。みなさんのご参加をお待ちしております。



会場 長野県総合教育センター

長野県塩尻市片丘南唐沢6342-4

日程 6/25(木)・7/13(月)・8/28(金) 9/7(月)・9/18(金)・9/24(木)

9:40～16:10 ※詳細は、総合教育センター発行の研修講座案内をご覧ください。

対象 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等に勤務する教職員

申込方法 県内の方は、長野県総合教育センターの研修講座への申込方法と同一です。県外の方で受講を希望される方は、下記問い合わせまで連絡して下さい。



お問い合わせ

ご不明な点等ありましたら、E-mailでお問い合わせください。

E-mail: katagiri@juen.ac.jp

(上越教育大学教職大学院教科教育・学級経営実践コース 教授 片桐 史裕)



講座番号・講座名	担当	テーマ	研修の概要
3-8-01-01 ゼロからの プログラミング教育 プログラミング教育の 基礎と実践 6月25日(木) 定員20名	午前 大島 崇行 准教授	プログラミング教育って何を するの?	知識ゼロから始める講座内容です。講義と演習を通し、小学校プログラミング教育の全体像を掴むことをねらいます。
	午後 桐生 徹 教授	プログラミングを体験しよう	「iPad触ったことない」「プログラミングって何」という先生、お待たせしました。安心して「わからないなあ」と言いあいましょう。
3-8-01-02 特別支援教育に 関する講座 小・中学校、高等学校における 特別支援教育 7月13日(月) 定員20名	午前 西川 純 教授	特別支援学級の子どものための キャリア教育入門	特別支援学級・学校卒業後、30～40歳になった方の保護者、雇い主に聞いた「学校で何を学んで欲しかったか」をお話します。
	午後 関原 真紀 准教授	教育的ニーズのある児童生徒 の理解と対応	通常の学級や通級指導教室における発達障害等の教育的ニーズのある児童生徒への指導・支援を考えます。
3-8-01-03 指導力を上げる 学級経営のポイント 効果的な集団づくり 8月28日(金) 定員20名	午前 岡田 広示 准教授	学級経営の評価	学級経営における評価基準の作成から、学級経営の課題と傾向を把握し、今後予想される課題の予防と解決方法を考えていきます。
	午後 赤坂 真二 教授	指導力の高い教師の知識と 技術	効果的な指導をしている教師たちは、どのような考えのもとにどのようなことをしているのか。研究や実践をもとに考えます。
3-8-01-04 ICT教育の初歩の 初歩講座 授業でのICT活用の 基礎と実践 9月7日(月) 定員35名	午前 榊原 範久 准教授	明日から使える簡単ICT 活用術	ICTが苦手な人のための講座です。基本的なICTの役割を知り、授業場面での簡単な使い方を機器に触れながら体験します。
	午後 水落 芳明 教授	初めての先生向きiPadの 活用	iPadを授業で使ってみませんか?新しい知識は必要ありません。やる気だけ持ってきてください。初めての方のための講座です。
3-8-01-05 道徳教育に関する講座 道徳授業づくりの 理論と実践 9月18日(金) 定員20名	早川 裕隆 教授	道徳授業づくりの理論と実践	道徳科の授業の意義やあり方に関する講義と、小・中学校それぞれの教材を使った模擬授業(演習)を通して、道徳授業づくり、とりわけ、その活用が求められている道徳的行為に関する体験的な学習としての役割演技の活用の仕方、発問、主題とねらい、評価等について具体的に学び、効果的な授業展開ができる授業力の向上を目指します。
	小宮 健 特任教授 (上越教育大学上廣道徳教育 アカデミー)		
3-8-01-06 主体的・対話的で深い 学びに関する講座 算数・数学と国語での 「深い学び」 9月24日(木) 定員20名	午前 片桐 史裕 教授	国語科授業での様々な「対話 的学び」の体験	「対話的学び」と「深い学び」は密接に繋がっています。様々な対話型国語授業を作り、学びの様相の変化を検証していきます。
	午後 岩崎 浩 教授	算数・数学の本質に迫る授 業づくりの理論と実践	課題を決めるのも、解決方法や結果の妥当性を判断するのも子ども……。そんな子どもの優秀な能力を引き出す授業実践に学びます。

令和2年度 派遣事業研修内容一覧

回数	実施日	市町村名	校種・所属別	学校名等	参加人数	担当	内容等	講話	道徳科の評価	模擬授業	授業づくり演習 授業公開	示範授業	その他
1	6月1日	上越市	中	雄志中	15	田村	実際の教材を使用した教職員対象の模擬授業 発問の工夫についての講話	1		1			
2	6月1日	糸魚川市	小	西海小①	12	小宮	道徳の授業の進め方について 模擬授業	1		1			
3	6月8日	長岡市	中	秋葉中	22	田村	「問題解決的な道徳授業」示範授業(5限道徳) 「問題解決的な道徳授業」講話 職員向け研修(道徳の授業のあり方及び評価について)	1 1	1			1	
4	6月8日	上越市	小	黒田小	12	小宮	3年生を対象とした示範授業(5限道徳) 職員向け研修	1				1	
5	6月10日	五泉市	小	愛宕小	18	早川	道徳科の授業づくり(参加型の模擬授業) 道徳科における指導と評価の一体化 いじめ・差別に関わる授業づくりのポイント	1 1	1	1			
6	6月15日	長岡市	小	榑吉小①	19	小宮	示範授業(6年生対象32名) 協議会 指導「道徳の授業づくりについて」	1				1	1
7	6月22日	糸魚川市	小	糸魚川東小	18	小宮	役割演技の示範授業 講義(役割演技の授業づくりについて)	1				1	
8	6月22日	上越市	中	板倉中①	19	早川	授業づくりに関する講話 授業づくりの演習「うちわと涙」	1					1
9	6月29日	上越市	小	清里小①	12	早川・小宮	4年生公開授業(9:25~10:10) 4年生の授業後の事後カンファレンス(16:00~16:45)				1		1
10	6月29日	十日町市	中	中条中	15	田村	道徳科の授業のつくり方について実践例を交えた講話 示範授業 授業改善について(評価について)	1 1	1			1	
11	7月1日	長岡市	中	越路中	29	田村	2年3組(在籍31名)での示範授業(5限道徳) 講演(道徳授業の在り方について)	1				1	
12	7月1日	糸魚川市	小	西海小②	12	小宮	示範授業(6年) 示範授業(4年)、 4年特別支援学級(知的障害)参観、 道徳の授業公開(参観:3年1組、2組)				1	1	
13	7月15日	上越市	中	板倉中②	18	田村	協議会 講話・指導	1					1
14	7月16日	上越市	小	清里小②	12	早川・小宮	3年生公開授業(9:25~10:10) 3年生の授業後の事後カンファレンス(15:50~16:45)				1		1
15	7月21日	長岡市	中	榑吉中①	16	小宮	示範授業 授業研究協議会 指導	1				1	1
16	7月29日	長岡市	センター	長岡市教育センター	20	早川	役割演技による模擬授業と授業づくりのポイント 小学校低学年・中学年・高学年・中学校の発達段階を踏まえた授業づくり のポイント	1		1			
17	7月31日	新潟市	小	大鷲小	12	小宮	講話 模擬授業「泣いた赤鬼」	1		1			
18	8月3日	上越市	小	明治小①	9	小宮	第3学年道徳模擬授業「ドッジボール大会」 模擬授業を通して授業づくりのポイントを学ぶ 少人数学級や特別な支援が必要な児童のいる学級における「主体的・対 話的な学び」ができる道徳授業のポイント(模擬授業を基にした協議とご指 導)	1 1					
19	8月4日	新潟市	小	亀田小	24	小宮	講話と模擬授業を交えて 講話と模擬授業を交えて 道徳科の授業のつくり方について 役割演技の方法について(進め方や指名児童の見極め方など、具体的 に) 評価について	1 1 1	1	1			
20	8月5日	佐渡市	センター	佐渡総合教育センター(畑野)	36	田村	児童生徒の学びを一層深めるための指導の在り方についての模擬授業 講義	1		1			
21	8月7日	上越市	他	公孫会 高田支部中堅・青年部研修	85	田村	道徳科授業の充実のための講話(模擬授業等参加型の研修を希望)→新 型コロナウイルス感染拡大防止のため、田村Tが作成した資料を会員に8 /7に送付した。各自の課題学習とした。						1
22	9月3日	上越市	センター	上越市教育センター①	9	小宮	「道徳教育研修Ⅰ(小)」小学校対象、具体的な教材を取り上げ以下の点 について学ぶ。教材解釈、「考え議論する」場面設定や発問等の授業づく り 「道徳教育研修Ⅰ(小)」小学校対象、具体的な教材を取り上げ以下の点 について学ぶ。模擬授業 「道徳教育研修Ⅰ(小)」小学校対象、具体的な教材を取り上げ以下の点 について学ぶ。評価の方法	1		1			
23	9月7日	長岡市	小	神田小	12	小宮	示範授業(考え、議論する道徳授業/自分事として考える児童の育成) 協議会 講演(児童が自分事として考え、議論する道徳授業について)	1				1	1
24	9月10日	上越市	小	清里小③	14	小宮・田村	6年生公開授業(10:30~11:15) 6年生の授業後の事後カンファレンス(15:45~16:40)				1		1
25	9月11日	上越市	小	稲田小	21	小宮	模擬授業 質の高い多様な指導方法について 「道徳授業づくりの理論と実践」道徳科の授業の意義やあり方に関する講義	1 1					

回数	実施日	市町村名	校種・所属別	学校名等	参加人数	担当	内容等	講話	道徳科の評価	模擬授業	授業づくり演習 授業公開	示範授業	その他
26	9月18日	長野県	センター	長野県総合教育センター	30	早川・小宮	「道徳授業づくりの理論と実践」、道徳科の授業の意義やあり方に関する演習 「道徳授業づくりの理論と実践」、模擬授業			1			1
27	9月28日	新潟市	特支	県立西蒲高等特別支援学校①	2	小宮	道徳授業(全学級で道徳の公開授業)の参観 授業改善に向けた指導助言	1			1		
28	9月30日	上越市	小	清里小④	20	林	5年生道徳科公開授業(13:45~14:30) 5年生の授業後の事後カンファレンス(15:50~16:30)				1		1
29	9月30日	秋田県	他	秋田公立美術大学 ・上越教育大学連携事業	48	小宮	由利本荘市・にかほ市内小中学校で示範授業①10:30~12:20、②13:30~15:30 講演18:00~18:20(zoomによるリモート) シンポジウム及びミニ講演18:40~20:00(zoomによるリモート)	1 1				1	
30	10月2日	千葉県	小	富津市立天羽小学校①	27	小宮	授業参観 授業展開 研究協議講評 示範授業 講演会	1 1			1		1
31	10月6日	石川県	小	白山市立美川小学校	18	田村	模擬授業 協議会	1		1			
32	10月7日	石川県	小	白山市学校教育研究会 道徳教育部会	28	田村	模擬授業 協議会	1		1			
33	10月8日	魚沼市	教委	魚沼市教育委員会	39	早川	ウォーミングアップ(11:25~12:10) 示範授業(魚沼市立広神中学校2年生) 講演会(対象は、魚沼市の各小中学校等の教職員)	1				1	1
34	10月8日	上越市	他	公孫会 くびき支部青年部	10	田村	青年部研修、オンラインで実施(上教大の田村研究室からzoom)、小学校 高学年~中学校での道徳指導の在り方 青年部研修、オンラインで実施(上教大の田村研究室からzoom)、模擬授業	1		1			
35	10月15日	上越市	小	清里小⑤	13	早川・小宮	2年生公開授業(10:30~11:15) 2年生の授業後の事後カンファレンス(15:50~16:40)	2			1		1
36	10月19日	上越市	中	板倉中③	17	小宮	道徳の授業参観(2年生) 協議会「自分の考えをもち、進んで伝え合おうとする生徒の育成につながる授業にするために工夫すべき点は何か? ~多様な考えや発言を引き出すために、学年道徳という形態は効果的であったか?~」 講話・指導	1 1			1		1
37	10月21日	上越市	センター	上越市教育センター②	6	田村	「道徳教育研修Ⅱ(中)」中学校対象、具体的な教材を取り上げ以下の点について学ぶ。教材解釈 「道徳教育研修Ⅱ(中)」中学校対象、具体的な教材を取り上げ以下の点について学ぶ。「考え議論する」場面設定や発問等の授業づくり 「道徳教育研修Ⅱ(中)」中学校対象、具体的な教材を取り上げ以下の点について学ぶ。模擬授業 「道徳教育研修Ⅱ(中)」中学校対象、具体的な教材を取り上げ以下の点について学ぶ。評価の方法	1 1		1			
38	10月30日	千葉県	小	成田市立公津の杜小学校	39	小宮	示範授業(13:35~14:20) 模擬授業での研修「考え、議論する道徳教育」(15:00~18:20) 模擬授業での研修「考え、議論する道徳教育」(15:00~18:20)	1		1			
39	11月2日	新潟市	特支	県立西蒲高等特別支援学校②	47	小宮	全校一斉道徳授業の参観(9:35~10:05) 校舎案内(10:30~11:15) 授業についての指導(11:15~11:50) 職員研修(13:30~15:30)特別支援学校高等部の「特別の教科 道徳」の在り方 職員研修(13:30~15:30)特別支援学校高等部の道徳の授業づくり 職員研修(13:30~15:30)特別支援学校高等部の評価の仕方について 職員研修(13:30~15:30)模擬授業	1 1 1 1 1		1			
40	11月4日	石川県	中	内灘町立内灘中学校	37	田村	示範授業(1年) 示範授業(2年) 示範授業(3年) 教員研修(授業の展開について) 教員研修(評価について)	1 1 1				1 1 1	
41	11月5日	新発田市	中	加治川中	15	田村	示範授業(13:40~14:30):中学校 問題解決型授業 校内研修会(15:00~16:30):授業解説 校内研修会(15:00~16:30):「問題解決型授業」のポイント	1 1				1	
42	11月11日	妙高市	他	妙高市教育研究会道徳部	14	小宮	教員対象にした「考え、議論する道徳」を志向した模擬授業(議論する道徳授業) 新しい道徳の評価について研修	1	1				
43	11月16日	長岡市	中	宮内中	40	早川	研究授業(2年生公開授業) 協議会 指導・講演	1				1	1
44	11月19日	新潟市	中	巻東中	22	田村	示範授業(1年生:14:15~15:05) 全体研修(協議会):講話「道徳の授業づくりについて」 全体研修(協議会):ご指導	1 1				1	
45	11月20日	石川県	中	白山市立光野中学校	19	田村	道徳の示範授業(2年2組) 道徳に係る講義(若手教員対象)	1				1	
46	11月24日	上越市	小	明治小②	8	小宮	第4学年道徳示範授業(14:35~15:20) 示範授業を基にした「主体的・対話的な学び」ができる道徳授業のポイント(15:45~16:45)	1				1	

回数	実施日	市町村名	校種・所属別	学校名等	参加人数	担当	内容等	講話	道徳科の評価	模擬授業	授業づくり演習 授業公開	示範授業	その他
47	11月26日	魚沼市	他	湯之谷地区教育振興会	33	早川	授業参観①(湯之谷中学校2年生)10:45~11:35				1		
							授業参観②(湯之谷小学校4年生)13:30~14:15				1		
							講演(対象は湯之谷中学校・湯之谷小学校の教職員)	1					
48	11月30日	南魚沼市	小	上関小	11	小宮	指導(対象は湯之谷中学校・湯之谷小学校の教職員)	1				1	
							示範授業(5限:2年生授業)						
							講話	1					
49	12月4日	長岡市	中	栖吉中②	18	小宮	授業公開(1年1組 廣井教諭)				1		
							小グループになり各自の授業実践についての意見交流、 公開授業についての協議会						1
							小宮先生からのレベルアップ講座	1					1
50	12月07日	長岡市	小	栖吉小②	19	小宮	授業公開				1		
							協議会						
51	12月10日	石川県	小	金沢大学附属小学校	27	田村	指導(道徳の授業づくりについて)	1					
							示範授業(5限:1年生授業)					1	
							示範授業(6限:6年生授業)					1	
52	12月10日	千葉県	小	富津市立天羽小学校②	24	小宮	講話	1					
							授業参観				1		
							示範授業					1	
53	12月11日	柏崎市	センター	柏崎市立教育センター	45	早川	研究協議講評	1					
							講演会	1					
							zoomによる講義	1					
54	12月14日	柏崎市	中	第二中	21	田村	6限に示範授業				1		
							職員研修(全体研修)	1					
55	12月17日	千葉県	小	市川市立富貴島小学校	25	小宮	授業実践 4年4組 岩崎 佳菜(13:35~14:15)				1		
							全体研修会:授業実践についての振り返り(14:45~16:15)						1
							小宮先生による模擬授業(14:45~16:15)			1			
56	1月18日	新潟市	小中	東石山中学校区(東石山中・東中野山小・南中野山小)	62	田村	小宮先生による道徳教育について(14:45~16:15)	1					
							授業公開(中学校の授業公開を中学校区の小学校職員が参観)				1		
							協議会(中学校区の小中職員を対象)						1
57	1月27日	石川県	小	白山市立明光小学校	24	田村	情報交換(中学校区の小中職員を対象)						1
							講演会(中学校区の小中職員を対象)	1					1
							道徳資料の効果的な活用の仕方	1					
58	2月1日	石川県	中	白山市立白嶺中学校	10	田村	道徳授業における深まりのある発問について	1					
							道徳の評価について	1	1				
							示範授業(4限)11:35~12:25					1	
59	2月18日	上越市	中	板倉中④	16	田村	示範授業(5限 1年2組)13:50~14:40					1	
							協議会						
							指導	1					1
60	2月24日	石川県	中	金沢大学附属中学校	22	田村	示範授業(3限、4限、5限、6限:1年生授業)					1	
							講話	1					
61	2月25日	石川県	中	白山市立北辰中学校	18	田村	示範授業(6限 2年4組)14:35~15:25					1	
							授業整理会						
							講演会(道徳教育)15:50~16:40	1					
62	3月2日	新発田市	小	加治川小	17	小宮	示範授業(5限 5年2組)13:30~14:15					1	
							模擬授業				1		
							職員研修「授業解説と役割演技型を用いた授業のポイント」	1					

令和2年度 派遣事業研修回数及び派遣先一覧

令和2年度最終報告

地域	回数	小学校	中学校	小中一貫校・高等学校・特別支援学校	教育委員会	その他
上越市	18	4) 黒田1・清里5・稲田1・明治2	2) 板倉4・雄志1		1) 上越市教育センター2	2) 公孫会くびき野支部青年部1 公孫会高田支部中堅青年部1
糸魚川市	3	2) 糸魚川東1・西海2				
柏崎市	2		1) 第二1		1) 柏崎市立教育センター1	
長岡市	9	2) 神田1・栖吉2	4) 栖吉2・宮内1・越路1・秋葉1		1) 長岡市教育センター1	
新潟市	6	4) 亀田1・大鷲1・東中野山(東石山中学校区)1 南中野山(東石山中学校区)1	2) 巻東1・東石山(東石山中学校区)1	1) 県立西蒲高等特別支援学校2		
五泉市	1	1) 愛宕1				
妙高市	1					1) 妙高市教育研究会道徳部1
新潟市	2	1) 加治川1	1) 加治川1			
魚沼市	2				1) 魚沼市教育委員会1	1) 湯之谷地区教育振興会1
南魚沼市	1	1) 上関小				
十日町市	1		1) 中条1			
佐渡市	1				1) 佐渡総合教育センター1	
新潟県合計	47	新潟県小学校 15	新潟県中学校 11	新潟県 1	新潟県の教育委員会・センター 5	新潟県 4
千葉県	4	3) 富津市立天羽2・成田市立公津の杜1 市川市立富貴島1				
石川県	9	3) 白山市立美川1・金沢大学付属1 白山市立明光小1	5) 白山市立北辰1・白山市立光野1 内灘町立内灘1・白山市立白嶺1 金沢大学付属1			1) 白山市学校教育研究会道徳部会1
長野県	1				1) 長野県総合教育センター1	
秋田県	1					1) 秋田公立美術大学・上越教育大学 連携授業1
合計	62	21	16	1	6	6

ア 回数は延べ派遣回数
 イ 事前の打ち合わせもカウントする
 ウ 受講機関数は同一校で複数回開催は1カウント、同一開催で複数校参加(中学校区で開催等)は各校数で計上
 ※上記により派遣依頼機関数と受講機関数は一致しない
 エ 教育センターは教育委員会でカウント
 オ 上記以外
 ・上越教育大学学校教育実践研究センターの水曜セミナーで6回開催(延べ参加者37名)

まとめ
 延べ派遣回数 62回(県内…47回 県外…15回)
 延べ参加人数 1382名
 派遣依頼機関数 48件(県内…34件 県外…14件)
 受講機関数 50件(県内…36件 県外…14件)

② 教職員のための自主セミナー（水曜セミナー） 「上廣道徳教育アカデミー 道徳教育セミナー」

1. 開催日及び実施内容

これまで、5-10月に開催してきたが、本年度は新型コロナ感染拡大防止のために、9-12月の実施に計画を変更し、各回18:30~20:00に6回実施した。小学校教員対象3回、中学校教員対象を3回の実施内容は、以下の通りである。

<小学校教員対象>

道徳科授業において明らかになってきた課題について協議した。道徳的行為に関する体験的な学習について、役割演技を交えて模擬授業を実施した。

9月16日 5年生「すれちがい」（相互理解・寛容）を教材にした。

10月14日 4年生「ほっとけないよ」を教材にした。

11月18日 1年生「二わのことり」を教材にした。

<中学校教員対象>

「受容を大切にしたい道徳の授業」の意義や展開について、模擬授業を基に協議した。道徳の授業づくりでは、ねらいの設定・発問の意義・板書の構造化について協議した。

9月30日 「恋」をテーマにした。

10月28日 「いじめのある学級」をテーマにした。

12月16日 「子どもを残して死亡した病気の母親の生き方」をテーマにした。

2. 場所

上越教育大学 学校教育実践研究センター

3. 参加人数

6回の延べ参加人数は37名であった。

4. 評価

道徳教育を学ぼうと、勤務を終え参加する意欲的な教員を対象に開催する講座であり、ニーズに応じた具体的な内容を工夫し実施してきた。模擬授業を中心に、参加型の演習を核に位置づけた。セミナー修了後に実施しているアンケートの記述（概要）には次のようなものが見られた。記述内容を整理すると、教材研究の視点から協議する場を設けることが参加者のニーズに沿っていることがうかがえる。

① 授業づくりについて（ねらい・発問の立て方等）

- ・口では「答えがひとつでない」とか「多様性」とか言いながら、自分の価値観にしばられている。そして、子どもを自分の持っていきたい方向に引っ張ってしまうように思います。自分にない考えが出たときにどうするか、間をもって、自分の判断をせず、子どもに聞いて考えるようにしたいと思いました。
- ・指導案作成のステップがとても納得のいくもので参考になった。他の先生方の多種多様な考えに触れることができ、とても楽しかった。
- ・学習指導要領と教材をつなぐことが大切だと思いました。どうつないで考えるかで、子どもに気づかせ、考えることが変わってくるからです。教材の何が指導要領のどこなのか見るところが少しだけ分かったように思います。

② 指導方法「役割演技」について

- ・ロールプレイを使っただけの体験型授業が見られて良かったです。「どうして腹を立てると、人間は口をきかなくなるのか」という発問をどのように発想できたのか知りたいです。初発問の感想から授業を組み立てたことはすごいと思いました。

- ・主人公に焦点を充てるのではなく、靴隠しをしてしまった子どもの気持ちに向けた授業の進め方が勉強になりました。夢の中を役割演技で想像することで、問題にストレートにあたることなく、少し柔らかな感じになることがわかり、1つのアイデアとして勉強になりました。

③ 指導方法「受容を大切にした授業」について

- ・生徒指導、学級活動のように、現場では道徳が問題解決のために役立つと、間違った見方がまだ続いているのは、教科書の教材にもよると思いました。純粹に、今日のような心のあり様を問い続けるような授業は、本当に楽しくて初めての経験でした。
- ・実践例を提示しながら体験することで、教える側の立場ではなく、聞き考える側として、どのように授業が展開されるのがとても良い経験をさせてもらいました。実際に見ることがなく、興味があった発問を1つにすることの授業づくりの方法が知ることができたのはとてもよかったです。

④ 情報交換・協議の場として

- ・子どもが自身の価値、思い込みを問い直すことができるようにしたい。子どもが「質問」できるように、「聴く力」と対話力（思考力）をつける授業を考えていきたい。
- ・実際の教材を使って、授業を体験でき学びが深まりました。児童の視点に立ち、教材研究を行っていく大切さを改めて感じました。「どうして腹を立てると人は口をきかなくなるの？」という発問により、単に仲直りの方法を考えるより、人とより理解し合うにはどうすればいいのか考えるきっかけになったように思います。
- ・人を好きになっても必ずしも自分のことを思ってくれるわけではないこと、思い通りにならないこと、自分の気持ちに折り合いをつけることなど、ざわつく自分の心をどうやったら穏やかにすることができるのかということも大切だと思いました。道徳授業で、心について、もっと考えて取り入れたいです。
- ・自己内対話をさせたいと思って取り組んでいるので、とても参考になりました。思いを聞いてもらえること、皆の考えが聞けること。とても楽しかったです。
- ・何に気づかせて、何を考えさせるのかということが分かりました。そのためには、自分が深く思考して、捉えていないといけないのだと気づきました。先生に何度も何度も問われて自分の頭の中はぐちゃぐちゃしてきて、とても不安な気持ちになりました。自分の中に芯がないのだと反省しています。

5. 課題

道徳が教科としてさらに定着していけば、次年度も学校内の困り感や課題がより具体的になる時期であると考えます。そのため、教材研究を基にした、より深い学びを求める要請も出てくると捉え、以下の4点に留意していきたい。

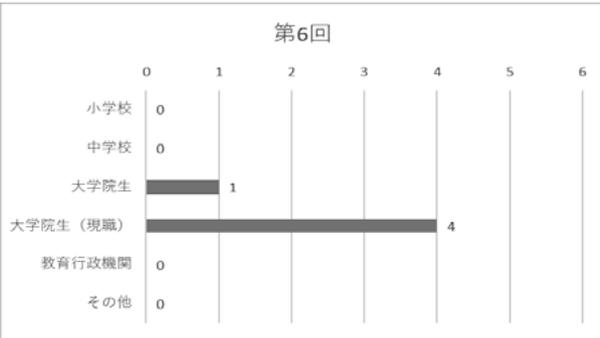
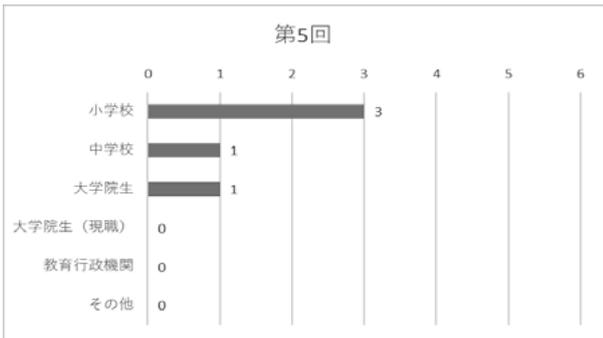
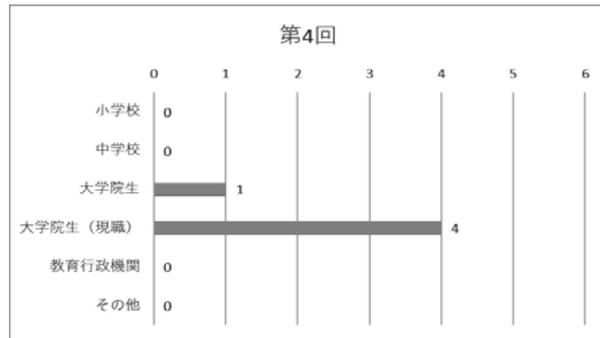
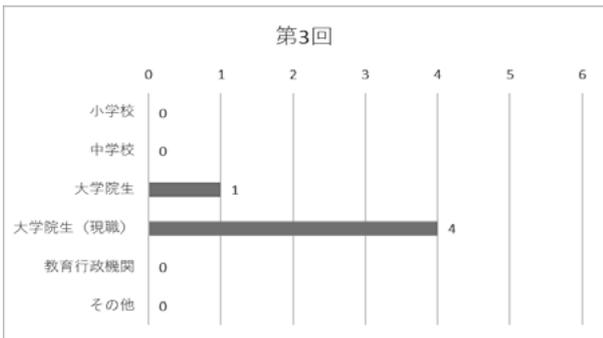
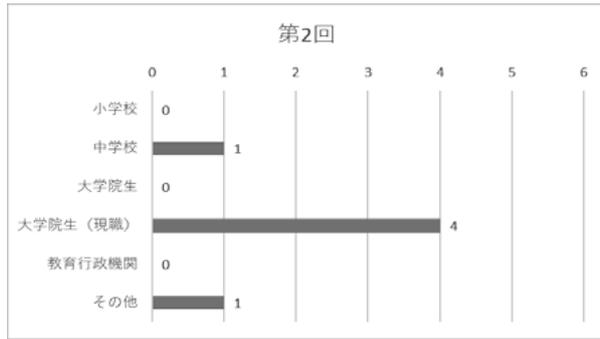
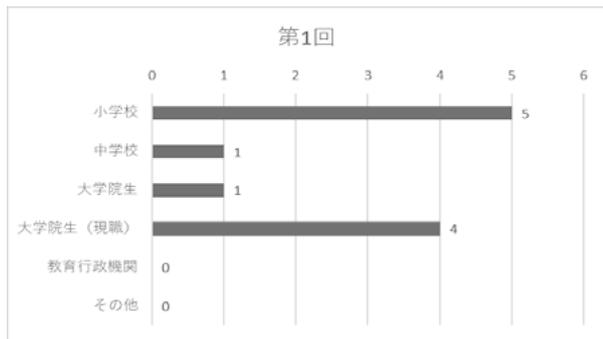
- ① 引き続き、小中学校で採択されている教科書教材での授業づくりと演習への支援を大切に位置づける。また、年間を見通し、学校・学年ごとの実態に応じた重点内容項目を活かす演習を提案する。
- ② 模擬授業を中心に位置づけながら、参加者が立ち止まり、協議できる演習の時間を取り入れ、工夫することで、現場の見方や取り組み方をより具現化し、充実させたい。
- ③ 次年度の計画でも、市内外共通の行事日程を確認し、多くの教員が参加可能となる開催日を選定する。併せて、上越市内の小中学校には年間を通じて、学教センターより、対象教員（小学校・中学校）へ具体的なテーマを連絡・周知してもらう。
- ④ 教授型の運営に留まることなく、今後も意見交換・情報交換を交え、協働の教材研究の場としたい。事前に、参加者からの本セミナーへの期待や要望を大切に捉え、協働のセミナーとして準備していきたい。

令和2年度 教職員のための自主セミナー(水曜セミナー)「上廣道德教育アカデミー 道德教育セミナー」実施一覧

会場: 上越教育大学学校教育実践研究センター

回	実施日	対象・テーマ・内容	講師	参加数
1	9月16日	【小学校教員対象①】 実践道德授業 5年生「すれちがい」(相互理解・寛容)を教材に	小宮	11
2	9月30日	【中学校教員対象①】 実践道德授業 「恋」をテーマに	田村	6
3	10月14日	【小学校教員対象②】 実践道德授業 4年生「ほっとけないよ」を教材に	小宮	5
4	10月28日	【中学校教員対象②】 実践道德授業 「いじめのある学級」をテーマに	田村	5
5	11月18日	【小学校教員対象③】 実践道德授業 1年生「二わのことり」を教材に	小宮	5
6	12月16日	【中学校教員対象③】 実践道德授業 「子どもを残して死亡した病気の母親の生き方」をテーマに	田村	5
			合計	37

所属別参加者内訳



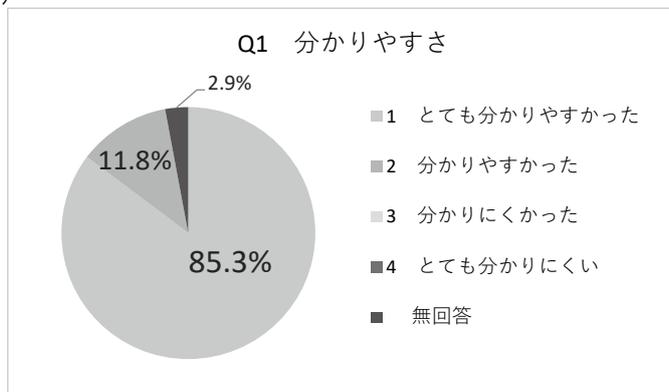
令和2年度 教職員のための自主セミナー（水曜セミナー）
 「上廣道德教育アカデミー 道德教育セミナー」アンケート結果（自由記述除く）

回答数 34（延べ参加者数37名）

アンケート回収率 91.9%

Q1 研修内容は分かりやすかったですか(分かりやすさ)

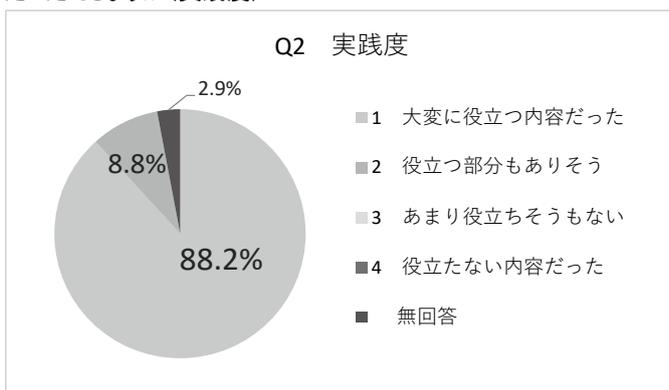
回答番号	回答	%
1 とても分かりやすかった	29	85.3%
2 分かりやすかった	4	11.8%
3 分かりにくかった	0	0.0%
4 とても分かりにくい	0	0.0%
無回答	1	2.9%



有効回答数（※無効回答0） 34 100.0%

Q2 貴校(または先生ご自身)の今後の実践に役立つ内容だったでしょうか(実践度)

回答番号	回答	%
1 大変に役立つ内容だった	30	88.2%
2 役立つ部分もありそう	3	8.8%
3 あまり役立ちそうもない	0	0.0%
4 役立たない内容だった	0	0.0%
無回答	1	2.9%



有効回答数（※無効回答0） 34 100.0%

③ 研究大会（中止報告）

令和2年度 上越教育大学上廣道德教育アカデミー研究大会は、新潟県立教育センターにおいて開催する計画で準備を進めたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止することとした。大会概要は下記のとおりである。

令和2年2月27日

令和2年度

上越教育大学上廣道德教育アカデミー研究大会（案）

1. 大会テーマ

「道德に関する教員の力量形成」

2. テーマについて

道德科の教科書の採択が今年度の中学校でいったん終了し、初期に見られた教科化による混乱にある程度の収束が感じられる。今後は、道德科に関する制度の問題から、道德科授業の充実や充実した道德科と道德教育との有機的な関連のあり方、すなわち、質的な充実が、益々本格的に求められるようになると考えられる。

授業を展開する一人一人の教員が、いかに適切に、工夫しながら道德科授業や道德教育を充実させるのか。まさに、一人一人の教員の力量が問われることとなる。

そこで、教員の力量の向上にとって必要な研修の現状や、自主的研究会の活動について概観すると共に、情報交換することを通して、今後の可能性やあり方について考え合いたい。

3. 日時

令和2年8月20日（木） 10:00～16:30

4. 会場

新潟県立教育センター（新潟市西区曾和100番地1）

5. 内容

- | | |
|-------------|-------------------------------------|
| 9:50～10:10 | 受付 |
| 10:10～10:25 | 開会式・趣旨説明 |
| 10:30～11:30 | 基調講演「教員研修の現状と工夫（仮）」
・県外研修会 |
| 12:20～13:55 | 授業づくりワークショップ |
| 14:00～16:20 | シンポジウム
・県・市の教育センター、県内外の研究会（道德）等。 |

資料編

目次

資料 1

第 I 期上越教育大学上廣道德教育アカデミー実施委員会名簿	67
-------------------------------	----

資料 2

第 I 期上越教育大学上廣道德教育アカデミー実施委員会開催状況	68
---------------------------------	----

資料 3- 1

平成30年度派遣事業アンケート結果	69
-------------------	----

資料 3- 2

令和元年度派遣事業アンケート結果	73
------------------	----

資料 3- 3

令和2年度派遣事業アンケート結果	78
------------------	----

資料 4- 1

平成30年度研究大会講師資料	82
----------------	----

資料 4- 2

令和元年度研究大会講師資料	101
---------------	-----

資料 5

論文 上越教育大学教職大学院研究紀要 第8巻	119
------------------------	-----

「上越教育大学上廣道德教育アカデミーの意義について

—講師派遣依頼の研修テーマの変遷と、提供した内容を中心に—

資料1 第I期 上越教育大学上廣道德教育アカデミー実施委員会名簿

上越教育大学上廣道德教育アカデミー運営委員会名簿

氏名	上廣道德教育アカデミー職名	委員役職名	備考
林 泰成	統括監督者	委員	
早川 裕隆	所長	委員長	
小宮 健	特任教授	副委員長	
田村 博久	特任教授	委員	R1年度～
岩城 淑樹	研修支援コーディネーター	委員	R1年度～
佐藤 賢治	研修支援コーディネーター	委員	H30年度

上越教育大学上廣道德教育アカデミー運営諮問委員会名簿

氏名	所属又は職名	委員役職名	備考
川崎 直哉	上越教育大学学長	委員長	
林 泰成	上廣道德教育アカデミー統括監督者／上越教育大学大学院教授	委員	
小埜 裕二	上越教育大学副学長	委員	
田沼 茂紀	國學院大學教授	学外委員	
小林 福太郎	東京女子体育大学教授	学外委員	
竹田 充	新潟県教育庁上越教育事務所長	学外委員	R1年度～
宮野 正則	新潟県教育庁上越教育事務所長	学外委員	H30年度
矢川 京	新潟県立教育センター所長	学外委員	R1年度～
市川 亮	新潟県立教育センター所長	学外委員	H30年度
山田 哲哉	新潟市教育委員会学校支援課長	学外委員	R2年度
齊藤 純一	新潟市教育委員会学校支援課長	学外委員	H30年度～R1年度
宮川 高広	上越市教育委員会学校教育課長	学外委員	R1年度～R2年度
親跡 久樹	上越市教育委員会学校教育課長	学外委員	H30年度

資料2 第1期 上越教育大学上廣道德教育アカデミー実施委員会 開催状況

平成30年度

- ・ 4/19 (木) 第1回 上廣道德教育アカデミー運営委員会
- ・ 5/31 (木) 第2回 上廣道德教育アカデミー運営委員会
- ・ 6/21 (木) 第3回 上廣道德教育アカデミー運営委員会
- ・ 8/ 2 (木) 第4回 上廣道德教育アカデミー運営委員会
- ・ 10/16 (火) 第5回 上廣道德教育アカデミー運営委員会
- ・ 11/ 1 (木) 第6回 上廣道德教育アカデミー運営委員会
- ・ 12/ 4 (火) 第7回 上廣道德教育アカデミー運営委員会
- ・ 12/21 (金) 平成30年度 上越教育大学上廣道德教育アカデミー運営諮問委員会
- ・ 3/ 5 (火) 第8回 上廣道德教育アカデミー運営委員会

令和元年度

- ・ 4/ 2 (火) 第1回 上廣道德教育アカデミー運営委員会
- ・ 6/ 5 (水) 第2回 上廣道德教育アカデミー運営委員会
- ・ 7/24 (水) 第3回 上廣道德教育アカデミー運営委員会
- ・ 9/20 (金) 第4回 上廣道德教育アカデミー運営委員会
- ・ 11/ 5 (金) 第5回 上廣道德教育アカデミー運営委員会
- ・ 11/26 (火) 第6回 上廣道德教育アカデミー運営委員会
- ・ 12/10 (火) 第7回 上廣道德教育アカデミー運営委員会
- ・ 12/12 (木) 令和元年度 上越教育大学上廣道德教育アカデミー運営諮問委員会
- ・ 1/16 (木) 第8回 上廣道德教育アカデミー運営委員会
- ・ 2/ 5 (水) 第9回 上廣道德教育アカデミー運営委員会
- ・ 3/ 4 (水) 第10回 上廣道德教育アカデミー運営委員会
- ・ 3/11 (水) 第11回 上廣道德教育アカデミー運営委員会

令和2年度

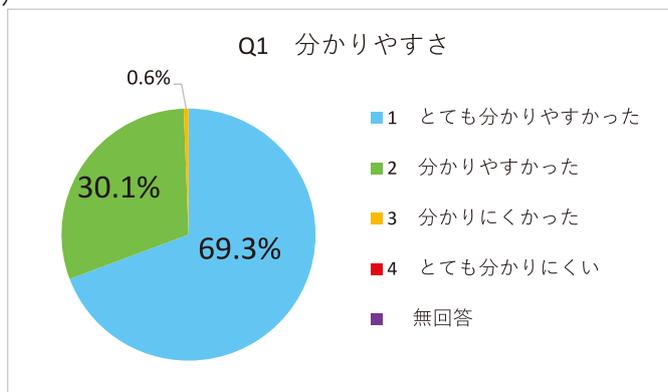
- ・ 4/13 (月) 第1回 上廣道德教育アカデミー運営委員会
- ・ 5/21 (木) 第2回 上廣道德教育アカデミー運営委員会
- ・ 7/15 (水) 第3回 上廣道德教育アカデミー運営委員会
- ・ 10/20 (火) 第4回 上廣道德教育アカデミー運営委員会
- ・ 11/17 (火) 第5回 上廣道德教育アカデミー運営委員会
- ・ 12/ 1 (火) 令和2年度 上越教育大学上廣道德教育アカデミー運営諮問委員会
- ・ 12/15 (火) 第6回 上廣道德教育アカデミー運営委員会
- ・ 2/ 4 (木) 第7回 上廣道德教育アカデミー運営委員会
- ・ 3/17 (水) 第8回 上廣道德教育アカデミー運営委員会

資料3-1 平成30年度 派遣事業アンケート結果

回答数 1482

Q1 研修内容は分かりやすかったですか(分かりやすさ)

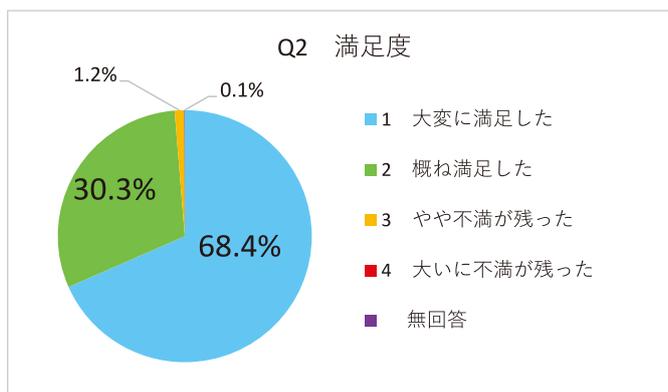
回答番号	回答	%
1 とても分かりやすかった	1026	69.3%
2 分かりやすかった	446	30.1%
3 分かりにくかった	9	0.6%
4 とても分かりにくい	0	0.0%
無回答	0	0.0%



有効回答数 (※無効回答1) 1481 99.9%

Q2 研修内容は満足のものだったでしょうか(満足度)

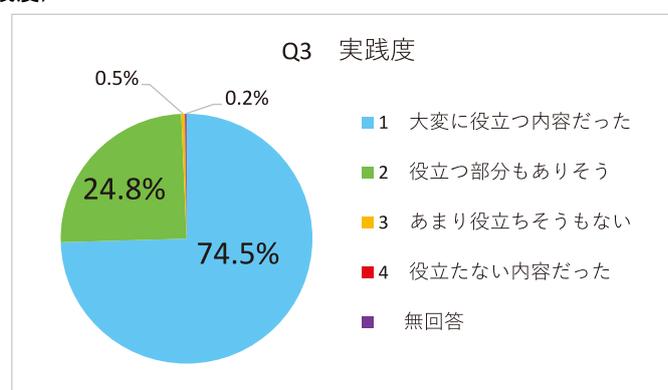
回答番号	回答	%
1 大変に満足した	1013	68.4%
2 概ね満足した	449	30.3%
3 やや不満が残った	18	1.2%
4 大いに不満が残った	0	0.0%
無回答	1	0.1%



有効回答数 (※無効回答1) 1481 99.9%

Q3 貴校の今後の実践に役立つ内容だったでしょうか(実践度)

回答番号	回答	%
1 大変に役立つ内容だった	1104	74.5%
2 役立つ部分もありそう	367	24.8%
3 あまり役立ちそうもない	7	0.5%
4 役立たない内容だった	0	0.0%
無回答	3	0.2%



有効回答数 (※無効回答1) 1481 99.9%

Q4 本日の研修内容について、良かった点、役立ちそうな点をお聞かせください。(一部抜粋・「その他」は研修団体の教員)

Q4 自由記述	校種別等
<p>ゴール地点を作らず、洞察していく形について、とても魅力を感じました。子供達の考えや意見を否定せず、どのようにしてねらいの達成感まで、もっていくかということばかりに意識が向いていましたが、「その形ではなくてもいいのでは」という考えに救われた気がします。</p>	小学校
<p>模擬授業を通して、教師がどう子供達の考えや思いを引き出していくのかがわかりました。「しつこく聞いて下さい」の中に、子どもを認めるということがあるのだと思います。また、しつこく聞くことは、子どもをさらに深く考えさせたり、思いを言語化させ共有したり、広げたりすることになると実感しました。</p>	小学校
<p>「中学生で役割演技! ? 私のクラスの子達は、きっとひかえめだから、やりたがらないだろうな・・・」そんなことをはじめは感じていましたが、研修後はぜひやってみようと思いました。「考えるだけ」が良いのか、「考えて言葉に出して動いてみる」が良いのか、実践して確かめてみたいと強く思いました。</p>	小中合同
<p>自分事として考える大切さと、難しさに気付いた。また、よい教材とは、答えがはっきりと決まっている、あるいは解決が容易にできそうなものではなく、まさに多様な考えが表出されるようなものだと知れたことが良かった。こういう視点を教師が持つことで、子どもたちの学びも豊かになると思った。</p>	その他
<p>今日の授業を参観させていただいて、道徳の授業に対する考え方が大きく変わりました。価値観の押しつけであったり、最後は生徒の足りていないと感じている視点を教師がまとめなければならないと考えていました。まずは生徒の話を生懸命聞くこと、よく理解できなければ聞き返して確認してもよいこと、子供と一緒に、私達も新たな見方、気持ち、感情を学んでいけること、心に実践していきたいと思えます。</p>	中学校
<p>スタートと終わりは子どもで終わるということがとても印象的でした。また、生徒とのやりとりの中で授業が進められていくことが、生徒も先生もはじめてだったにもかかわらず、とてもスムーズにできていたことが印象的でした。みんなの意見をすべて生かすことを参考にしたいと思えます。また、ロールプレイも取り入れながら授業を考えてみたいです。</p>	中学校
<p>「二通の手紙」についてあんな短時間でまとめに入れたのは生徒役が教師だから? 発問、展開とても参考になりました。他校の生徒の授業の振り返りを聞かせてもらいましたが、思っていた以上に、深く考えていて、続きの授業をぜひやって、その後、どんな風に考えが変わっていくか、深まっていくか、知りたい。</p>	中学校
<p>自分の弱さや人間としての弱さを認めて受容すること。情報交換することが、多角的、多面的な議論をすること。教師がまとめておわりではなく、各自がまとめて終わりにすること。文科省の解説を読んだとき、具体的にどういことをするのかイメージができなかった。今日の研修でイメージすることができた。</p>	中学校
<p>「どうしても教師は、授業の終わりに1つにまとめたがる傾向がある。という言葉、「ぐちゃぐちゃになるのがいいんだ」という言葉が印象的でした。子供の感想(プリント)の中で、ある子が「いろんな考え方があって不思議だ」という言葉があり、これこそ自分の考えを再構築するものになるのかなどと考えます。道徳の授業こそ、何のしがらみもなく、正しい答えもなく、子どもの素の言葉、心の言葉が出るような学級経営、授業作りが大切だと感じました。</p>	教育委員会
<p>他人事ではなく、自分事として考えるという中で、すべてを自分の事とするのは、重くなる。半分くらい自分事として考えられれば良いということが、とても印象に残った。半分くらいでいいからこそ、多面的などらえができるのかもしれない。今後教材をどのようにとらえるか、ねらいや、発問など教師同士で話し合う機会を持ちたいと思った。</p>	中学校
<p>まず、教師が主題をしっかりと把握すること、ねらいを明確にすることの大切さを学びました。多角的、多面的に深く議論するため、新しい価値観の発見をさせる、発問や焦点化が必要だと改めて感じました。今日学んだことを学校でも広めていきたいと思えます。</p>	教育委員会
<p>実際のロールプレイのポイントや授業の流し方、焦点化を図る時間(配分)などを聞くことができて、ありがたかったです。</p>	教育委員会
<p>授業形式での議論が良かったです。</p>	教育委員会
<p>授業のポイントは、道徳的価値をしっかりと押さえて授業をすることだと確認できました。また、子供達のことを第一にと思いつつも、教師の思いを誘導してしまうので、「子供が何を話し合いたいのか」を考えて授業を作っていくと思います。</p>	教育委員会
<p>今年度より教科化された小学校の先生方と情報交換ができた。目指すべき方向性や校内研修で進めるべき内容について、多くの考えるべき視点に気付かされた。校内で議論を重ねて、授業改善を進めていきたい。</p>	教育委員会
<p>結論を先に言っていたら、話が分かりやすかったです。具体的な教材や指導案はすぐに使えるものであり、とてもためになります。模擬授業やロールプレイについても実際に見せていただきました。ありがとうございました。</p>	教育委員会
<p>役割演技の時に誰を演者にするとよいのか、子供の気持ちを聴きながら見定めていくことの大切さを実感しました。主題、めあて、教材解釈、発問を授業者が深く考え、どんな子に育てたいのかねらいを明確にもってチャレンジしてみたいと思えます。</p>	小学校
<p>教師、演者を実際にやってみることで、実感を伴った理解につながった。本音を引き出す発問、問い返し、確認の声掛けが大変参考になった。まずは観客づくり、ウォーミングアップを重ねて話せる子供を育てていきたい。</p>	小学校

Q4 自由記述	校種別等
役割演技に至るまでの子どもたちの思考を深めていく様子が大変勉強になりました。子どもがグッと引き込まれる朗読の仕方、間の取り方、発問の仕方、子どもの発言の聞き方等、自分自身、身につけられるよう研究していきたいと思えます。また、評価について具体的にお聞きできたのも助かりました。	小学校
授業を見て、子どもたちの姿を見て学ぶことができ、勉強になりました。道徳として目指すところは、とてもよく理解できたように思いますが、具体的にねらい、評価・・・となると、まだイメージがしづらく難しいと感じました。	小学校
役割演技の方法やまとめ方がとてもよく分かりました。普段から子供をよく見ること、友達の話の聞き方や、反応で発言させる子供を選ぶなど、教師の心構えも大変勉強になりました。自分でも挑戦してみたいと思いました。	その他
評価するためには、普段の子供達の見取りと授業のねらいが大切であることが分かり、評価することで授業1時間1時間の成果や質が高まるように思いました。また、そのことをふまえて模擬授業を受けることで具体的にどのように授業を展開すればよいのかイメージを持つことができました。	その他
評価するためには、授業のねらいを設定して、それにそってすることが大切だということをお聞きして、なるほどと思いました。役割演技のやり方の大切なことも、よくわかり、とても参考になりました。深い授業にすることができるとことが分かりました。自分も実践していきたいと思えます。	その他
道徳授業の中での役割演技の具体的な流し方や、取り入れ方が分かった。どんな風に演技をする子供を選ぶのか、問い返し方など大変参考になった。まだまだ悩みながらの道徳ですが、学ばせていただいたことを役立てながら取り組んでいきたいと思えます。	その他
評価について分かりやすく学びました。役割演技のやり方がよくわかりました。担任だからできる道徳ということが心に残りました。	その他
道徳の研修に出ても、特別支援教育に触れられることは少なく、特別支援学校では、どんな道徳の実践ができるか、中々理解が深まらないという思いがありました。ですので、本日のテーマは大変意義深いものだと思えます。全ての子供達に役割演技ができるかと言われるれば、それは難しいですが、体験的な活動を通して自由に考えることは、当校の生徒にも高い効果が期待できると思いました。	特別支援校
授業の進め方や、投げかけ方、間の取り方など、大変勉強になりました。今、目の前にいる生徒にロールプレイやお話の理解は難しく、同じようにはできませんが、考え方など参考になりました。	特別支援校
授業者として、授業前から、うまくシュミレーションできない面がありましたが、具体的な発問を例に説明していただき、今後の授業改善につながる視点をいただきました。「自我関与」ができるように、どう授業展開を工夫して実践していったらよいか、研修していきたいと思えます。	小中合同
道徳の教科化にあたり、もう一度授業を見直す機会をいただきました。今回学ばせていただいた中で、生徒にシナリオを「演じ」させて生徒に体験させ、実践できる力を身に付けさせたいと思えます。	中学校
共働的問題解決能力の育成について、日頃から大切だと思っていたのでとても共感することができました。考える道徳を実践できるように研修していきたいと思えます。	中学校
自分事として考える「自我関与」、授業のこれからのポイント、評価の方向性等、参考になりました。	その他
実際にその場でロールプレイをしていただいたことで、「見ている側も心が動く」ということを実感しました。また、場面発問とテーマ発問の2つに発問を分類できることを知り、道徳の授業の作り方を、イメージしやすくなりました。来週以降の道徳で生かしていこうと思えます。	小中合同
役割演技について、頭で考えたものと、実際に演技したものとでは、ズレが生じることがあるということ、目の前で見せていただき、よくわかりました。教材を読みながら、登場人物の気持ちを理解しつつ、自分事として捉えることができるように、役割演技を取り入れた授業をしてみたいと思えます。	小中合同

Q5 研修内容について、今後改善した方がよい点やご要望等をお聞かせください。(一部抜粋・「その他」は研修団体の教員)

Q5 自由記述	校種別等
通知表の評価のイメージがまだぼやけている。これという事例はあげづらいとは思いますが、実際の通知表を書く上での具体的なポイントをもっと詳しくお聞きできると良い。	教育委員会
伝統文化や偉人についての部分の取り扱いが難しいなと思っています。そのことについても、お話しをお聞かせいただけるとありがたいです。	小学校
「手品師」のようなジレンマ的な教材の扱い方について、どうしていけばよいのか、どのような授業をしていけばよいのかと、改めて考えることが出来ました。ジレンマ教材でなく、心に響く教材を、子供達に届けていきたいと思えます。他にどのような教材(感動的なもの)があるか「おすすめ」をお聞きしたいと思えます。	その他

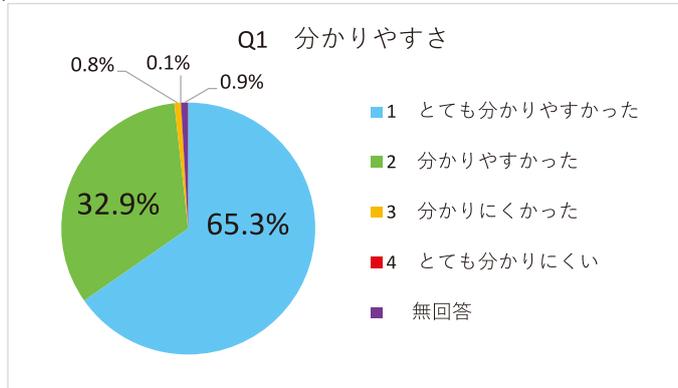
Q5 自由記述	校種別等
道徳を特別な支援を要する子供にどう教えるかは、道徳という教科の枠を超えて、特別支援教育の本質的な問いになり得ると思っています。しかし、残念ながら、私自身もそれをどう実践していくかわかりません。役割演技はすばらしいアプローチだと感じますが、特別支援教育の文脈で見れば、これからの発展が期待されます。現場としても研究を積み重ねていく必要があると改めて感じました。	特別支援校
今日の研修会のお話を聞いて、価値観や（道徳的価値）について考えたのは、日本人の持つ独特の価値観を大切にしつつも、これから世界にはばたく子供達が、身につけなければならないグローバルな（？）考え方は、どうやって育んでいけるのだろうと疑問に思いました。難しいです。	その他
過去に子どもの発言で、どのような良いものがあったか紹介していただけると、より役だったかなと思います。役割演技でやまがらの役をやらせて頂きました。やまがらに感情移入すると、うれしくて涙が出そうになると思いました。今後のみそさざいとやまがらの行動を考えていくこともありと言われたのが、新しい発見となりました。ありがとうございました。クラス全員で役割演技をしたらおもしろいかもと思いました。	小学校
昨年度、4年生を担当した時に「心と心の握手」をやったこと、子ども達がすごく悩みながらも、ぼくの行動や気持ちを一生懸命考え、みんなで話し合ったことを思い出しました。今、受け持っている子ども達は、道徳になると自分がシートに書いたことを率先して発表してくれます。毎回、板書がいっぱいいっぱいになってしまうくらいですが、子ども達の考えを上手にコーディネートし、価値付けや焦点化、まとめにつなげていきたいと思いました。役割演技を取り入れたことがあまりなかったので、実践してみたいです。	その他
授業を行う時に、なかなか、子ども達の考えを掘り下げたり、足りないところをつけたしたりができません。今日のお話の中で、あまり、「きっと〇〇と言うだろう」と想定しすぎると、余裕を持って授業ができないというお話があり、難しいと感じました。やはり経験を重ねることが大切なのでしょう。まずは、学んでいくことから、やってみたいと思います。	小学校
教師が持っていきたい方向（今回であれば、情けより規則が大切ということ）とは違う予想外の子供の考えが出た時の、効果的な声掛けや発問を知りたいです。正解はないけど、それでいいのかな？と伝えるのが難しそうだなと思いました。	小中合同
小学校での役割演技の授業実践は何度か参観させてもらっていますが、中学校の授業は見たことがないのでVTR等で流れを見る機会があるとありがたいです。	小中合同
未知なる未来を生き抜くには、どんな子供たちを育てていくべきなのでしょう？どんな考え方ができる、どんな行動に移せる子供たちにしたらいいのでしょうか？ その道筋をどう示したら・・・答えのない迷路です。子供と一緒に考え抜くしかないのでしょうか・・・。大人としてこうあるべきだと、どうしても示したくなります。	その他
道徳に毎回毎回、力を入れて取り組むことは、現状からして難しいと思います。道徳の授業の前に最低限しておくことなど、多忙極まる現状に合わせた内容も紹介していただけるとありがたいです。	小学校
道徳科授業の評価だけでなく、進め方、ねらいの立て方など色々なことがわかりましたが、現実として、様々な教育活動の中、どこまで力を注いでいけるのか、全員の子をみとれるのか、不安もあります。	小学校
日頃やっている授業の中で、道徳的な視点をどのように取り入れていけば良いのか、具体的な事例をお聞きたいです。	特別支援校
特別支援の子供達に、実際にどのように指導していったらよいのか考えていければと思います。	特別支援校
今日のような具体的な実践を交えた内容が良いと思います。	小中合同
小学校が始まり、中学校も始まります。どのような評価をしているのか、小、中で共有できれば、さらに良い研修になると感じました。	小中合同
色々な授業のパターンを見たいです。そしてロールプレイにおける教師の問いかけ、子どもの話し合いにおける教師の切り返し等の具体や技を学びたいです。	小中合同
特別支援学校や学級における、道徳の授業についてもお話いただけるとありがたいです。	教育委員会
今回のように、実際の模擬授業を受けることができると非常に分かりやすいです。	教育委員会
指導案作りや役割演技をやってみてのアドバイスをいただける機会があると、さらに自校へ戻ったときに実践したいという気持ちになるかなと思った。	教育委員会

資料3-2 令和元年度 派遣事業アンケート結果

回答数 1772

Q1 研修内容は分かりやすかったですか(分かりやすさ)

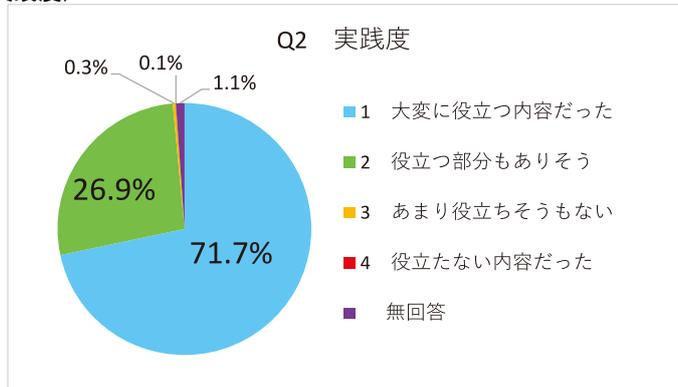
回答番号	回答	%
1 とても分かりやすかった	1156	65.3%
2 分かりやすかった	583	32.9%
3 分かりにくかった	14	0.8%
4 とても分かりにくい	1	0.1%
無回答	16	0.9%



有効回答数 (※無効回答2) 1770 99.9%

Q2 ご自分の今後の実践に役立つ内容だったでしょうか(実践度)

回答番号	回答	%
1 大変に役立つ内容だった	1270	71.7%
2 役立つ部分もありそう	476	26.9%
3 あまり役立ちそうもない	6	0.3%
4 役立つ内容ではない	1	0.1%
無回答	19	1.1%



有効回答数 (※無効回答0) 1772 100.0%

Q3 本日の研修内容について、良かった点、役立つ点をお聞かせください。(一部抜粋・「その他」は研修団体の教員)

Q3 自由記述	校種別等
<p>師範授業の進め方を学べたこと。 ”今考えています”を含めて自分の考えを出しやすい雰囲気や全員挙手、相互指名によって全員が当事者意識を持てる状況を作ることができると学びました。</p>	中学校
<p>「教材から学ぶ」ということの大切さや意味を考えることができました。大人が子どもを見ているように、子どもたちも先生をしっかり見ているので謙虚さや優しさを忘れずに意識して生活(仕事)したいです。</p>	中学校
<p>王貞治の話の生徒への働きかけがおもしろかった。学びのプロセスとして示された子どもへの主体的、対話的、深い学びの深まりの図が分かりやすかったです。道徳の授業で子どもに見える姿と子どもに見えない姿が視覚的に学びが広がる様子として見えた。子どもの成長を見るということの1つに振り返りがあると思った。</p>	中学校
<p>示範授業を見せて頂き、大変ありがとうございます。初対面にも関わらず、生徒の考えや意見を引き出すための授業の展開が大変すばらしくて驚きました。「対話的」というのは、とかく、グループで意見交換という形式が多いのですが、今日のような方法もあるということがわかりました。今後、試してみたいと思っています。それから長文を宿題に出して、あらかじめ読んできてもらい、本時をたっぷり子どもの考える時間の保障をとるという手法も大変参考になりました。(いつも時間が足りなくなってしまうがらでしたので)いろいろと参考になることが多かったです。</p>	中学校
<p>示範授業・生徒主体で授業を進めることにより、真剣に考える時間を作っていたことがとても勉強になりました。発問の仕方や雰囲気作りなども参考にさせていただきます。 講義：道徳授業の在り方を深く知れました。評価に関する点も勉強不足でしたので参考になりました。</p>	中学校

Q3 自由記述	校種別等
授業参観を通して、私達が抱えていた「授業の中にグループ活動が必ず必要」「とにかく教科書の文章を中心に教える」という考え方について、再考することができたこと。・授業作りや所見の書き方について、アドバイスや講話をいただき、方向性が見えたり、考え方を広げたりすることができたこと。	中学校
模擬授業では、たっぷり頭を使いました。授業の構成や発問ももちろんですが、一番は先生の生徒の発言に対する対応の仕方が受容的、柔軟で参考になりました。他の教材でもできるか不安ですが1人1人の発言を大切にしたい授業を心がけたいと思います。	中学校
板書の構造化、発問の構造化、何よりも安心して考え、発言できる授業作りについて学ぶことができました。自分自身が自然によく考え、他の人の考えを真剣に聞き、さらに考えていました。	その他
何と言っても示範授業です。授業を見せていただいて先生のお考えや目指していることがとてもよくわかりました。中学校道徳の課題は「生徒が主体的に学ぶ」ことだと思っています。本気になって真剣に考え、考えたことを意見交換する・・・どうすればそういう授業に近づけるか、先生から大きなヒントと前へ進む勇気をいただきました。	中学校
ワークシートなしでも、あそこまで子ども達が考え、主体的に発表を行う姿に驚きました。意見を待つ姿勢、出た意見を更に深めさせる発問、挙手を生み出す雰囲気作りなど、私にはできないことをしておられ、目指したい授業の形だと思いました。	中学校
道徳＝難しいというイメージだった。講話の中の”呪縛”というのがまさにそれだが、難しく考えずに子どもたちと楽しめばよいということが分かったことがよかった。授業への取り組み方が少し変わるかなと思う。「自分ごと」にしくなくても、子どもの価値感が引き出せるということも安心材料になった。	小学校
実際に模擬授業をしてくださったのが、とてもありがたかったです。これだけ道徳の授業というものは様々な感情や思考がわき起こり、多様な価値に気づくことができるものなんだと分かりました。役割演技も体験できてとても充実した学びになりました。	小学校
最も衝撃を受けたのは「自分事にするために他人事として考える」ということです。今まで「自分事」にすることばかり考えて、今の子ども達の現状や問題につなげようとするが多かったように思います。「他人事」の中で考え、意見を交流し語り合う中で自分自身のことを考えられるようになっていけばいいのだと思いました。	小学校
「自分事で考える」ということを難しく捉えすぎていました。子供が本気で考えていること、「嬉しい」「悲しい」「良かった」という子供のリアルな感想が出れば、それが「実感」なのだとしやすくなりました。「にわのことり」の模擬授業が私自身も考えて楽しかったという実感を持つことができて良かったです。	その他
「議論する」は意見を戦わせると考えている先生が多いのはその通りである。聞き合う、語り合う時間を確保すればよいのである。その授業の中で子供の考えをコーディネートし、こどもが話してよかった、聞いて良かったと感じられる時間にする大切さを痛感した。苦手意識を持ち、必死感たよう授業では子供も安心しないだろう。子供のシート記述に対するコメントに価値付けが見られ、そこに大事な意味があると感じる。	その他
道徳は、授業実践を見ることが本当に勉強になると思っています。今日、生徒役を経験して、様々なことを考えました。その「考える」ということが大切なんだな、そしてその考えを皆で話し合うことができるのは楽しいなと思いました。	その他
「泣いた赤おに」の実践例（模擬授業）が印象的でした。「おに」と「人間」との住む世界の断絶、流れる時間軸の違いを意識すると、＜若い＞という言葉で常識的に解釈していくのはつまらないと思いました。二人のおには、どこか子どもっぽいですし、人間も真実を知らないまま、という設定も気になりますし。	高等学校
生きていく中で、何が正しいのか何が正解なのか私たちの押し付けで授業を進めてはいけなないと思いました。今回手品師を見ていて、子どもたちの意見は私の想像つかなかったものがいくつもありませんでした。否定するのではなく、それを一緒に考えることが考えを深めることにつながると感じました。	小学校
授業の中で何度も考え直す、それが深い学びだとお聞きし、大変参考になりました。考え直すということは道徳的価値を捉え直したり、迫ったり、他の価値を認めたりするということだと思っています。その考え直すチャンスはどう仕組みかが教師力であり磨いていきたいと思いました。	小学校
子どもから疑問が生まれ、その疑問に対して周りの子どもたちが意見を出し合うとても面白い授業が見られました。子どもの感想（一番強く思ったこと）を聞いていくと、こちらが発問しなくても考え、意見を出し合える道徳の授業ができるのだと思いました。子どもの読みが深く驚きました。	小学校
多様な授業展開というキーワードが聞いて良かったです。教師の中では教科書＝指導書通り＝やりにくいと決めつけているのではないかと思います。今日のお話の中でテーマ発問はその発想を少し柔らげるものになったと感じます。	中学校
従来の道徳指導（授業）のスタイルだけでなく、テーマ発問から入るスタイルなど授業の幅が広がったのだというお話が心に残りました。	中学校
道徳の教科化に伴い、人の考えはそれぞれなのに、そこをあえて評価するのはなぜかとても疑問でした。今日の研修を終えて、「考える」ということそのものが学びになっていることを感じました。色んな物の見方ができるのか、自分の考えだけでなく他人の考えを聞くことで考え方を変えるということが道徳教育には必要な学びであると感じました。	中学校

Q3 自由記述	校種別等
「テーマ発問」を導入で取り入れることを知り、目からウロコが落ちました。今までは同じような体験を導入として行っていきつくりこない部分があったので、ぜひやってみたくです。また評価をすることに対してマイナスイメージをもっていました「具体的な事例を入れる」ということで、生徒の評価できる場面を見取っていきたくと思ました。今までとは違う銀色のシャープペンシルをやってみたくと思ます。	中学校
改めて授業の作り方、ねらいー中心発問ー評価を意識できました。他の職員も捉え方はまちまちだと思ますが、これまで実践されてきた授業を考え直す機会にできたことと思ます。価値の破壊は現場の教師にはある程度必要なことだと思ます。そういう視点からも大変ありがたかったです。	中学校
ねらいや中心発問の大切さを改めて実感しました。いつもワンパターンな授業で、深まりがなかった理由がよくわかりました。話し合いするだけが深まりではないと知ったのでどの場面でどう生徒たちに考えさせるか、これからの参考に大いになりました。	中学校
具体的な教材をもとに主題やねらいを考える場面が設けられていてたいへんためになりました。先生がやられた「二通の手紙」の最後に中3女子のロールプレイが印象的です。ロールプレイいいですね。	中学校
中学校1年生を担当しています。先日、役割演技で道徳をしました。生徒達はノリノリで演じていました。演じてみることで当事者意識がもてると思ていましたが、演じていないオーディエンスの考えを取り入れながら、さらに役割演技を重ねることで、さらに深まるのかと思ました。手法をいろいろ学びたくと思ました。	教育委員会
模擬授業がよかったです。役割演技はだれでも出来るわけではない。登場人物のどちらかに感情移入している子どもを見抜く。演じてもらう前に仕掛けを作る。なるほどなあと思ました。	教育委員会
実際に授業をしていただいて（自分が物語のどちらの立場なのか）子ども達のどんな意見でどちらの立場なのか判断するのかを納得する形で理解できました。最後は本当にすごい授業だったと感動しました。自クラスでも取り入れたくです。	教育委員会
具体的な経験をすることができ、役割演技のイメージがもてました。「くりのみ」の教材の深さにびっくりです。うさぎやきつねの思いをたくさんの方々が、様々なことばで表現されていてびっくりしました。自分の読みは浅かったです。	教育委員会
役割演技について、今まで自分の授業では取り入れることが少なかったが、教師とのやり取りの中で、表情や態度を観察し、子供の本音を引き出すことで、より本質にせまる演技や言葉を引き出せることが分かった。	小学校
示範授業、大変興味深く見せて頂きました。子供達の素直な発言（声）に関心させられたり、それぞれの思いに私もうなづきながら一緒に考えさせて頂きました。教師の働きかけの大切さ、わかりやすく教えていただきました。	小学校
今までの授業では個人で考えることが多かったように感じるが、意見交流や議論をすることで新たな考えが生まれたり、考え続けることにつながったりすることが分かった。子供の発言に対する教師の問い返しや、表情や態度から子供の心情を読み取る技術を高めていきたくと思。	小学校
読み取りのような授業、最後に価値を押しつける授業・・・そんな授業から抜け出し、考え議論する道徳にしていきたいと思ます。	小学校
模擬授業をしていただきまさに共感的理解ができたと思ます。補助発問、リフレクションの仕方等が特に参考になりました。担任が授業する意味も再考することができました。	小学校
役割演技を取り入れた模擬授業を見せていただき、登場人物の心情を理解してねらいにせまるために効果的であるということがわかりました。所見をどのように書くのが正しいのか、手探りの状態で書いていましたが、今日のお話を聞いて今まで疑問に思っていたことがすっきりとしました。	小学校
模擬授業です。実際の授業で子どもたちがどんなことに心を動かすのかを体験することで発問の仕方やタイミング、間の取り方等を学ぶことができました。いかに自分事として真剣に考えさせるかがとても大切だと実感しました。	小学校
授業の作り方について、今までは教師用教科書に書いてある授業展開を行っており、正直しっくりこない、何をしたいかわからないことが多かった。これからはねらいを具体的に考え、授業を作っていきたい。ロールプレイについて、話を聞いているだけでは想像しにくかったが、模擬授業をうけて、具体的なイメージができた。	小学校
生徒の立場で物事を考える授業を受けてみるといっばい発言したくなりました。”発問”がいかに大切であるかがわかった。役割演技、緊張しました。でも楽しかったです。	その他
子どもたちの見とりかた、発言から役割演技につなげるプロセスについて、とてもよくわかりました。ロールプレイの子ども役をさせて頂きましたが、学校の子どもと重なり、（涙が止まらなくなり）勝手にボロボロになってしまい、申し訳ありませんでした。	小学校
自分の立場として考えを深めさせることの大切さを改めて確認することができました。その上で他者の考えを聞くことで自分の考えと比較し吟味することを丁寧に行っていきたいと思ます。	小学校

Q4 研修内容について、今後改善した方がよい点やご要望等をお聞かせください。(一部抜粋・「その他」は研修団体の教員)

Q4 自由記述	校種別等
指名を私も取り入れていこうと思いました。早速、自クラスで行いました。生徒が普段よりも活発に考え、発言している様子が見られ、今後も続けていこうと思いました。また、授業展開を最善の解を求めるのではなく、どの子にも視点を当てる最良の策を求め、道徳の授業を行っていきたいと思いました。ありがとうございました。	中学校
子どもたち一人一人が考えようと思う気持ちを大切に、学びを深めていかなければならないと感じました。私は養護教諭として子どもたちと関わる時に「受容」を大切に、認める、見つめる、微笑む、ほめる、ありがとう、などの態度や言葉を忘れず接していきたいです。	中学校
問題解決的学習の取組みに切り口があると思った。特別の教科道徳の文面が教材のどの部分に当たるかを考えながら、授業の流れを考えていきたいと思います。一つ一つの授業のポートフォリオの大切さを強く感じた。	中学校
相互指名というスタイルは、実践したことがないので是非チャレンジしてみたいと思います。子ども達の表情がいつも以上に明るく感じました。あてられると、なんだか、うれしそうな感じもとてもよかったです。講義の中で自分の姿が子どもの鏡とありました。自分の生き方にみがきをかけることそのものがよい授業をつくるのだと思いました。がんばろうと思いました。	中学校
私は初任者ということもあり、勉強不足、経験不足からか、道徳の授業の進め方や、評価することも踏まえた道徳の授業の作り方を苦心しておりました。しかし、子ども達と共に考え、子供達の考え方の変容を見取り、またそれを楽しむという視点が非常に参考になりました。また、メール等で相談させて頂くかもしれません。	中学校
当校は「学年の職員全体で道徳の授業づくりに取り組む」という姿勢で研修を進めています。今回の研修で、教材の特徴に合わせた柔軟な授業づくりについてアドバイスをいただいたので、それを生かして、今後も教材研究や実践を進めていきたいと思っています。ありがとうございました。今後もご指導をお願いいたします。	中学校
今年度は、これで三回目の道徳校内研修を行いました。二回目は評価についてで生徒の道徳ノートからほめる言葉を拾いながら作成しました。先生の講話のあちこちに、今、自校がやっていることが誤っていないことがわかり、とても安心しました。これから多くの方が研究授業、日々の授業に1つでも多く実践していきたいと思っています。	中学校
自分の板書を見直し、子どもの意見や考えが分かりやすくまとめられるようにしていきたいと思っています。また、指名方法も参考にし、子ども達が今日のようにいつの間にか引き込まれ、主体的に考えて話したくなるようにと道徳の授業に向き合っていきます。	その他
道徳の授業をどう作っていけばよいか、自分なりに未来が見えてきたような気がします。夏のアカデミーの研修と今回の研修と合わせてしっかり資料を読み込んでどの部分を取り上げるかを内容項目に合わせて見極めそこを課題としてじっくり考え話し合せていく、そして自分事として振り返る・・・気持ちが前に向きました。	中学校
ペアやグループで話をさせることが、考え、議論する道徳ではないという言葉にドキッとしてしまいました。題材の本質にせまるために教師がまず題材をよく研究し、教師が目前の子ども達をよく見つめ一人一人に考えさせ、発言させることを大切にしていきたいと思いました。	中学校
本日の模擬授業では、他の先生の意見を聞き、「なるほどな、そういう考えもあるんだ。気が付かなかったけど、私もその意見がいいな」と思う場面がありました。友達の考えを聞いて、自分の考えをより深める体験をさせていただきました。明日からの実践に生かしていきたいです。	教育委員会
「先生は気楽に楽しく」「子どもは自由に」という道徳のイメージに共感しました。どうしても時数に追われ授業をこなす感が日々あります。でも道徳の時間には本当の意味で子供たちと語り合える可能性があると感じられました。これから、そういう時間にできるよう努力していきたいです。	小学校
今、担任しているのは3年生ですが、単学級のため人間関係が固着していて、まさに「にわのことり」状態です。今度この教材を使って、子供達が普段言えないことを言わせたいし、「色々な考え方があっていいんだな」と思える機会を作りたいと思いました。ありがとうございました。	その他
役割演技はこのようなじーんとくる話を扱う際にとても有効だと感じる。モラルジレンマ教材で、議論する方がもりあがっておもしろいと考えてしまっている先生方も多いので、全ての内容項目を扱うことを考えると、教材によってやり方を変え、最も適切な指導法を考えることが大切だと思う。	その他
主発問を考えることが、少し楽しみになってきました。生徒の意見に対する切り返し(ツッコミ)から、どんどん楽しくなって、どんどん深まっていく感じ。私にはまだまだできそうにありませんが、それをイメージして授業をしていきたいと思いました。今日は楽しく聴くことが出来ました。ありがとうございました。	その他
実際に授業を受けてみると、道徳っていいなと思いました。どうして、なぜと問い返しを入れながら、より良い授業作りをしていきたいと思っています。	その他

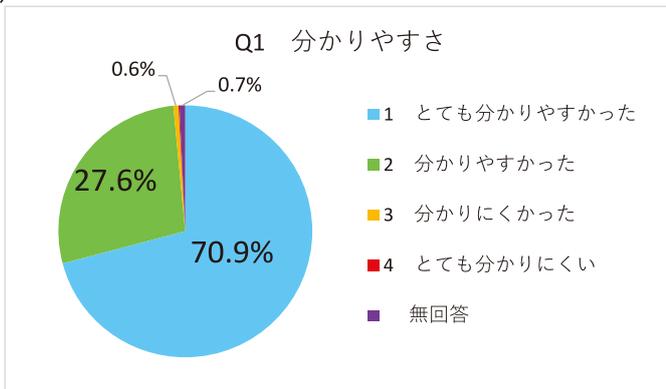
Q4 自由記述	校種別等
方向性の決まった授業ではなく、生徒の発言、発問で大きくゆれる授業でもよいと感じた。「道徳を教える」というスタンスでなく、一つのテーマで語り合える。そんな授業をしてみたいと感じました。	高等学校
私も他校で出前授業などして、よく参観された方から「それが道徳科の授業の型なんです」と言われます。「そうではなくて1つの型にこだわらず色々な方法で・・・」と答えますが、やはり現場は安心する型が欲しいようです。様々な有効な方法を示していくことで意識も変わっていくのだと思います。	その他
ねらいを明確にする。ゴールを見据え、楽しく終わる。”道徳の学習が好き！！”と感じてもらえるような授業に努める。3つのことを役立てていきたいです。道徳の授業の方向性が分かり、少し自信を持って授業に取り組む気持ちが湧いてきました。	小学校
「先生は頭をスッキリさせて子どもと共に考える時間」という言葉を聞いて、全然できていないなあと痛感しました。1時間の中で考えさせたいことをいくつも提示していたと反省しました。子どもはもちろん、私がまず頭の中がごちゃごちゃしていたなど。1時間の中で特に考えさせたい部分をしっかり焦点化して取り組んでいきたいと思えます。授業をしていただきありがとうございました。	小学校
毎回同じような形式になっているので、モラルジレンマやロールプレイング等様々な手法を取り入れていきたいと思いました。資料を通して、何を学んでもらいたいかを考えて授業実践に取り組もうと思っています。	中学校
今日の道徳の授業は、思いやりをこう育成する見本みたいだと思いました。私も道徳授業を通して思いやりを育成していきたいと思いました。	教育委員会
中心発問の時、子ども達はどちらかの立場に身を重ねている。その児童がどちらに今なりきっているのかを見とることが大切だと感じました。学習中に丁寧に見取り、役割演技の実践に挑戦してみたいと思います。評価についてまだ不安が残るのでもっとお話を伺いたいです。	教育委員会
読みもの資料に登場する人物の心理を読み解いた上で、授業することで資料を使う意味が初めて出る。それを役割演技させることで見てる側も心の動き方が違う。役割演技の力を感じました。	教育委員会
まずは学校の他の先生方にも今回の研修内容を伝えて学校全体で道徳科の授業に取り組みたいなと思いました。	教育委員会
本校においても、模擬授業を行って教材研究等行っているが、ぜひ道徳科においても実践したいと感じました。発問の吟味と、子供の発言の価値付けについて学んでいきたいと思えます。	小学校
授業をただ進めるのではなく、子供と作り上げる授業をしたいと思いました。中々思うようにいかない中で、道徳が楽しいと思える、考える授業にするために、発問やロールプレイなどの活動を工夫したいです。	小学校
体験的な学習の一つとして役割演技をこれからも授業に取り入れていきたいと改めて感じました。子どもにも「今日の道徳よかったな、話せてよかったな」と感じてほしいです。	小学校
考えさせるポイントをよく見極めて発問するようにしたい。多面的、多角的がうまく使えるよう流れを考えていきたい。	小学校
内容項目等をしっかり捉えた上で、教材を研究していきたい。道徳を通して学級全体で「考える」集団にしていきたい。	小学校

資料3-3 令和2年度 派遣事業アンケート結果

回答数 936

Q1 研修内容は分かりやすかったですか(分かりやすさ)

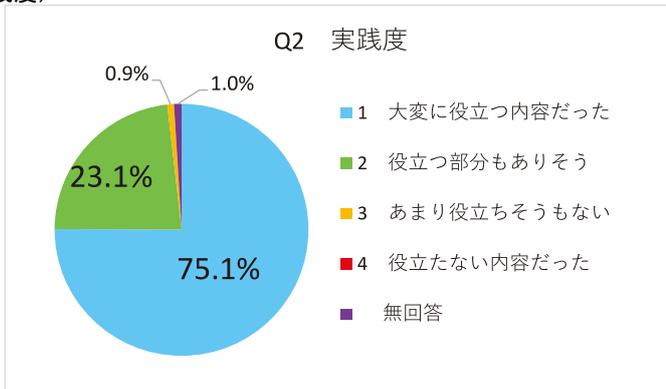
回答番号	回答	%
1	とても分かりやすかった	70.9%
2	分かりやすかった	27.6%
3	分かりにくかった	0.6%
4	とても分かりにくい	0.1%
	無回答	0.7%



有効回答数 (※無効回答1) 935 99.9%

Q2 貴校の今後の実践に役立つ内容だったでしょうか(実践度)

回答番号	回答	%
1	大変に役立つ内容だった	75.1%
2	役立つ部分もありそう	23.1%
3	あまり役立ちそうもない	0.9%
4	役立たない内容だった	0.0%
	無回答	1.0%



有効回答数 (※無効回答0) 936 100.0%

Q3 本日の研修内容について、良かった点、役立ちそうな点をお聞かせください。(一部抜粋・「その他」は研修団体の教員)

Q3 自由記述	校種別等
発問の設定の仕方が目からウロコでとても勉強になりました。教科書の読み取りに時間をかけずに、ターゲット発問を一貫して問い続けることがとても有効だとわかりました。1時間自分の頭で考え続けさせることこそが主体的学びにつながるということがわかり、相互指名という方法も実践してみたいと思いました。	中学校
一人一人の意見の引き出し方や問いかけにより、意見を出しやすい雰囲気がつくられていて授業を見て大変勉強になりました。全員の意見や考え方を聴くことで自分の考えが深まり、新たな気づきや発見につながっていくのだと改めて学びました。	中学校
” 答えが決まっていないから、自分の思いを発言しやすい”という先生のお言葉がストンと胸に響きました。もやもやのままでもそのもやもやを言葉で表現できるようにしてあげたり、教師が言葉で言い換えてあげたりしながら、対話し深めてあげることが大切だと思いました。そういった意味で、板書の重要性を再認識しました。	中学校
key wordは「受容」と「良さを決めつけない」。この2点について、考えさせられた。煎じ詰めると、「授業の技術力」よりも「教師の人間性」が求められるのではないかと冒頭にパワポで説明された「大人社会のねじれ」。原因が大人の行動ならば、解決の道も大人の行動で拓かねばならないのは自明の理。講師の先生のお人柄が3組の生徒達の心をオープンにさせた50分間でした。	中学校
示範授業と講演会のセットが良かったです。「受容」のモデルを示していただいてから座学となったので、具体的にイメージしながら講演をお聞きすることができました。授業冒頭での講師の先生の「ひと文字も違わないことなんてない。自信持ていいよ」という声掛けにより、一気に参加の姿勢が変わったと感じました。勉強させて頂きました。	中学校

Q3 自由記述	校種別等
<p>講師の先生の「受容」を柱とした授業観と教育観がとても勉強になりました。示範授業では講師の先生が自己開示しながら「3つの【えー】」で子ども達の心を開き、自己開示して話ができる雰囲気を出した点は流石だと思いました。講師の先生と子ども達の一体感が生まれました。「相互指名」も良かったです。全員に発言させようとする意図が伝わってきました。「我 他と共に よりよく生きる」という講師の先生の道徳授業の捉えがよく分かりました。講師の先生の笑顔と優しさで「褒める」「認める」「励ます」「感謝する」が自然と授業の中で行われており、「受容」を大切にされた道徳授業が行われていました普段発言しない子が挙手発言をし、そばでしっかり聴く先生の姿に感動しました。内容項目を「公正」だけに限定せず「よりよい学校生活、集団生活」と一体化して授業デザインをすることで、授業が明るく前向きなものになっていたと思います。</p>	中学校
<p>自己内対話という視点がすばらしいと思いました。生徒は誰でも発言することができるということがよくわかりました。それを引き出す問かけや考えさせ方が参考になりました。「ほめて」「認めて」「励ます」ことが授業の中で大切であることがわかりました。</p>	中学校
<p>実際に授業を見られたことと、指導の際のポイントを解説して頂けたことがとても有り難かったです。「自然への感動、畏敬」という難しい内容でしたが、東山氏の人生や経験に着眼点を置いていたことで、生徒があんなにも考えようという姿勢になるということを学ばせてもらいました。</p>	中学校
<p>示範授業と研修を通して、自分の授業を振り返れました。「こう聞いたらどうなるだろう」「これはこの子たちには難しいだろう」と二の足を踏むことが多いですが、子どもの力を信じて、思いきって授業していかねばと感じました。多様な考え、ゴールを受け入れてあげたいと思います。</p>	中学校
<p>子どもの気持ちになって授業を受けたことで、教師の言葉がけと子どもの心の変化の実感することができました。友達の多様な考えを次々聞き、先生が認め続けているのを聞いている内に「おや?」「あれ?」と友達とは違う自分の考えが自然に浮かんできて、不思議な感覚でした。</p>	小学校
<p>同じ大人(教員)でも泣いた赤鬼の解釈がこんなに違うのだと分かり楽しかったです。普段の生活では、こんなことを話し合うことはないの、いろいろな考え方がありの分、子供も同じではないかと感じた。泣いた赤鬼を通して友達を信頼するということはどういうことか、語り合う、話し合うことで、自分の考えがより深くなったり、広がったりする授業が大事と感じました。動作化するには、どこが大事か、しっかり考えることが大事ということが分かりました。</p>	小学校
<p>役割演技です。私は「約束」について「守ろう」とする2人がうまくいかずに「仲直り」するにはどうすればよいのかを最初からずっと考えていました。読んだ後、ママが悪いと思い、板書で整理した後、えり子が悪いと思いました。でも仲直りするには、ママの怒りが静まらないと、と考え、役割演技をするなら、えり子ならまず説明したいだろうと考えました。でも実際2人の演技を見たら、私は「自分の気持ちを分かかってほしい」ということが強いんだと感じました。自分が満足するための「ごめんね」や「説明」は「謝る」ということにはならず、もっと相手の心に寄り添うものではなければダメだったと、えり子の演技で深く考えました。</p>	小学校
<p>議論の意味がはっきりしました。「話し合い、語り合う」話し合いや友だちと語り合うことができていたなら、議論になると思うと授業でやれる気がします。役割演技の児童の選び方も分かりやすかったです。イメージをしっかりとった子を選ぶために話し合ったり、語り合ったりすることが必要と感じました。</p>	小学校
<p>模擬授業が良かったです。子どもになって考えました。先生が返す言葉にひとつひとつ反応してしまいました。授業の流れを理解したことはもちろんですが、道徳の授業に対する自分のこり固まった概念みたいなものが変化した時間となりました。今道徳の授業は、していませんが、これからも勉強して、楽しく追及する道徳の授業をすすめたいです。(今まで道徳の時間は苦手でした。でも今日の研修で講師の先生のたくさんの言葉からまたやってみようという気持ちになりました。)</p>	教育委員会
<p>道徳の教科の概念が変わりました。”教材を読めばわかること”をゴールに授業を行っていたのですが、「赤鬼」の演習の最後の発問「このあと赤鬼はどうするか」こそ大切な場面なのだと感じました。役割演技はチャレンジしていきたい。</p>	教育委員会
<p>「トキのまう空」資料を読んでその資料の読み取りが大変むずかしく、子ども達が議論するための土台作りができないので、映像、画像、年表を用意した方がよいとは考えましたが、あそこまで深く教師自身が教材研究をし、資料集めをしないと、子ども達は考え論議することができないのだと思った。授業の中考えたことが環境問題を考える始まりになってよいことがよくわかった。「ゆかみがき」子ども達にグチャとふんづけたものは何かを聞くことでより子ども達の生活の場面をふり返り身近になるということも参考になった。</p>	小学校
<p>「道徳」に対して難しく考えすぎていることに気づいたことです。教師がかたい考えになったり型にとらわれたりすると生徒も楽しく学べないと改めて考えさせられました。目の前の生徒の実態をよく見極め、必要なことを授業にとり入れられそうな気持ちになれてよかったです。</p>	特別支援校
<p>道徳の授業は、子どもとたくさん話し合えるすてきな学習だということが分かって良かったです。いろいろな考えがあることがいいことを大事にしていきたいと思いました。〇〇の考えが正しいよねと無理矢理まとめるのではなく、いろいろな考えがあって良いよねという授業を目指していきたいです。</p>	小学校
<p>演習によって役割演技の授業の進め方が大変参考になった。子ども側で発問内容を考えることも普段は指導する側なので、”子どもたちってこんな風に考えようとするんだな”と感ずることができた。</p>	教育委員会

Q3 自由記述	校種別等
「心を打つ/打たれる」という言葉がびったりの研修でした。人物やその生き方についての学習は、子どももそれに心を打たれなければ本気で考えられないと子どもの立場に立ってみて、改めて実感しました。私は和田氏の生き方に心が本当に打たれました。講師の先生の授業にも心が打たれました。授業者が教材文だけでなく、事実を知る、調べる、それを子どもに伝えることで、子どもへの説得力が増されるのだということ、今更ながら学びました。先生の子どもへのプラスの言葉かけ、まなざし、心が温かくなりました。ありがとうございました。	その他
示範授業での講師の先生の生の授業を見せていただいたのが何よりも勉強になりました。発問計画は事前に見せていただきましたが、どのように子どもの考えを出し、つないでいくか、また、時々あるゆさぶりのある発問が本当に感動しました。2年生の子らも本当に真剣に考えていて、45分間終わった後、何かを得ていた輝く目をしていたのも印象的でしたし、いつもより考えすぎて疲れているように見えた子もいました(笑)。道徳の授業は楽しいと見ている方も感じました。	小学校
子どもの気持ちにせまるために教師の発問がどれだけ大切なものなのかということに気づけてよかった。道徳は深い!!と改めて思い、今後教材研究をしっかりやっていきたい。	小学校
実際に人が演じているのを見ると、話の中に入っていけると感じました。とても有効な方法だと思いました。役割演技を取り入れるときの雰囲気づくりやマナー、誰にでもやりたい子にさせればよいというわけではないので、気をつけながらやりたいと思います。	小学校
役割演技の思いを共有していくやり方は体験することができてよかった。演技に参加した子だけのものにならないよう、教師の問いかけで全体のものにし、共有していくことがねらいにせまるうえで重要であると思った。	小学校
道徳という教科ではなく、教材を使いそこから本来の人間としての正しい生き方ができればとっております。その意味で大変参考になりました。	中学校
授業の指導案づくり、とても楽しかったと思います。これからの道徳授業を子どもの実態に合わせた適切な授業づくりに大変興味、関心を持つことができました。子ども理解しやすい、相手の立場や心得や気持ちに寄り添う子どもたちが育成されていくことがとても素晴らしいことだと感じました。	中学校
主題設定、ねらいの設定の方法が具体的でとても分かりやすかった。何でもかんでも話し合いで意見交流をするのではなく、意見を求めない方が良い場面もあるということにすごく納得した。「自分事」として考えられるような手助けとなる発問はとても重要だと感じました。	中学校
授業参観では、子どもたちが主題について自分に問いかけながら考えている姿を見ることができました。とかく進んで元気に発言する姿を求めがちになってしまうところです。そうではないことを改めて感じることができました。	教育委員会
納得解を見い出すという言葉が印象に残っています。いろんな意見と出会い、様々な立場を知った上で私だったらということを考えることが大切だと思いました。多面的・多角的に考えることによって、考え方が深まり、一人よがりの意見じゃなくなると思います。	中学校

Q4 研修内容について、今後改善した方がよい点やご要望等をお聞かせください。(一部抜粋・「その他」は研修団体の教員)

Q4 自由記述	校種別等
ワークシートに沿って「次はこれを考えよう」「次は・・・」というように進むしかなく単調な授業になってしまっています。次々問いかけ対話させ、流れていく講師の先生の授業に少しでも近づけたらいいと思います。生徒を信じ、もう少し生徒を話させてみたいと思います。	中学校
生徒の意見を広めていく、深めていくためにもこちらから答えを提示するのではなく、子どもたちに考えさせ、発表させていく授業スタイルを自分も習得していきたいと思いました。また、一人一人の良いところを見つけ褒めていくことと共に、日頃から子どもたちの鏡となっているのだという自覚をさらに高めていこうと思います。	中学校
生徒に考えさせる時間を大切にするために、授業で伝えたいことを焦点化していきたいと考えました。そして、教材の内容を、生徒がその立場に立って考えられるようにして、考える必然性を与えられるように工夫していきたいと思います。	中学校
道徳の難しい主題の時は、ムリせず、背伸びせず、生徒たちと共に「考え続ける時間」を意識して授業すること。そして生徒の相互指名で展開すること。「教えること、やることは、やった」という指導者側のものさしだけで評価するのではなく、「生徒が主題にどれだけせまれたのか」という点を意識し続けることの重要性を痛感しました。	中学校
学習を通じて、変容したことを生徒自身が実感でき、また、授業者も見取ることができるような発問やワークシートの工夫を教材研究においてますます頑張っていきたいと思いました。	中学校
「何を言ってもいい」ということを前提にすることと「つなぐ」ことで、発言しやすい環境になると感じたので、発問や受け止めに生かしていこうと思いました。それには、板書計画が大切でしっかり検討しながら立てる。	中学校
誰の立場で考えるかということがとても大切なことなのだと気づかされました。	小学校

Q4 自由記述	校種別等
板書の仕方をぜひ真似してみたいです。大変勉強になりました。質問をお願いします。道徳の時間の前提として「全ての思い考えを受容する時間」とありましたが、授業では「出てきた意見の中でこの意見は違うのではないか」というものはありますか？」と発問されました。前提と発問に少し矛盾を感じました。その点について、先生はどういった意図で発問されたのか教えて頂きたいです。	中学校
今後、道徳の授業を行う時には、第一に子ども達全員が参加できることを目標にしていきたいです。道徳の授業はどのように行えばよいのか、今まであいまいでしたが、本研修を受けて、まずは一つ一つの授業のねらいをはっきりと設定し、学びのプロセスを意識する必要があるとわかりました。目に見えない学びもあるということを踏まえ、生徒がよく考え、周囲と意見を交換することができるように道徳の授業づくりに役立てていきます。	中学校
多様な道徳授業の構想に生かせると思いました。受容を大切にしたい道徳授業、問題解決的な道徳授業を見せていただきました。講師の先生が32年間かけて磨き上げてきた教育観や授業観をスキルと一体化して学べたことは、とても汎用性があり、多様な道徳授業を構想する上でとても参考になると思いました。とりあえず、講師の先生と同じように真似てやってみようとする先生方もおり、道徳授業への意欲が高まったと思います。本校は経営の柱の1番目に「道徳を含む授業の充実」を掲げており、有意義な研修となりました。	中学校
相互に話す、聞くことはたびたび取り入れています。個人で深く考える機会がとれていないように思います。「善いか悪いか」だけにとどまらず、ひとりひとりの思いや考えがもっと出せる発問づくりを研究したいし、授業者として、その教材をよく吟味して授業づくりをいたしたいと思います。	中学校
昨年度から研修していて、発問の大切さ、役割演技、対話など考えてきましたが、どこか型にはまったもの、こうでなければ・・・というかたい頭になっているところがあったのですが、先生の授業をしてみて子どもから学べばいい、という言葉で心が少し軽くなりました。色々試して失敗しながら学んでいきたいと思えます。	小学校
主発問を設定するとき、子供にとって興味深く、ねらいに即したものにしようと思いました。(今日の授業の「このあと、赤鬼は何をするかな」と言われた時の、わくわく感を子どもたちにも味わわせたいです。)	小学校
校内でお互いに見合い、何でもざっくばらんに言い合える協議会が開けたら、楽しいだろうなあと思います。道徳主任に依頼します。勉強になりました。	小学校
先週と今回の研修から、授業のゴールの設定を無理に考える必要はないのではと感じました。無理に設定することで、子どもの主体性をなくすことにつながりかねないと思うからです。ねらいを明確にして授業に臨みたいですね。	小学校
自分が学生の時から一番嫌いだっのが、「道徳」で教員になってからも、道徳の時間が生徒にとって、本当に有意義な価値のあるものになっているのかわかりませんでした。それは、教材研究不足であることが、今回の研修ではっきりしました。毎時間の道徳の授業では、教師がきちんと、ねらいを明確にして行うことを、大切にしていこう努力していきたいと思えました。	教育委員会
子どもの疑問を発問として授業をすすめていく、という型に本当になったらいいなと思えました。なったらより深まり、一人一人がよく考えるものになると思いました。本日はありがとうございました。	小学校
議論のねらいが自分の中で明らかになってきたことが、一番の成果です。一問一答で進めるのではなく、一問多答で様々な考え方に触れていくことができるよう、指導方法を考えていきます。明確なねらいとは、ある一言を言わせる、書かせることではなく、1つのことを様々な角度から考えることができるようにすることが必要だと、改めて考えなおすことができました。	小学校
子どもの言葉や実感を大切にしたい授業づくりをしたいと思います。「トキのまう空」のように子どもの生活と遠い内容の教材の場合は補助となる情報を調べ、授業の中で伝えていくことが必要だと分かりました。1時間完結の教材だからこそ、子どもたちがぐっと深く入って考えられるような支援になるのではないかと感じました。	小学校
道徳というと、自分の価値観のおしつけになりそうでしょうかと思ってしまうのですが、様々な意見を認め知り合う場というとらえ方で良いと分かり、肩の荷がおりたような気がします。日常の活動を「立ち止まり」「振り返る」場、時間というとらえ方でやっていきたいと思えます。	特別支援校
役割演技、動作化には積極的に取り組んでいきたいと考えていましたが、リスクや危険性もあることを知り、工夫して行っていく必要があると思えました。イス等を使ってやる手法はなるほどなと思えました。また、時間を計っていたのですが、講師の先生の発問は授業開始5分より早く出されており、授業途中でも10分おきなど、常に子どもが考えている展開でした。そのように全員が参加し、考え続けられる授業を目指したいと思えました。(楽しさを感じるのが前提で)	小学校
どの子も役割演技ができるような安心感のある学級経営をしていきたいです。	小学校
道徳的価値の押し付けや一つにまとめるではなく、一人一人の気づきを大切に道徳授業を行っていきたく感じました。大変勉強になりました。	小学校
一人で考えるだけでなく主題や教材について教職員で話し合い、よりよいものを作るようにしていきたい。授業の充実について協力していけるのではないかと感じました。	教育委員会

平成30年度上越教育大学
上廣道德教育アカデミー道德教育研究大会

道德授業づくりと評価

秋田公立美術大学
毛内嘉威

道德教育の目標

道德教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共に

よりよく生きるための基盤となる道德性を養うことを目標とする。

新 小・中学校学習指導要領「第1章総則」の第1の2(2)

道德科の目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道德教育の目標に基づき、**よりよく生きるための基盤となる道德性を養うため、道德的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習を通して、道德的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。**

「新 小・中学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道德」

道德科で求められる学び

- ① 道德的価値を理解する学習
(価値理解、人間理解、他社理解)
- ② 自己を見つめ学習
- ③ 多面的・多角的に考える学習
- ④ 自己の生き方について考えを深める学習
(* 人間としての生き方について)

道德科で学習させたいこと・考えさせたいこと

～自分らしい生き方の実現に向けて～

人間としてよりよい生き方

- ・生きる意味
- ・生きるうえで大切なこと
- ・よりよく生きるための手がかり
- ・周りの人との豊かな関わり(人間関係)
- ・人生の意味をどこに求めるか

1. 教材と出会う

- ・生活の中の問題や社会の課題などにつなげる工夫をする
- ・教材から考えたいテーマ(課題)を見付け出す(問題意識)

問題となっているのは何？

今、話し合いたいテーマは？

2. 教材をもとに考える

- ・大切なことはどのようなことか、いろいろな角度から考える
- ・学ぶテーマについて考え、納得する考えを選び抜く

□□はどんな気持ちや考え？

□□とは何だろう？ それはなぜだろう？

自分だったらどうする？

自分はそのことについてどう考える？

3. 話し合い、磨きあう

- ・ペアやグループで考えを深めたり、クラス全体で話し合ったりする

お互いの考えの違いや良さはどこ？

それぞれの主張や根拠を生かして考えを深めよう

4. 生き方についての考えを深める

- ・学習を振り返って、自分事として考える
- ・納得できる考えや答えをみつけ、生活や将来につなげる

自分の考えがはっきりした

自分の考えがはっきりした

タブーの背景を知ることと挑戦

- ・道徳授業の最初に「課題」や「問題」をおかない。
- ・結論のないオープンな資料は使わない。
- ・資料では、2人の人物の心情を追うことはしない。
- ・資料で、「もし自分だったら」と問わない。

(永田先生 資料より)

問題意識を大切にした授業

- ① 問いを設けることで、何について考えなくてはいけないのか明確になる。
- ② 導入で、人間理解を重視した発問を行うことで、自己を見つめやすくなる。
- ③ 登場人物に自我関与させながら話し合い、再度最初の問いに戻って話し合うことにより考えに深まりがでる。
- ④ 道徳ノートへの書き込みを積み重ねることで、考えを自由に書くことができるようになる。
(納得解・最適解 → 道徳的価値の自覚)
- ⑤ 納得解を見つけることは、新たな問いを生むことになる。
- ⑥ 新たな問いは、次の道徳授業への意欲につながる。

道徳科の評価

道徳科の評価の在り方

- ・数値による評価ではなく、**記述式**とすること
- ・個々の内容項目ごとではなく、**大くりなまとまり**を踏まえた評価を行うこと
- ・他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます**個人内評価**として行うこと
- ・学習活動において児童生徒がより**多面的・多角的な見方**へと発展しているか、道徳的価値の理解を**自分自身との関わり**の中で深めているかといった点を重視すること
- ・発達障害等のある児童生徒が抱える学習上の困難さの状況等を踏まえた指導及び評価上の配慮を行うこと
- ・調査書に記載せず、入学選抜の合否判定に活用することのないようにすること

道徳教育に係る評価等の在り方について

○改訂後の学習指導要領(特別の教科 道徳)
児童(生徒)の**学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かす**よう努める必要がある。
ただし、**数値などによる評価は行わない**ものとする。

具体的な方法を、道徳科の評価の在り方に関する専門家会議で検討

【基本的な方向性】

(H27.6~H28.7)

- 数値による評価ではなく、**記述式**とすること、
- 個々の内容項目ごとではなく、**大くりなまとまり**を踏まえた評価とすること、
- 他の児童生徒との比較による評価ではなく、**児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価**として行うこと、
- 学習活動において児童生徒がより**多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか**といった点を重視すること
- **調査書に記載せず、入学選抜の合否判定に活用することのないようにする**必要

※専門家会議報告に基づき、道徳科の学習評価の在り方、指導要領の参考様式について、
一平成28年7月29日付で都道府県教育委員会等に通知

学習評価の種類

目標に準拠した評価	観点別の学習状況の評価
<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に示す目標に照らしてその実現の状況を見る。 ・平成12年要録通知以降は、観点別学習状況の評価と評定の両方を、目標に準拠した評価として実施。 ・評価規準は各学校が設定。(国立教育政策研究所が評価規準の設定に関する参考資料を提供) ・絶対評価とも言われてきた。 ※H22年教育課程部会まとめ以降、「絶対評価」とは言っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科・科目の目標や内容に照らして、生徒の実現状況がどのようなものであるかを、観点ごとに評価し、生徒の学習状況を分析的に捉えよもの。 ・現行(平成22年指導要録通知)では、学力の三要素を踏まえ、観点ごとに評価(「A」「B」「C」の3段階)。
集団に準拠した評価	総合的な評価としての評定
<ul style="list-style-type: none"> ・学級又は学年における位置づけを見る。 ・相対評価とも言われる。 ・平成12年通知以降は、目標に準拠した評価に改められた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別の学習状況の評価をもとに、総合的な学習状況を示すため、5段階(小学校は3段階、小中学校高学年は行わない)の配定を行う。 ・平成12年より、観点別の学習状況だけでなく、評定についても目標に準拠した評価とすることとした。 ・各観点別の評価を評定においてどのように総合するかは、各学校の工夫が求められる。
個人内評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・観点別学習状況の評価や評定には示しきれない子どもたち一人一人のよき点や可能性、進歩の状況について評価するもの。 ・従来の指導要録では、「総合所見及び指導上参考となる諸事項」において示される。 	

道徳科の学習評価は、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます**個人内評価**として実施

道徳科の評価の工夫に関する例 (専門家会議における意見より)

- ・児童生徒の学習の過程や成果などの記録を計画的にファイル等に集積して学習状況を把握すること。
- ・記録したファイル等を活用して、児童生徒や保護者等に対し、その成長の過程や到達点、今後の課題等を記して伝えること。
- ・授業時間に発話される記録や記述などを、児童生徒が道徳性を発達させていく過程での児童生徒自身のエピソード(挿話)として集積し、評価に活用すること。
- ・作文やレポート、スピーチやプレゼンテーション、協働での問題解決といった実演の過程を通じて学習状況や成長の様子を把握すること。 ※成果物そのものに優劣を付けて評価するわけではないことに注意

「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について(報告)(別紙2) (平成28年7月22日 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議)

- ・1回1回の授業の中で全ての児童生徒について評価を意識してよい変容を見取ろうとすることは困難であるため、年間35単位時間の授業という長い期間の中でそれぞれの児童生徒の変容を見取ることを中心掛けるようにすること。
- ・児童生徒が1年間書きためた感想文等を見ることを通して、考えの深まりや他人の意見を取り込むことなどにより、内面が変わってきていることを見取ること。
- ・教員同士で互いに授業を交換して見合うなど、チームとして取り組むことにより、児童生徒の理解が深まり、変容を確実につかむことができるようになること。
- ・評価の質を高めるために、評価の視点や方法、評価のために集める資料などについてあらかじめ学年内、学校内で共通認識をもっておくこと。

「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について(報告)(別紙2) (平成28年7月22日 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議)

道徳科の指導の諸方法の評価

- ア ねらいを達成するために適切な方法であったか。
- イ 児童の多面的・多角的な思考を促す上で適切な方法であったか。
- ウ 自分との関わりで考えさせるための、教材や教具の活用は適切であったか。
- エ ねらいとする道徳的価値についての理解を深めるための方法は、児童の実態や発達の段階にふさわしいものであったか。
- オ 児童一人一人が、自分との関わりで考え、自己の生き方についての考えを深められるものだったか。自発的に問題を考え、積極的に学習を行うような配慮がなされていたか。

このほか、児童は学習活動に集中していたか、新たに学んだことや気付いたこと、これからしようと思うことなどが生まれてきたかなどを把握することも重要である。

道徳科授業への取り組み

- ・道徳的価値に関わる授業者の考え方(価値観)に基づいた指導の結果としての子供の姿(児童生徒観)を明確にし、
 1. 道徳科で何を理解させ、
 2. 何を考えさせるのかを明確にする
 - ・そのために、どのような学習を展開したらよいかを明らかにする
- 子どもの主体的な学び合いによってねらいとする道徳的価値の自覚を深める道徳授業を教員一人一人が極める

教師のルールの上で主人公の心情だけを理解させるのではなく、「自己とは何か」「人間とは何か」「人生とは何か」「如何に生きるべきか」という課題について、様々な悩みや疑問をぶつけ合いながら、児童生徒と教師が共に考え、探求していく道徳授業

22

明確な指導観に基づく授業の構想

教師の価値観を明確にする

道徳的価値について、どのような考えをもっているか

児童生徒観を明確にする

その考え方を基にどのような指導をして、子供にどのようなよさや課題があるか

教材観を明確にする

その結果、授業で子供にどのようなことを考えさせればよいか

23

教師の価値観

- ・ねらいとする道徳的価値に関わる教師の見方、考え方であり、授業の成否だけでなく、子供一人一人の道徳性の発達にも影響を与えます。
- ・道徳科は、子供一人一人が特定の道徳的価値に基づくねらいとの関わりで、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める、道徳的価値の自覚を深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度といった内面的資質を主体的に育むことを目指しています。

24

児童生徒観

- ・同じ教材を使っても、**子供が異なれば授業の視点や内容は違ってきます**。道徳科の授業構想のためには、**ねらいとする道徳的価値を視点とした子供の実態を明らかにすることが重要です**。ねらいとする道徳的価値に関わって、**子供の状況を明らかにすることが求められます**。**児童観とは、言い換えれば学習指導案に示す子供の実態であり、一単位時間のねらいとする道徳的価値に関わって子供がどのような実態なのか、授業者の価値観を基に見たときに子供がどのような状態なのかを明確にすることが、効果的な学習指導過程の構想にもつながります**。
- ・子供の実態を明確にするためには、**本時に至るまでの道徳的価値に関わって行われた指導の機会や程度についても明らかにする必要があります**。授業者の指導の振り返りにより、**不十分な点を補ったり、指導をより一層深めたり、相互の関連を考慮して発展させ、統合させたりする指導を展開することになります**。

25

教材観

- ・様々な背景をもち、多様な感じ方や考え方の子供たちに、考え、議論する**集団思考を促すためには、共通の教材を基に学習を展開し、主体的に協働的に学び合えるようにする必要があります**。
- ・授業者の明確な価値観や児童観に基づいて、**ねらいとする道徳的価値に関して最も考えさせたい教材の場面を明らかにし、中心発問を設定します**。もちろん、教材の**山場と中心発問の場面とが一致するとは限らない**。
- ・授業者が、**ねらいとする道徳的価値に関わって子供たちに最も考えさせたい場面を明らかにし、道徳性を育むために、どのように道徳的価値の理解を図るのかを明らかにすることが重要**。

26

道徳科の学習指導案

1. 主題名
2. ねらいと教材
3. 主題設定の理
 - ①指導観(教師の価値観)
ねらいや指導内容についての教師の捉え方、
 - ②児童生徒観
児童の学習状況や実態と教師の願い、
 - ③教材観
使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法等

27

学習指導の多様な展開 1

学習指導の多様な展開のために

- ・学級の実態
- ・児童の発達の段階
- ・指導の内容や意図
- ・教材の特質
- ・他の教育活動との関連



柔軟な発想で学習指導を構想

28

多様な教材を生かした指導

- ・道徳的な行為を題材とした教材を用いる
→伝記、実話、意見文、物語、詩、劇
- ・登場人物の立場に立って**自分との関わりで道徳的価値について理解したり、このことを基にして自己を見つめたりすることが求められる**。
- ・教材に対する**感動を大切に**する展開にしたり、道徳的価値を実現する上での**迷いや葛藤を大切に**したりすることなどにより、学習過程や指導方法を工夫することが大切である。

29

多様な教材を生かした指導

- × 教材から読み取れる価値観を一方的に教え込む。
- × 主題やねらいの設定が不十分な、単なる生活経験の話合い。
- × 登場人物の心情理解のみの指導。



児童が道徳的価値を自分との関わりで考えることができるように、問題解決的な学習を積極的に取り入れることが求められている。

31

体験の生かし方を工夫した指導

児童は、学校の教育活動や日常生活において様々な体験をしている。その中で、様々な道徳的価値に触れ、自分との関わりで考えたり感じたりしている。



児童が日常の体験やそのときの考え方や感じ方を生かして道徳的価値の理解を深めたり、自己を見つめたりする指導の工夫をすることが大切である。

32

各教科等と関連をもたせた指導

- ・各教科等と道徳科の指導のねらいが同じ方向であるとき。
- ・例えば国語科における物語文の学習、社会科における郷土や地域の学習、特別活動における集団形成の学習など。



- ・学習の時期を考慮したり、相互に関連を図ったりして指導を進める。
- ・各教科等と道徳科それぞれの特質が生かされた関連となるように配慮。

33

道徳科に生かす指導方法の工夫

- ・児童の感性や知的な興味に訴える。
- ・児童：問題意識、主体的に考え、話し合う。
- ・教師：多様な指導方法の理解、ICTなどの活用。

【教材を提示する工夫】

読み物教材

→読み聞かせ、紙芝居、影絵、人形劇
音声、映像など 事前の吟味

△多すぎる情報 → ○精選された情報

34

道徳科に生かす指導方法の工夫

【発問の工夫】

- 自分との関わりで道徳的価値を理解させる。
- 自己の見つめる、物事を多面的・多角的に考えたりするための思考や話し合いを深める。



- ・考える必然性や切実感のある発問。
- ・自由な思考を促す発問。
- ・物事を多面的・多角的に考える発問。

35

道徳科に生かす指導方法の工夫

【話し合いの工夫】

- 児童相互の考えを深める中心的な学習活動。
- 道徳科においても重要な役割を果たす。



- ・考えを出し合う、まとめる、比較するなどの目的に応じて効果的に話し合いが行われるよう工夫。
- ・座席の配置を工夫。
- ・討議形式、ペアやグループによる対話、話し合い。

36

質の高い多様な指導方法 例1

読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習

導入	道徳的価値に関する内容の提示。
展開	【登場人物への自我関与】 →道徳的価値を自分との関わりで考える。
	【振り返り】 →授業を振り返り、自分の考えを深める。
終末	まとめ→今後どのように生かすか。 →道徳的価値への自分なりの考え。

43

質の高い多様な指導方法 例1

読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習

教材 はしの上のおおかみ

(わたしたちの道徳 小学校1, 2年)

粗筋

長くて一人しか渡れない一本橋。うさぎと会ったおおかみは、「ぼんやりうさぎめ、戻れ戻れ」と追い返し、おもしろくて意地悪を繰り返す。

ある日、熊に出くわし自分が戻ろうとしたおおかみは熊に抱き上げられて後ろへおろしてもらう。

次の日、おおかみは、もどろうとするうさぎを抱いて後ろへおろし、気持ちが晴れ晴れとした。

44

質の高い多様な指導方法 例1

読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習

内容項目	B 親切、思いやり (1, 2学年) 身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。
ねらい	親切やいじわるをするときの気持ちを考え、人に温かい心で接し、親切にしようとする心情を育てる。
主題名	親切にすること

45

質の高い多様な指導方法 例1

読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習

【導入】

教師の話や発問を通して、本時に扱う道徳的価値への方向付けを図る。

発問…親切にされたことにはどんなことがありますか。また、そのとき、どんな気持ちになりましたか。

- 友達が忘れ物を貸してくれてうれしかった。
- 保健室に連れて行ってきて、けがが早く治ってよかった。

46

質の高い多様な指導方法 例1

読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習

【展開前半】

登場人物への自我関与を通して、道徳的価値を自分との関係で捉え、考えを深める。

発問

1. おおかみが意地悪するとき気持ちは？
2. おおかみが親切にするときの気持ちは？
3. どちらが気持ちいいでしょうか？

留意点

- お面をかぶるなどして、なりきらせる等。
- ペアで話す等。○まとめて3. で問う場合も。

47

質の高い多様な指導方法 例1

読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習

【展開後半】

登場人物への自我関与を通して、道徳的価値を自分との関係で捉え、考えを深める。

発問

これまで、自分は、人に親切にして「いい気持ち」「晴れ晴れとした気持ち」になったことがありますか？(書く活動)

【終末】

教師による説話などで学習をまとめる。
意地悪の気持ちよさ < 親切にする気持ちよさ。

48

学習指導の多様な展開 2

問題解決的な学習の工夫

道徳科における問題解決的な学習

ねらいとする道徳的諸価値について自己を見つめ、これからの生き方に生かしていくことを見通しながら、**実現するための問題を見つけ、どうしてそのような問題が生まれるのかを調べたり、他者の考え方や感じ方を確かめたりと物事を多面的・多角的に考えながら課題解決に向けて話し合うこと。**

50

問題解決的な学習の工夫

道徳的な問題の例

- ・道徳的諸価値が実現されていないことに起因する問題。
- ・道徳的諸価値について理解が不十分又は誤解していることから生じる問題。
- ・道徳的諸価値のことは理解しているが、それを**実現しようとする自分とそうできない自分との葛藤**から生じる問題。
- ・複数の**道徳的価値の間の対立**から生じる問題等。



これらの問題構造を踏まえた場面設定が必要。

51

問題解決的な学習の工夫

指導方法の工夫

- ・主題に対する児童の興味や関心を高める導入。
- ・他者の考えと比べ自分の考えを深める展開。
- ・主題を自分との関わりで捉え自己を見つめ直し、発展させていくことへの希望がもてるような終末。
- ・**児童相互の話合いの充実、ペアやグループ。**
(話し合うことそのものが目的化しない。)
- ・児童一人一人が**課題に対する答え**を導き出す。

52

質の高い多様な指導方法 例 2

問題解決的な学習

導入	問題の発見や道徳的価値の想起など。
展開	【問題の探究】 →道徳的問題を多面的・多角的に議論する。
	【探究のまとめ】 →問題場面の解決 道徳的価値の理解・深化。
終末	まとめ→自己の深い理解、今後の生かし方。 →新たな問い。

53

質の高い多様な指導方法 例 2

問題解決的な学習

教材 知らない間の出来事（私たちの道徳 小学校5，6年）
粗筋

あゆみの回想

転入した学校で、みかに携帯のメールアドレスを聞かれたが、持っていないので電話番号を教えた。翌日学校では、自分が仲間はずれで転入したという話になっていた。帰りの会で違うと述べ、黙って帰った。

みかの回想

あゆみが携帯を持っていないので、友達があまりいないみたいとの推測をクラスの友達にメールした。翌日、自分のメールがもとで仲間はずれの噂がたっていた。

54

質の高い多様な指導方法 例2

問題解決的な学習

内容項目	B 友情、信頼 (5, 6学年) 友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。
ねらい	人間関係で大切なことを考え、友達と互いに信頼し合って、友情を深めようとする態度を育てる。
主題名	互いに信頼するとは

55

質の高い多様な指導方法 例2

問題解決的な学習

【導入】
読み物教材から道徳的な問題を見つけ、道徳的価値についての問いをもつ。

発問…この出来事では何が問題でしょうか。

それは、友達関係にどんなつながりがありますか。

- みかが推測で「あゆみは友達が少ない」とメールしたこと。その友達が「仲間はずれ」とメールしてクラスに上げたこと。
- 友達との信頼や友情につながる大切な問題。

56

質の高い多様な指導方法 例2

問題解決的な学習

【展開前半】
登場人物の行動の仕方やその理由を明確にし、道徳的価値について考える。

発問

1. みかのあゆみへの気持ちはどうですか？
2. みかはどうすればよかったでしょうか？
3. 友情を深める上で大切なことは何でしょうか？

留意点

- 体験を踏まえ、自分事として考えられるようにする。
- ペアで話す等。 ○価値観を3. の問いで深める。

57

質の高い多様な指導方法 例2

問題解決的な学習

【展開後半】
登場人物の行動の仕方やその理由を明確にし、道徳的価値について考える。

発問

自分が友情を深める上で大切にしてきたことやこれから大切にしたいことはどんなことでしょうか？（書く活動）

【終末】

- 友情を深めるその他の場面などを想起する。
- 教師が携帯など情報機器の取扱について話をする。

58

学習指導の多様な展開3

道徳的行為の体験的な学習等を取り入れる工夫

目的

- 体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるようにすること。
- 道徳的諸価値を理解したり、自分との関わりで多面的・多角的に考えたりするために行う。

59

道徳的行為の体験的な学習等を取り入れる工夫

実際の具体的な道徳的行為を取り入れる例

- 実際に挨拶や丁寧な言葉遣いなど具体的な行為をして、礼儀のよさや作法の難しさなどを考える。
- 相手に思いやりのある言葉をかけたり、手助けをして親切についての考えを深めたりする。

61

道徳的行為の体験的な学習等を取り入れる工夫

動作化、役割演技など

動作化：動きや言葉を模倣して理解を深めるなど。

役割演技：児童に特定の役割を与え、教材の登場人物の言動を即興的に演技する。

その他：音楽、所作、その場に応じた身のこなし、表情などで考えを表現する等の工夫。

62

特別活動等の多様な実践活動等を生かす工夫

- ある体験活動の中で考えたことや感じたことを道徳科の話合いの中で生かすことで、児童の関心を高め、道徳的実践活動を主体的に行う意欲と態度を育むことができる。
- 学校が計画的に実施する体験活動は、共通の関心などをもとに問題意識を高めて学習できる。
- それぞれの指導相互の効果を高めることができる。

63

質の高い多様な指導方法 例3

道徳的行為に関する体験的な学習

導入	わかっても実践できない道徳的行為の想起。
展開	問題場面の把握と役割演技など。 →葛藤の理解、難しさ、清々しさの理解。 道徳的価値の意味の理解、考察。 →多面的・多角的な考察、新たな場面の考察。
終末	まとめ→価値の深い理解、今後の生かし方。 →実生活における見直し。意欲、態度。

64

質の高い多様な指導方法 例3

道徳的行為に関する体験的な学習

教材 ヒキガエルとロバ
(わたしたちの道徳 小学校3, 4年)

粗筋

- 雨上がりの畑道、アドルフたちがヒキガエルに石をぶつけて遊ぶ。ヒキガエルは泥道の轍へ逃げる。
- その時、荷車を引いたロバが来た。ヒキガエルがひかれるのをおもしろがる子どもたち。ロバは、直前にヒキガエルを友達を見るような目で見つめ、違う轍を付けながら、ヒキガエルをひかずに通り過ぎた。
- その様子を見ていた子どもたちは、助かったヒキガエルと遠く去っていくロバをいつまでも眺めていた。

65

質の高い多様な指導方法 例3

道徳的行為に関する体験的な学習

内容項目	D 生命の尊さ (3, 4学年) 生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。
ねらい	生命の尊さについて考え、生命あるものを大切にしようとする態度を育てる。
主題名	命を大切にすること

66

質の高い多様な指導方法 例3

道徳的行為に関する体験的な学習

【導入】

わかっていても実践できない道徳的行為の想起。

発問…生命を大切にしようとしてもなかなかできなかったことはありますか？

- 昆虫を飼っていたけど、お世話があまりできなくて死なせてしまったことがある。
- 自分の役割であるペットの犬の散歩が面倒くさくてさぼってしまうことがある。
- 生命を大切にすることについて考えてみたい。

57

質の高い多様な指導方法 例3

道徳的行為に関する体験的な学習

【展開前半】

問題場面の把握し、役割演技で生命を大切にすることについて考える。

発問

1. 石を投げているときの少年たちの気持ちは？
2. カエルをじっと見るロバは、どんなことを考えていたのだろうか？
3. ロバの姿を眺めているとき、少年たちはどんなことを話したのか、役割演技をしてみよう？

留意点

- 三人組で演技する。 ○自由な雰囲気。
- 演じた児童、観客の児童それぞれに感想を聞く。

58

質の高い多様な指導方法 例3

道徳的行為に関する体験的な学習

【展開後半】

生命を大切にする上で、必要な考えを話し合う。

発問

演技をしてみて、生命を大切にする時、必要な考えや思いはどんなことだと思いましたか？（書いた後話し合う。）

【終末】

生命を大切にする上で、これからの生活でできそうなこととその理由をまとめる。

59

学習活動の活性化、意欲化の手立て（例）

- ネームカード：立場や考えを明確にしたり、変化をわかりやすくしたりする。
- お面：役割演技や動作化で役になりきらせる。
- 色カード：立場を明確にさせる。
- ペアやグループに1枚のホワイトボード

60

思考の見える化、思考活動の意欲化（例）

- 「座標軸」に自分の立場や考えを位置づける。
- 「ベン図」に自分の考えを位置づける。
- 「スパイダーグラフ」で自分の考えを数値化して表す。
- 「ウェビングマップ」で考えのつながりやグループ化を表現する。
- そのほか

71

参考文献・資料

- 小学校学習指導要領（平成27年3月）
- 小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成27年7月）
- 「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）（平成28年7月）道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議
- 次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについて（報告）中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会（平成28年8月）
- 平成28年5月27日教育課程部会
- 道徳教育について（「考える道徳への転換に向けたワーキンググループ」資料4）

72

上越教育大学上越道徳教育アカデミー 道徳教育研究大会 2018. 8. 20

シンポジウム
道徳教科書の効果的活用と指導方法の工夫

文部科学省初等中等教育局教科書調査官
馬場 勝

1

なぜ「教科」に？

2

中教審答申(平成26年10月21日)
「道徳に係る教育課程の改善等について」

「特別の教科 道徳」として新たに位置づけ

- ・ 目標
- ・ 内容
- ・ **教材**
- ・ 評価
- ・ 指導体制

在り方等を見直す

- ・ **効果的な指導を確実に展開**

3

中教審答申(平成26年10月21日)
「道徳に係る教育課程の改善等について」

道徳教育の充実 ➡ 充実した教材が不可欠

- ・ **教材の具備すべき要件**に留意
- ・ 中心となる教材として **検定教科書**を導入
- ・ 教科書だけでなく、**多様な教材が活用**されること

4

教科書とは・・・？

5

教科書とは・・・

教科書の発行に関する臨時措置法 第2条第1項

「教科書」とは、・・・学校において、教育課程の構成に応じて組織排列された**教科の主たる教材**として、教授の用に供せられる児童又は生徒用図書であって、**文部科学大臣の検定を経たもの**又は文部科学省が著作の名義を有するものをいう。

6

教科書の使用義務

学校教育法 第34条第1項(中学校は第49条で準用)

小学校においては、**文部科学大臣の検定を経た教科用図書**又は文部科学省が著作の名義を有する教科用図書を使用しなければならない。

13

小・中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編
第4章 指導計画の作成と内容の取扱い
第4節 道徳科の教材に求められる内容の観点

小学校:106頁 中学校:108頁



2 道徳科に生かす教材

・なお、**教科用図書以外の教材を使用**するに当たっては、「学校における補助教材の適正な取扱いについて」(平成27年3月4日 初等中等教育局長通知)など、**関係する法規等の趣旨を十分に理解した上で、適切に使用**することが重要である。

14

教科書の使用義務の例外

学校教育法 第34条第2項(中学校は第49条で準用)

前項の**教科用図書以外の図書その他の教材**で、有益適切なものは、**これを使用することができる**。

15

教科書以外の教材の取扱い

地方教育行政の組織及び運営に関する法律 第33条第2項

教育委員会は、学校における**教科書以外の教材の使用について**、あらかじめ、教育委員会に届けさせ、又は教育委員会の**承認**を受けさせることとする定を設けるものとする。

16

小・中学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳
第3 指導計画の作成と内容の取扱い

小学校

1 (道徳科の年間指導計画の)作成に当たっては、第2に示す**各学年段階の内容項目について、相当する各学年において全て取り上げる**こととする。

中学校

1 (道徳科の年間指導計画の)作成に当たっては、第2に示す**内容項目について、各学年において全て取り上げる**こととする。

17

小・中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編
第4章 指導計画の作成と内容の取扱い
第4節 道徳科の教材に求められる内容の観点

小学校:103頁 中学校:105頁



- 1 教材の開発と活用の創意工夫
- (2) 多様な教材を活用した創意工夫ある指導

・・・授業の展開に中心的に位置付ける教材だけでなく、**補助的な教材を組み合わせ、それらの多様な性格を生かし合う**など、様々な創意工夫が生み出される。

18

3 教材については、次の事項に留意するものとする。
(2) 教材については、教育基本法や学校教育法その他の法令に従い、次の観点に照らし適切と判断されるものであること。

ア 児童(生徒)の発達の段階に即し、ねらいを達成するのにふさわしいものであること。

イ 人間尊重の精神にかなうものであって、悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題も含め、児童(生徒)が深く考えることができ、人間としてよりよく生きる喜びや勇気を与えられるものであること。

ウ 多様な見方や考え方のできる事柄を取り扱う場合には、特定の見方や考え方に偏った取扱いがなされていないものであること。

19

道徳教材って…？

20



小学校:83頁 中学校82頁

3 学習活動の多様な展開

(1) 多様な教材を生かした指導

・教材の形式の例示

伝記、実話、意見文(論説文)、物語、
詩、劇 など

21



103頁

(2) 多様な教材を活用した創意工夫ある指導

- ・様々な題材について郷土の特色が生かせる教材
- ・古典、随想、民話、詩歌などの読み物
- ・映像ソフト、映像メディアなどの情報ネットワークを利用した教材
- ・実話、写真、劇、漫画、紙芝居などの多彩な形式の教材

22

どんな教材があるか…



- ・読み物
- ・内容項目、現代的な課題の説明(文・写真・図・漫画など)
- ・ワークシート(問いを考える、自分を振り返る)
- ・コラム
- ・格言
- ・詩 など

23

内容 → 「学習指導要領」を基に構成

方法(道徳の授業論) → ?

「意図的に組み込む」

or

「あらゆる方法に『開く』=考えない」

24

道徳の授業論

道徳の「授業論」の吟味

CS改訂

「考える道徳」、「議論する道徳」への転換

【目標】

「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習」

「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」

【内容の取扱い】

言語活動の充実
問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等
→ 指導方法の工夫例

25

道徳教材に記載された内容・方法

内容 → 「学習指導要領」を基に構成

方法(道徳の授業論)

意図的に組み込む

- ①「方法」のみに特化した教材 スキルを学ぶ等
- ②「方法」(「内容」とリンク)に特化した教材 「礼儀」等
- ③「方法」が埋め込まれた教材 主人公の変容(実存論的)等
- ④「問い」で「方法」を示した教材
- ⑤「学び方の頁」で「方法」を示した教材 など

あらゆる方法に開く＝「方法」を記載しない

26

そもそも、教材って…?

27

そもそも「教材」って？

教育の目的
文化の伝承

文化の内容
そのものが教材

「教科書を」

戦前: 国定教科書
戦後: 科学的教育内容

「教材のある」
教材＝到達点

教育の目的
個人の経験
の再構築

内容よりも
学び方(方法)

「教科書で」

戦前: 新教育運動
戦後: 生活経験学習

「教材になる」
教材＝出発点

参考: 日本教材学会「教材事典」 28

そもそも「教材」って？

二元論を超えて…

「実体的な概念」としての教材



「関係概念」としての教材

※「内容」と学習者の「認識」を関係付ける

小笠原喜康(1989)

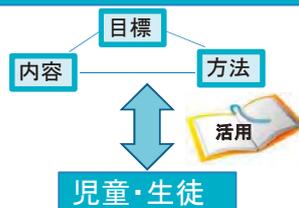
29

学習指導要領改訂

「考える道徳」、「議論する道徳」への転換

道徳授業の質的転換

道徳の「授業論」(目標・内容・方法の関連)の吟味



「何のために」考えさせるのか?

「何を」考えさせるのか?

「どこで」考えさせるのか?

「どのように」考えさせるのか?

30

上越教育大学 上廣道德教育アカデミー
道德教育研究大会シンポジウム

子供の1年間の道德学びが見えるような教科書活用へ
～ユニット型道德教科書活用法で「子供自身が語り合い・深く考える」道德科授業を実現する～

國學院大學 田沼茂紀

子供が主体的・能動的に学んでいる姿を教科書で実現する

- 教材中の人物の生き方に自我関与している
- 教材中の道德的問題を自分事として受け止めている
- 普段の自分の道德生活（善くも悪くも）に重ね合わせて問題を考えている
- 自分のこれからの道德生活をイメージしながら、望ましい問題解決の在り方を考えている

道德学びの中で、いつも「もし自分がこの人物の立場だったらどうするだろうか・・・」と自分に引き比べて考えられることが大切。だからこそ、教科書教材で「客観的に多面的・多角的に思考・判断・表現（頭で分かっていても実際は・・・）できる」ことが大切なのである。

大事にしたい「間接的道德体験」としての教材が果たす役割

これからの道德科教科書開発で予測される明日の姿
⇒教材つまみ食い型道德授業から教科書活用型道德科授業へ

◆採択教科書が道德科授業にもたらす変化

- ♡採択教科書が構成・配列した教材の順に従った年間指導計画が定着し、毎週の道德科授業が展開されるようになる。
- ♡採択教科書に所収されている教材を「当たり前前提」とした道德科授業研究カンファレンスがいっそう進行する。
- ♡教科書教材とその配列ありきの前提で、道德科授業実践研究が進行する。

つまり、
今後は採択教科書が各地域に根を下ろして定着し、固定化し、特定の教科書教材を軸に道德科授業が内向きで語られることになろう。

教科書だからできること、教材を関連付けて「気付かせ」、「考えさせ」、「自分事として受け止ませ・行為へ導く」ための活用法提示

- ♡1年間の道德科授業を大単元と捉え道德教育全体計画に基づく年間指導目標と年間指導＆評価計画を構想する。
- ♡各学期を中単元として捉え、各シーズンの重点指導テーマと目指す子供像＆学び評価計画を4視点から構想する。
- *その際、D視点の内容項目はA～C視点の各内容項目を基底で支え、貫く基本価値であることを確実に押さえるようにする。
- ♡現代的な課題を軸に各シーズンの重点指導テーマを具現化するための小単元ユニットを配置（1主題1時間扱い授業とのマッチングも配慮）しながら、各学期指導計画と道德学習評価計画を構想する。
- *はじめに教材ありきでなく、カリキュラム・マネジメントの視点から全教育活動が教科書教材をパッケージ型ユニットとして活用できるようにすることは大きな意味がある。

1冊の教科書に求められるニーズを満たす必然としての教材の多様さと多面的・多角的な利活用法の在り方を提示する

◆心情重視型から論理的思考型道德科授業へ

認知的側面	実質・能力	実質 能力の柱となる構成要素	道德的実質・能力形成との関連性
情動的側面	知識・技能	何を理解しているか、何ができるか。	道德的価値観についての理解を基に、
行動的側面	思考力・判断力・表現力等	理解していること・できることをどう使うか。	自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考える。
	学習に向かう力、人間性等	どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか。	自己（人間としての）の生き方についての考えを深める。

道德科の「目標」
実現への方法論

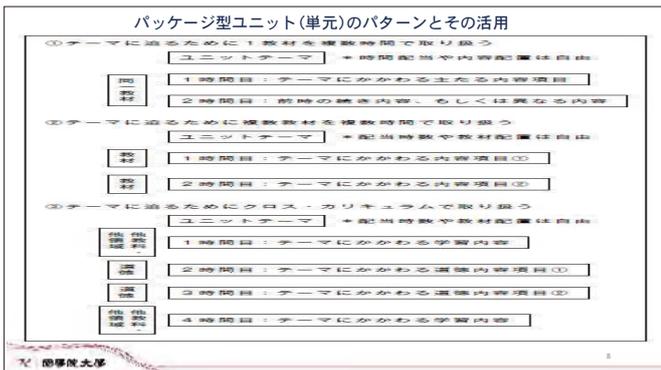
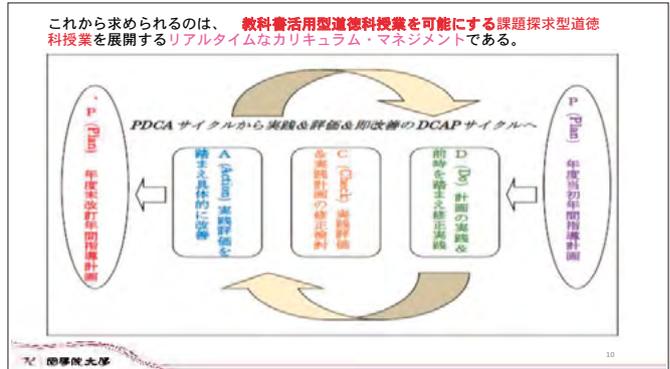
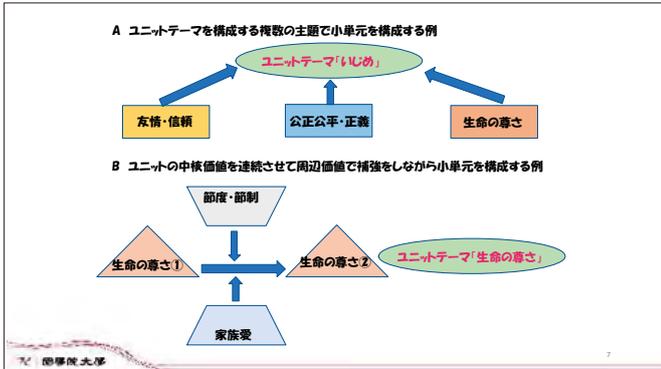
道德的な見方・感じ方・考え方
道德的課題解決

見方・感じ方・考え方を裏付ける事実 ↔ 見方・感じ方・考え方を支える理由付け

♡教科書を縦横に駆使しながら、自校の道德科年間指導計画を入れ子構造で構想する
年間35時間の単元⇒中単元⇒小単元と意図的・計画的・発展的に具体化する

第○学年 道德科年間指導計画（35時間配当）
大単元テーマ：自分・他者・社会との関わりを見つめよう
重点指導内容：自由と責任、相互理解・寛容

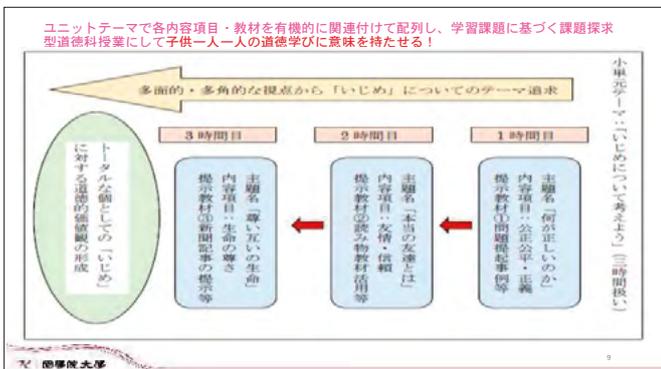
3学期：中単元 [3rd season]	2学期：中単元 [2nd season]	1学期：中単元 [1st season]
育ちゆく自分を見つめよう	集団社会との関わりを広く見つめよう	自分と他者との関わりを見つめよう
★1主題1単元時間授業 ・自己の尊厳を守る ・キャリアを育む自分	★1主題1単元時間授業 ・権利と義務を考えよう ・支え合える社会の実現	★1主題1単元時間授業 ・SNSを問い直そう ・多角的に配当する
小単元配置（複数時間扱い） ・自己の尊厳を守る	小単元配置（複数時間扱い） ・権利と義務を考えよう	小単元配置（複数時間扱い） ・はじめについて考えよう



課題探求型道徳科授業の基本フレームを大切に展開する

「子供自身が語り出し、協同学習で深く考える」道徳科プロセス
[学習テーマを理解する] <①学びを方向付ける>
 ↓ ★本時の課題を知り、自我関与するためのスキル
[追求する学習課題を設定する] <②深化への課題をもつ>
 ↓ ★協同思考道徳学習課題へとつなげるためのスキル
[教材での学びから共通解を導き出す] <③価値の多面的な理解>
 ↓ ★広く、深く課題追求して共通項を見出すためのスキル
[共通解を基に個別な納得解を紡ぎ出す] <④個の価値観創造>
 ↓ ★自らの道徳的課題として自覚・体現するためのスキル
[納得解実践化への新たな課題をもつ] <⑤実践イメージの喚起>
 ↓ ★望ましさを生活に敷衍し、継続していくためのスキル

徳研院大専



これからは教科書の編集内容構成そのものが**実効性の伴う各学年年間指導計画作成の重要な役割**を担い、そこでの課題探求型ユニット構造でのしかけを実現することで「**主体的・対話的で深い学び**」、つまり「**考え、議論する道徳科授業**」が創造できるのである。

- ①教科書教材の構成を工夫・活用することで、道徳科学習を活性化できる。
- ②課題探求型授業での主体的な学びは有効な道徳科学習評価を可能にする。
- ③道徳科での学習評価を的確にポートフォリオしていくためには、テーマが一貫したユニット型課題探求学習をマネジメント運用することでしか実現しない。
- ④子供の道徳的学びを可能にしていく前提には、どのような 資質・能力を計画的・発展的に育むのかという年間を通じた見通しが不可欠である。
- ⑤いくらよい道徳科学習評価であったとしても、子供自身が実感としての充実感や達成感が伴う学び体験をしていなければ、それは何の意味ももたない。

道徳教科づくりのフロントランナーとして、共に明日を拓いていきましょう！

徳研院大専

道德教育の未来 ～教科化後の課題を考える～

上越教育大学
上廣道德教育アカデミー
林 泰成

1

目次

- 1 社会の変化と教育改革
- 2 法律の改正と道德の教科化
- 3 質の高い多様な指導方法
- 4 これからの授業スタイル
- 5 評価
- 6 道德教育の未来

2

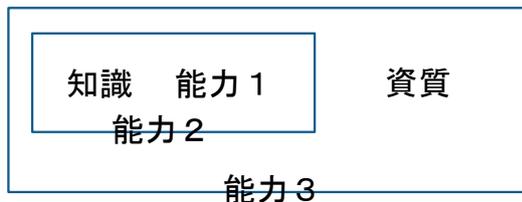
1 社会の変化と教育改革 1.1 Society 5.0

画像削除

画像削除

1.2 知識伝達から能力開発へ

教育の目的の中に位置づけられている学力の概念が変化し始めている（学力の中に人間性や協調性などが入り込み始めている）。



松下佳代「資質・能力の新たな枠組み—「3・3・1モデル」の提案」（『京都大学高等教育研究』第22号、2016年）より

5

1.3 協同問題解決能力

OECDによるPISA2015調査 協同問題解決能力の調査

「協同問題解決能力とは、複数人が、解決に迫るために必要な理解と労力を共有し、解決に至るために必要な知識・スキル・労力を出し合うことによって問題解決しようとするプロセスに効果的に取り組むことができる個人の能力である。」

国立教育政策研究所『OECD 生徒の学習到達度調査 Programme for International Student Assessment PISA2015年協同問題解決能力調査—国際結果の概要—』平成 29（2017）年 11 月より

6

2 法律の改正と道徳の教科化

2.1 教育基本法の改正

教育基本法

1947年（昭和22年）に公布・施行
2006年（平成18年）に改正

第1条 教育は、**人格の完成**を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた**心身ともに健康な国民の育成**を期して行われなければならない。

7

第2条 教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

一 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、**豊かな情操と道徳心**を培うとともに、**健やかな身体**を養うこと。

二 **個人の価値を尊重**して、その能力を伸ばし、**創造性**を培い、**自主及び自律の精神**を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、**勤労を重んずる態度**を養うこと。

三 **正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力**を重んずるとともに、**公共の精神**に基づき、**主体的に社会の形成に参画**し、その発展に寄与する態度を養うこと。

四 **生命を尊び、自然を大切に**し、**環境の保全**に寄与する態度を養うこと。

五 **伝統と文化を尊重**し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、**他国を尊重し、国際社会の平和と発展**に寄与する態度を養うこと。

8

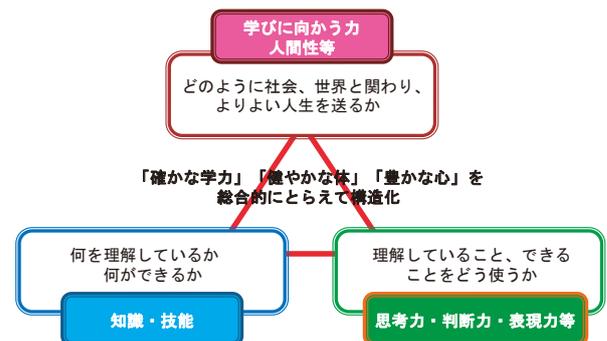
2.2 学校教育法 第30条第2項

前項の場合においては、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、**基礎的な知識及び技能**を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な**思考力、判断力、表現力その他の能力**をはぐくみ、**主体的に学習に取り組む態度**を養うことに、特に意を用いなければならない。

（平成19年の改定の際に入った。最新版は、平成31年4月1日施行）

9

育成を目指す資質・能力の三つの柱



「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」平成28年12月21日 補足資料、p.7より

10

2.3 学習方法としての アクティブラーニング

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連づけてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」

中教審答申平成28年12月 11

3 質の高い多様な指導方法

× 登場人物の心情理解のみの指導

① 読み物教材の登場人物への**自我関与**が中心の学習

道徳科授業づくりのポイント

② 問題解決的な学習

③ 道徳的行為に関する体験的な学習

× 主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話合い

「『特別の教科 道徳』の指導方法・評価について（報告）」平成28年7月22日より

12

学習指導要領でも . . .

生徒の発達段階や特性等を考慮し、指導のねらいに即して、**問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習**等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫すること。その際、それらの活動を通じて学んだ内容の意義などについて考えることができるようにすること。また、特別活動等における**多様な実践活動や体験活動も道徳科の授業に生かす**ようにすること。

中学校学習指導要領（平成29年3月告示）「第3章 特別の教科 道徳」

13

3.1 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習

伝統的な道徳授業
価値主義的、心情主義的

授業展開

パターン1
導入 展開 終末

パターン2
導入 展開前段 **展開後段** 終末
価値の一般化(青木孝頼氏)
価値の主體的自覚(瀬戸真氏)

道徳科授業づくりのポイント

14

【場面発問】

資料中のある場面に即して、そこでの登場人物の心情や判断、行為の理由などを問うたり気づきを明らかにしたりする発問。

～のとき〇〇の気持ちはどんなだろう。

～のところで〇〇はどう思っただろう。

～するときの心の中はどんなか。など

「安全・安心運転」型の授業が多くなる

◆場面ごとに停車（各駅停車）して、主人公の思いなどを深めていく。

【テーマ発問】

資料の主題やテーマそのものに関わって、それを掘り下げたり、追求したりする発問。「主題発問」とも言える。

～にはどんな意味があるのか。〇〇が大切にしていることは何だろう。

～はどんなことが問題なのか。など

「冒険運転」型の授業が多くなる

◆地図を持って運転するような思いで話し合いが進み、議論型の授業になる。

永田繁雄氏(東京学芸大)の講演資料から

テーマ発問の特色

- 主人公の気持ちではなく、子ども自身の考えを問うことが多い。
- 子どもの生き方につながる考えが直接語られることが多い。
- 資料の一場面ではなく、資料や話の全体に着眼することが多い。
- 授業や資料の持つ主題(問題)に直接係わる発問が多い。

永田繁雄氏(東京学芸大)の資料から

15

ないた赤おに
赤おにの気もち
たてふだをこわしたとき

せつかく立てたのに。
人間がしんじてくれなくて、くやしい。
なんでわかってくれないんだらう。
みんながあそびに来てくれるようになったとき

あそびに来てくれてうれしい。
友だちができてたのしい。
青おにさん、どうしているかな。
青おにのてがみをよんだとき

どうして、たびに出たの。
言ってくればよかったのに。
ぼくのことを、こんなにおもってくれていたんだ。

友だちがいてくれてよかったなとおもったことはありませんか。



どんなときでも信じ合えるってこと
裏切らないこと

友情ってなんだろう？

いっしょに遊ぶこと
いっしょにいて楽しいという関係のこと

ないた赤おに
赤おにの気もち
たてふだをこわしたとき

せつかく立てたのに。
人間がしんじてくれなくて、くやしい。
なんでわかってくれないんだらう。
みんながあそびに来てくれるようになったとき

あそびに来てくれてうれしい。
友だちができてたのしい。
青おにさん、どうしているかな。
青おにのてがみをよんだとき

どうして、たびに出たの。
言ってくればよかったのに。



3.2 問題解決的な学習

一例としてのモラルジレンマ授業

1 主題2時間構成

授業の流れ

1 時間目

- 立ち止まり読み
- 第1次判断理由づけ

2 時間目

- 資料内容の確認
- モラルディスカッション1 (相互の批判吟味)
- モラルディスカッション2 (練り合わせ)
- オープンエンド (結末を示さずに終わる)

討論型の授業はモラルジレンマだけではない！
例えば、競技型ディベート、自由討論など。

19

■ モラルジレンマ授業と 問題解決的な学習

モラルジレンマ授業

道徳的判断の訓練

どちらを選んでよいかわからないということが、児童生徒の興味関心を引き付ける。

第三の選択肢は、選ばないという状況に追い込む。

現実世界の問題解決

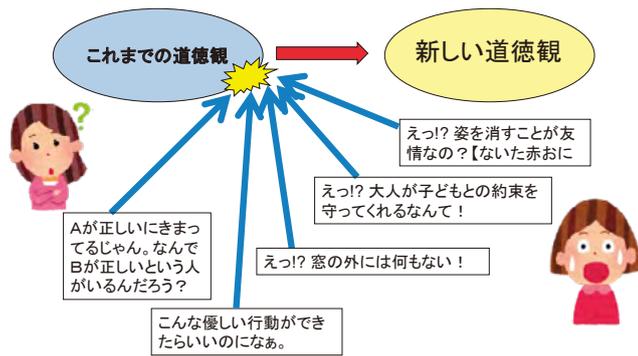
私たちは、どちらを選んでよいのか悩んだとき、両者を成り立たせる折衷案を考える。個人レベルでは意見が割れても、集団としては、進むべき道を決断し、実行しなければならない。

オープンエンドではなく、クローズドエンドにしなければならない。

20

■ 認知的刺激による道徳観の再構築

認知的刺激になりうるのはジレンマだけなのだろうか？



21

他の討論型授業としては……

討議倫理学に基づく授業

討議倫理学: すべての当事者が参加する「実践的討議」を通して、のっとるべき規範を創出しようという現代倫理学の方向。ドイツのハーバース・アーペルらが代表。『大辞林』三省堂より

子どものための哲学(こどものためのてつがく、英: Philosophy for Children, *P4C*)とは、**子ども**に推論方法や議論の**スキル**を教えることを目指した教育運動のことである。「若者のための哲学(Philosophy for Young People)」、「小さな子どものための哲学(Philosophy for Kids)」という名の同様の動きもある。これらの運動がしばしば掲げる目標として、**哲学教育**を通じたより実質的な**民主主義**社会の実現が挙げられる。

Wikipedia [子どものための哲学]より

22

3.3 道徳的行為に関する体験的な学習

ソーシャルスキルトレーニング

アメリカ、カリフォルニア大学ロサンゼルス校医学部精神科のロバート・リバーマンが提案。

日本でも、「入院生活技能訓練」として医療保険の適用対象となっている。

ライフスキル教育

WHOが提案。

道徳の時間にスキルトレーニングをやると、「道徳の時間にスキルトレーニングをやった」ということではない。⇒これが道徳教育なのか、という批判

23

そのために、

読み物資料の導入

道徳的諸価値についての理解の工夫

読み物資料は、

道徳的場面設定として使う。

道徳的価値は、

スキルトレーニングを通して学ぶ。

しかし、たんに道徳授業にロールプレイを取り入れたということとは異なる。同時にスキルを学ばせる。

モラルスキルトレーニング

24

■ 対人関係スキルとは？



25

モラルスキルトレーニングは、道徳授業の中に、行動の仕方のトレーニングを導入したもの。

外国のものを輸入したものは日本の文化になじまないと批判されることもあるが、これは外国からの輸入ではない。

このやり方では型から入るというようなアプローチをとるが、そもそも型から入るというのは、茶道や華道などにみられるように、日本の伝統的な学びの様式だと言える。

ご参考までに
林泰成『モラルスキルトレーニング スタートブック』
明治図書、2013年
林泰成(編)『中学校道徳授業で仲間づくり・クラスづくり モラルスキルトレーニングプログラム』明治図書、
2008年



26

■ 役割演技

・ヤコブ・モレノの考案した心理療法としての心理劇から派生したもの

・道徳授業では、

①シナリオ通りに演じるスタイル

②場面設定だけしておいてあとは自由に演じさせるスタイルがある。

・心理劇の5要素

①監督…サイコドラマの総責任者。

②補助自我…サイコドラマの助監督で、監督や演技者助ける人。

③演技者…主役や脇役となって実際にサイコドラマの中で役割を演じる人。

④観客…展開されるサイコドラマを観る人。

⑤舞台…観客と演技者分ける働きがあり、演技者が自由に演じられる場所。

27

4 これからの授業スタイル

えんたくんとグループ学習

(写真削除)

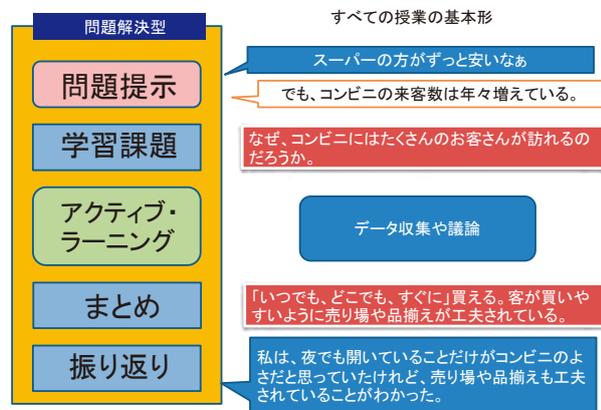
ホワイトボードとグループ学習

(写真削除)

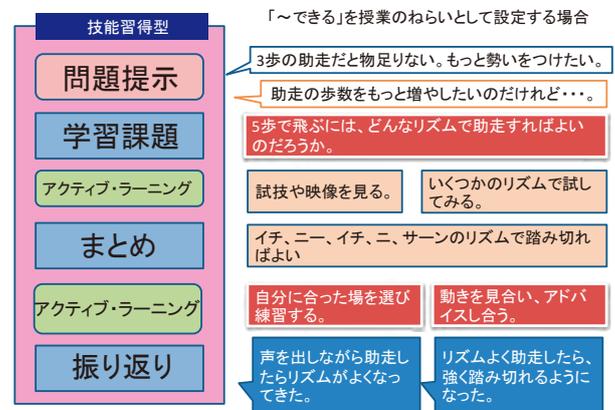
28



リーフレット「新潟市の授業づくり」(新潟市教育委員会)より



リーフレット「新潟市の授業づくり」(新潟市教育委員会)より



5 評価

5.1 専門家会議の報告書から

評価の在り方

- ・ 記述式
- ・ 大きくりなまとまりを踏まえた評価
- ・ 励ます個人内評価

評価の方向性

- ・ 多面的・多角的な見方へと発展しているか。
- ・ 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。
- ・ 特に顕著と認められる具体的な状況を記述する。
- ・ 調査書に記載せず、入学者選抜の合否判定に活用することのないようにする。
- ・ 観点別評価にはしない。

道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議「『特別の教科 道徳』の指導方法と評価等について（報告）」平成28年7月22日よりさらに要約

道徳科の評価の工夫に関する例（本専門家会議における意見より）

- ・ 児童生徒の学習の過程や成果などの記録を計画的に**ファイル等に集積**して学習状況を把握すること。
- ・ 記録したファイル等を活用して、児童生徒や保護者等に対し、**その成長の過程や到達点、今後の課題等を記して伝える**こと。
- ・ 授業時間に発話される記録や記述などを、児童生徒が道徳性を発達させていく過程での**児童生徒自身のエピソード（挿話）**として集積し、評価に活用すること。
- ・ **作文やレポート、スピーチやプレゼンテーション、協働での問題解決**といった実演の過程を通じて学習状況や成長の様子を把握すること。
- ・ 1回1回の授業の中で全ての児童生徒について評価を意識してよい変容を見取ろうとすることは困難であるため、年間35単位の授業という長い期間の中で**それぞれの児童生徒の変容を見取ることを心掛ける**ようにすること。
- ・ 児童生徒が1年間書きためた**感想文**等を見ることを通して、考えの深まりや他人の意見を取り込むことなどにより、**内面が変わってきていることを見取る**こと。
- ・ **教員同士で互いに授業を交換して見合う**など、チームとして取り組むことにより、児童生徒の理解が深まり、変容を確実につかむことができるようになること。
- ・ 評価の質を高めるために、評価の視点や方法、評価のために集める資料などについてあらかじめ学年内、学校内で共通認識をもっておくこと。

道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議「『特別の教科 道徳』の指導方法と評価等について（報告）」平成28年7月22日「別紙2」より

中学校生徒指導要録（参考様式）（イメージ）の一部

特別の教科 道徳	
学年	学習状況及び道徳性に係る成長の様子
1	
2	
3	

ここには**観点**を記す欄がない。しかし、評価の**視点**は必要。

道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議「『特別の教科 道徳』の指導方法と評価等について（報告）」平成28年7月22日「別紙3」より

33

6 道徳教育の未来

6.1 教科化後の課題

・多様な授業方法の導入

問題解決的な学習、道徳教育に関する体験的な学習
何がどこまで許されるのか？

・教科書の教材と代替措置

何時間まで？ 代替される教材は？
教科書の使用義務についてはどう考えるのか？

・道徳的価値

複数価値を教えることも可能
何をどの程度まで？

34

6.2 すでにそこにある未来

・ロボット倫理学

久木田水生、神崎宣次、佐々木拓『ロボットからの倫理学入門』、名古屋大学出版会、2017年。

ウェンデル・ウオラック、コリン・アレン『ロボットに倫理を教える』、名古屋大学出版会、2018年。

・自動運転車による事故は誰の責任か？

・ロボット犬を蹴ることは、非道徳的か？

ビデオ <https://www.cnn.co.jp/tech/35060457.html>より

35

上越教育大学 上廣道德教育アカデミー
 道德教育研究大会長岡大会

道德の教科化

～その工夫と課題～



名古屋市立小坂小学校 北川 沙織

5 様々な指導方法 における工夫 ～役割演技に注目して～

- 役割演技
- 指導方法
- 道德的行為に関する体験的な学習等を取り入れる工夫
- 教科書
 「演じて考えてみましょう」
- 質の高い多様な指導方法

6 役割演技

- 子どもたちの感想
 - 道德的価値の実感的理解
 - 多面的な見方から様々な考えを交流させることができる

POINT

道德科で養うべき基本的資質
 → 「道德的な問題をどれだけ深く考えさせるか」
 を意識して授業を進めていく

6 役割演技

- 教育現場における課題
 - 「活動あって学びなし」
 → 演じるという活動そのものが目的
 → 道德的な問題を深く考えさせていない
 - 活用目的に対する誤解
 - 視ている児童生徒の役割の軽視

6 役割演技

- POINT
 道德科で養うべき基本的資質
 → 「道德的な問題をどれだけ深く考えさせるか」
 を意識して授業を進めていく
 → 役割演技を活用した場合
 体験的行為や活動を通じて学んだ内容からの道德的価値の意義などについて考えを深めるようにすることが大切

6 役割演技

- 展開例
 - ① 教材を読み、発問する。
 - ② 演じる児童生徒を指名する。
 - ③ 場面設定を行う。
 - ④ 演者に役割演技を行わせる。
 - ⑤ 観客に発表させる。
 - ⑥ 演者に発表させる。

令和元年度 上越教育大学上廣道德教育アカデミー
 道德教育研究大会長岡大会 シンポジウム



道德の教科化 ～その工夫と課題～

令和元年8月20日（火）
 新潟県新潟市立小針小学校
 菅原 友和



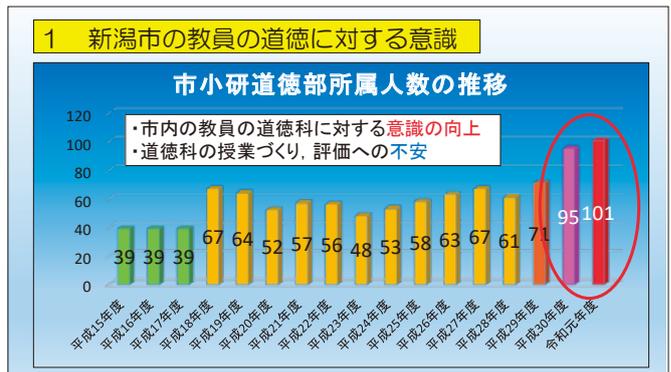
発表の流れ

◎新潟市の道德の教科化に向けた取組の成果と課題

- 1 新潟市の教員の道德科に対する意識
- 2 道德の授業力向上に向けた取組
- 3 指導計画の作成
- 4 評価（通知表・指導要録）
- 5 成果と課題




1 新潟市の教員の道德科に対する意識



1 新潟市の教員の道德に対する意識

◎道德サークル（新潟市・五泉市） 所属人数

平成29年度	17人
平成30年度	22人
令和元年度	28人

県内のサークル所属人数が減少傾向にある中、当サークルの所属人数は、増加している。

所管を五泉市から新潟市に移したことが大きい。

1 新潟市の教員の道德に対する意識

◎新潟市マイスター教員（道德）

平成30年度までに、5名が認定（うち管理職2名）

◎明治図書『道德教育』執筆者数

平成30年8月号～令和元年8月号
 新潟県内で原稿を執筆した教員・・・9名
 うち、新潟市内の教員・・・4名



新潟県，新潟市は優れた道德の実践家が多い！



2 道徳の授業力向上に向けた取組

2 道徳の授業力向上に向けた取組

◎平成29年度～30年度
文部科学省「道徳教育の抜本的
改善・充実に係る支援事業」

新潟市内8行政区ごとに、
研究指定校を設け、道徳教育の
充実、道徳科の本格実施に
向けた授業改善を支援



2 道徳の授業力向上に向けた取組

◎新潟市立A小学校の事例

(新潟市西区：平成29年度)

①校内研修

- ・道徳科における「質の高い多様な指導方法」について
- ・役割演技を用いた道徳授業をどう作るか(模擬授業)



2 道徳の授業力向上に向けた取組

◎新潟市立A小学校の事例

(新潟市西区：平成29年度)

②他の学校で行われる研究会への職員の派遣

- ・新潟市立上所小学校「学びの上所小」教育研究発表会
- ・筑波大学附属小学校 第8回道徳教育研究大会

③外部講師を招いての校内研修

新潟青陵大学福祉心理学部 教授 中野 啓明 様
演題「『考え、議論する』道徳科授業づくりのポイント」

2 道徳の授業力向上に向けた取組

◎新潟市立A小学校の事例

(新潟市西区：平成29年度)

④「道徳教育パワーアップ協議会」(H30. 1. 30) 「『考え、議論する』道徳授業をどうつくるか」



提案授業（4年生）



協議会



早川先生のご指導

2 道徳の授業力向上に向けた取組

◎新潟市立A小学校の平成30年度の様子



2 道徳の授業力向上に向けた取組

◎ 普段の道徳授業づくり
毎週の道徳授業を安定的に行えるようにするために

・教材(場面絵・ワークシート)の共有



・学年内で授業日, 時間をずらす

・学年での情報交換 (教材内容, 指導の進め方, 板書)

・学級だより(週予定)で道徳の授業日を知らせる

2 道徳の授業力向上に向けた取組

◎ 普段の道徳授業づくり
毎週の道徳授業を安定的に行えるようにするために

「ローテーション道徳」
(特定の教材を一人の教員が全学級で授業)

9月1週
A教諭
「よわむし
太郎」

9月2週
B教諭
「友だち屋」

9月3週
C教諭
「まどガラス
と魚」

2 道徳の授業力向上に向けた取組 ◎ 「新潟市の授業づくり」



「新潟市の授業フレームワーク」による授業・・・学力向上につながる

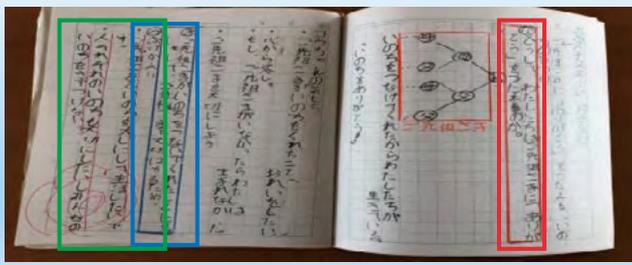
2 道徳の授業力向上に向けた取組

◎ 「新潟市の授業づくり」に基づいた板書例



2 道徳の授業力向上に向けた取組

◎ 「新潟市の授業づくり」に基づいたノートの事例



2 道徳の授業力向上に向けた取組

◎ 「新潟市の授業づくり」に基づいた道徳授業の
成果と課題

・「学習課題」「まとめ」「振り返り」のある
授業フレームワークは、**安定的に道徳授業を
行うのに効果があった。**



・学習課題に対する問題意識
子どもが主体的に考える授業になっていない。
・道徳的価値の理解を深める授業
道徳的価値についての話し合いになっていない。



2 道徳の授業力向上に向けた取組

◎道徳科の授業のさらなる質の向上を目指して



リーフレットに基づき、5月に「小学校道徳教育推進教師研修会」が開催



各学校への周知



3 指導計画の作成

3 指導計画の作成

◎平成29年度 新潟市教育委員会「カリキュラム・マネジメント」支援事業

研究指定を受けた学校が、各種指導計画を作成し、市内の全小学校にそのプランを提示（CDの配付）

○年間指導計画

○道徳教育全体計画の別業

3 指導計画の作成

◎新学習指導要領の完全実施に向けて



・他の教科と同様に、**指導計画の見直し**を各学校で行わなければならない。
※新潟市は、来年度以降も「光村図書」の教科書を選択することが決定。大幅な変更はなさそう？

・指導計画の**自校化**・・・学校や地域の特色にあった教材配列、独自教材の活用

・指導計画の**自分化**・・・指導計画を意識した道徳授業づくり



4 評価(通知表・指導要録)

4 評価(通知表・指導要録)

◎昨年度の学校現場では・・・

○通知表に道徳科の学習に関する所見をどう記載するか(枠・記載内容)



保護者への伝わりやすさ

教員の働き方改革



○道徳科の学習に関する所見をどう記載するかは、学校によってまちまち

- ・回数・・・年1回、学期に1回
- ・枠・・・道徳科専用枠、一般の所見欄に記入

4 評価（通知表・指導要録）

◎新潟市立B小学校の通知表

道徳科の所見は、80字以内
(総合、外国語も同様)

一般所見は、140字以内

4 評価（通知表・指導要録）

◎所見欄に記載する内容に対する教員の不安
所見文を書いてみる校内研修の実施

4 評価（通知表・指導要録）

演習の進め方

2 各学年ごとに、通知表の評価文例をつくる。(33分間)
(進め方)

- ①同一児童(全学年の中から1名決めて)の道徳ノート(ファイル)をもとに、全員で作って見て、見せ合う。
 - ・児童のコメントから、どのように評価文にしていけるか。(市教委の参考資料等を活用して)
 - ・評価文の文字数の目安...100文字程度で作ってみる。
- ②①をもとに、自学級の他の児童の評価文も作ってみる。

4 評価（通知表・指導要録）

新潟市立C小学校 1年生の事例

4 評価（通知表・指導要録）

新潟市立C小学校 3年生の事例

4 評価（通知表・指導要録）

新潟市立C小学校 6年生の事例

4 評価（通知表・指導要録）

◎通知表

保護者に伝わりやすいように、1時間の授業の評価をもとに記述可。

戸惑い



◎指導要録

大きくりなまとまりの評価を行って記述する。

4 評価（通知表・指導要録）

◎新潟市教委による評価文例

◎通知表

保護者に伝わりやすいように、1時間の授業の評価をもとに記述可。

大きくりなまとまりの評価を行って記述する。

大きくりなまとまりの評価を行って記述する。

大きくりなまとまりの評価を行って記述する。

大きくりなまとまりの評価を行って記述する。

大きくりなまとまりの評価を行って記述する。

大きくりなまとまりの評価を行って記述する。

◎指導要録

大きくりなまとまりの評価を行って記述する。

大きくりなまとまりの評価を行って記述する。

大きくりなまとまりの評価を行って記述する。

大きくりなまとまりの評価を行って記述する。

大きくりなまとまりの評価を行って記述する。

大きくりなまとまりの評価を行って記述する。

大きくりなまとまりの評価を行って記述する。

文字数
60字程度

大きくりな
まとまりの
評価を行う上
での着眼点

安易に文例に頼
らず、子ども
の事実をもとに
評価する。

5 成果と課題



5 成果と課題

◎成果

- ・教育委員会主導の取組により、様々な紆余曲折はあったものの、「特別の教科 道徳」は安定的に実施されている。
- ・教員の道徳科に対する意識は向上している。

◎課題

- ・一人一人の教員の授業力向上（特に若手の育成）
- ・指導計画や評価を意識した道徳授業の実施

道徳の授業について私が思うこと

流山市立おおたかの森中学校
教諭 林 智子

1. はじめに…これまでの私の道徳の授業を振り返る

私は、道徳の授業を行うにあたり、どのように授業をやったらよいか、どの教材や資料をどのようにして扱ったらよいか、日々悩んでいる。特に、私が初めて学級担任になって、初めて道徳の授業をやろうとしたときは、本当に悩んだ。そのときは、先輩の先生に聞いても、正直よくわからないこともあり、どのように資料を選んで、どのように授業を創り、展開したら良いのか、わからないことだらけだった。

そんな時、道徳の授業づくりや道徳教育についての研修会を紹介していただく機会があり、少しずつ、道徳の授業づくりに興味を持ち始め、それ以降も、様々な研修会に参加するようになった。そこで出会った先生方の実践を見たり、聞いたり、学んだりしていく中で、私の中で「道徳の授業」に対する意識が変わり、「もっと知りたい!」、「もっと学びたい!」という気持ちになった。まずは、「知ること」が大切であり、知れば、知るほど、道徳は奥深く、本当に面白いと感じ、今日に至る。

2. 私が考える道徳の授業

「考え、議論する道徳」と表現されているように、道徳の授業の内容、質が今、問われている。ただ単に、登場人物の心情の読み取りになってはいけない。そもそも、道徳とは、「あたりまえのこと、わかっていること」をもう一度考えてみることではないかと私は考える。例えば、「いじめはいけない」「思いやりの心は大切」「ルールは守る」など…。「そんなことはわかっている」ということを、様々な資料を通して、「でも、この場合はどうなのだろう」「自分だったらこうするかな」など、心を揺さぶられたり、自己を振り返りながら考えをより吟味し、再構築してみたりすることが道徳の面白さである。また、もう一つ面白いところは、自分では気づけなかったこと、思いもつかなかったことを友達と話したり、自分の考えや意見を伝え合ったりしながら、その思いを共有することで、さらに気づきが深まったり、広がったりするところである。それが道徳の授業の良さであり、魅力であると考えている。だからこそ、授業者は生徒の実態を考えながら、生徒の興味・関心を引き出し、さらに考えが深まるような教材選択、主題設定をしなくてはならない。

また、教材に合わせて、生徒の考えをより引き出すことができるように、ペアやグループでの話し合い活動、役割演技など、様々な指導方法や指導の工夫が考えられる。生徒が教材を通して、得られたものや気づいたこと、感動したこと、さらには、友達の意見や考えを通して改めて気づかされることを大切にできる授業を工夫しなければならない。

3. 昨年度までの道徳授業の実際

道徳の授業は、基本的には学級担任が行っている。

教科化される前の昨年度までは、千葉県では「新しい道」という副読本を活用しながら、学級の実態に合わせ、内容項目を考え、どの時期にどの読み物資料（教材）を使うのかということも考慮しながら授業を進めてきた。また、副読本以外の資料を生徒や学校の実態、特に、学校行事等との関連を考慮しながら活用することもあった。例えば、新聞記事で気になるものがあったり、オリンピックの時期は、その時期に合わせて、タイムリーな話題をもとに作成した、自作の資料を活用したりしながら、授業を進めてきたこともある。まずは、道徳の授業経験を工夫しながら、積極的に積み重ねる。そうすることで、多くの資料に触れることができた。いろいろな資料を扱いながらも、生徒たちと一緒に考えたり、生徒の発言から、「ハッ」としたり、気づかされたりする。それが道徳の授業の面白いところなのかなと思った。

4. 中学校道徳科がはじまって

今年度から中学校では道徳が教科化となった。道徳の授業が「教科化」になるということは、「教科書」ができるということ、授業者が評価をするということである。本校でも、教科書の発行者が作成した年間指導計画をもとに、授業を進めているが、同じ時間に全ての学級が道徳の授業を行うのではなく、授業時間が重ならないような時間割の組み方をしており、学年の中でも、毎回担当職員を決め、ローテーションをしながら、教材選びや略案、ワークシートを作成することにしている。休日などの関係で、曜日によって進度に多少ばらつきはあるものの、大体同じように進めることはできた。時間割での時間帯も違うということもあり、先に授業を行った先生から、生徒の反応や情報を聞き、その情報をもとに工夫しながら、自分の学級の授業に活かすということも可能である。学年内で情報共有しながら、授業を進めることができる点は良いと思った。

現在、私は1年生の学級担任と学年主任を任されているが、道徳の授業に関して、これまでの学年とはまた違う印象を受けている。それは、昨年度から小学校では、中学校より1年先に道徳が教科化されたため、今年度本校に入学してきた1年生は、昨年1年間の道徳授業の積み重ねがしっかりと定着されているのではないかということを実感したからだ。そうかと言って、これまでに中学校で道徳授業の積み重ねが行われてこなかったと言っているわけではない。「教科化」にするならば、やはり「教科化」の良さ、その目標や内容、目指す方向性等を正しく理解し、実践していかなければならないのではないかと私は感じている。

例えば今年度、私の担任するクラスで最初に行った道徳の授業で、生徒たちに聞いてみたところ、「道徳の授業がとても面白い！」と答えた生徒がほとんどであった。これは小学校の先生方が、これまで熱心に授業研究をなされた賜物ではないかと思った。「道徳の授業がつまらない」「嫌い」ではなく、いろいろな発見があるから「楽しい！」「面白い！」「じっくり考えることができる！」「さらに気づきが生まれた！」…そう思ってくれているのであるからなおさら、中学校の道徳授業においても、授業者である私たち教師が、これまで以上に授業づくりを工夫し、生徒達と一緒に考え、深まりが増すような授業展開の充実、工夫をしなければならないと言えよう。

5. 評価と、初めての通知表の記述

これまで道徳の授業をたくさん行ってきても、いざ、通知表の記述式所見の作成となると話は別である。私たち学級担任にとって、「通知表の所見」は本当に大変なことである。ましてや、新たに道徳科の所見が増えるというのは現場の先生方にとっては、本当に負担の大きいものであるのは事実である。

これまでの道徳の研修会でも、通知表の所見を書くことになれば、例えば、授業中の生徒の様子、発言内容、ワークシートの記述、これらの評価の材料としながら、生徒を見取らなくてはならないという話は何度も聞いてきた。実際に授業をしてみると、なかなか思う通りには見取れないこともある。しかし、年度当初に比べると、授業者も評価を意識して授業を進めようとする意識が高くなったようにも思う。

毎時間のワークシートの記述はもちろんだが、今学期、本校の取り組みの一つとして、「今学期の道徳の授業の中で、印象に残った教材を3つ選んで、その理由を書く」という、生徒に対する調査を行った。そうすることで、生徒が今学期一番興味・関心をもち、印象に残った教材についてその時間のワークシートをもとに、生徒の学び（納得解）の内容を理解し、さらに、その生徒のその時間の授業の様子を思い出しながら、所見を書いていくと、所見として書きたい内容が見えてくると感じた。

6. 私が感じる道徳科授業の課題（授業者として）

教科書を扱って授業を進めていくとき、すべてではないが、教科書の発行者が作成した指導書に書かれている学習指導案のねらいや展開例が、その教材の内容項目のねらい、主題と合致しているとは思えないと感じることがあった。指導書にも一つではなく、複数の展開例が書かれているが、果たして、それがそのまま自分の学級にいかしきれるのかと思うと、必ずしもそうとは言えない場合があるのではないかと考える。場合によっては、発行者が意図したねらいに強引に持っていかうとする、価値観の押しつけになってしまうような展開例もある。そのため、授業者がしっかりとねらいをもった上で、教材分析や価値分析を行い、授業を、主題やねらいにあわせて適切に展開していかなければならない。その際、発問の工夫や、掲示物・資料などの教材教具の活用、また、どのような手法によって授業を進めていくのかという指導方法の工夫がとても大切になってくる。

私たち授業者にとって、教科書・指導書は一番の手掛かり、ねらいを達成するための有効な材料であり、指標と言っても過言ではあるまい。しかし、発行者による指導書へのたくさんの赤字での書き込みや、赤線で引かれている罫線を見ると、それを参考にするにはあまりにも情報数が多すぎて、何を手掛かりにすべきか、かえって分かりづらく、混乱を与えるのではないかと思える側面がある。

教師一人一人が、主題やねらいを明確にし、ねらいを達成するための適切な指導方法の工夫や資料提示の工夫を行いながら、教科書を効果的に活用できる能力を身につけることをどのように推進するのか、考えていきたい。

実践的研修 その1 授業前の研修

道徳教材は人生へのルートであり、人生を味わう糧である。上手に料理し、スパイスを利かせよう。

- ◆ 教材の読みの深さが授業を左右する。
- ◆ 問いの新鮮さが、生徒を授業に引き込むコツ。

準備の第一歩は教材をよく読み、問いを工夫すること。「小・中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編」を読み、理解する。特に内容項目の概要と指導の要点。

実践的研修 その2 授業実践

- ◆ 授業は実践を重ねなければうまくならない
教材を使いこなせるようになることが肝要
同じ教材を使って複数のクラスでやってみる

- ◆ 一問一答の授業から対話のある授業に
対話のある授業にするには、生徒の発言内容よりも、発言する生徒の「想い」を重視して聴くこと

⇒楽しい授業をする。何を「楽しい」と思うかは、生徒の発達段階によって異なる。

実践的研修 その3 事後研修

- ◆ 感想を言い合う主観的研修からの脱却
授業記録を基に授業を客観的に分析
(中学校の教員が納得する事後研修を)

授業記録をとり、授業記録から授業を解析

道徳科の目標の構造

道徳科の目標において、道徳性を養うために必要な学習の過程を明示。

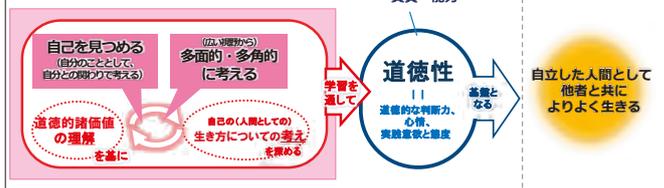
<道徳科の目標>

道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基礎となる道徳性を養うため、

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、

道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

道徳性を養うために行う道徳科における学習



- 中井久夫氏 『いじめのある世界に生きる君たちへ』
孤立化 (→ 無力化 → 透明化) 被害者の内面
見えるのは孤立化のみ 看過してはならない
- 「賢明さ」とは何だろうか？
沈没する映画を観ても、沈没する船には乗りたくない
困難に対して予防的措置をほどこすこと
「頭のいい人は問題を解決するが、賢明な人はそれを
あらかじめ避けるものだ」 アインシュタイン
(『Think clearly』 ロルフ・ドベリ)

AIと共生する社会で求められる能力とは

- 基礎的能力(知的集中力と知的持続力)
AI(無制限の集中力と持続力)に代替
- 学歴的能力(論理的思考力と知識の修得力) 書物を通じて修得(学ぶ)
AI(超高速の論理的思考力、膨大な記憶力と検索力)に代替
- 職業的能力(直感的判断力と智恵の体得力) 体験を通じて体得(掴む)
AIで一部代替できる直感的判断力 **過程が見えない**
AIで代替できない**クリエイティビティ(創造力) 発想・企画 技術+心得**
- 対人的能力(コミュニケーション力とホスピタリティ) 人間関係を円滑にする
AIで代替できない**「相手に深く共感する力」ホスピタリティ(接客力)**
- 組織的能力(マネジメント力とリーダーシップ力) 人間集団を纏め上げる
AIで代替できない**「心のマネジメント」共感協働・働き甲斐
成長支援のマネジメント カウンセリング+コーチング 聴き届け**
(『能力を磨く』田坂広志氏)

<p>小学校の内容項目</p> <p>A 主として自分自身に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> 善悪の判断, 自律, 自由と責任 (低、中、高) 正直、誠実 (低、中、高) 節度、節制 (低、中、高) 個性の伸長 (低、中、高) 希望と勇氣、努力と強い意志 (低、中、高) 真理の探究 (高) <p>C 主として集団や社会との関わりに関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> 規則の尊重 (低、中、高) 公正、公平、社会正義 (低、中、高) 勤労、公共の精神 (低、中、高) 家族愛、家庭生活の充実 (低、中、高) よりよい学校生活、集団生活の充実 (低、中、高) 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 (低、中、高) 国際理解、国際親善 (低、中、高) <p>※ 赤字は今回の学習指導要領改正に伴い新たに指導することとなった学年段階を示している。生徒の実態を踏まえ、個々人としての特性等から捉えられる個人差に配慮することが重要。</p>		<p>B 主として人との関わりに関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> 親切、思いやり (低、中、高) 感謝 (低、中、高) 礼儀 (低、中、高) 友情、信頼 (低、中、高) 相互理解、寛容 (中、高) <p>D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> 生命の尊さ (低、中、高) 自然愛護 (低、中、高) 感動、畏敬の念 (低、中、高) よりよく生きる喜び (高) 	
--	--	---	--

人間としての在り方に根ざした生き方

・「教師は、ともすれば教育内容を教えるべき内容という面からのみとらえがちですが、内容項目は子どもをよりよく理解するためのインデックスでもあるのです。」

人間としての在り方 人間の全体構造を意味したもの

・ プラトン 「愛利」 「愛名」 「愛知」
アウグスティヌス 「身体において」「それ自身において」
「神のもとに」

カント 「動物性」 「人間性」 「人格性」
ペスタロッチ「自然的人間」「社会的人間」「道徳的人間」
『道徳教育、画餅からの脱却』横山利弘先生

第3章 道徳科の内容 2 内容項目の指導の観点 B 主として人との関わりに関すること

6 思いやり、感謝

思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めると。

「思いやりの心」は、自分が他者に能動的に接するときに必要な心の在り方である。他者の立場を尊重しながら、親切にし、いたわり、励ます生き方として現れる。それはまた、黙って温かく見守るといった表に現れない場合もある。したがって、思いやりの心の根底には、人間尊重の精神に基づく人間に対する深い理解と共感がなければならない。このように考えれば、思いやりの心は、単なるあわれみと混同されるべきものではないと分かる。

「感謝」の心は、主として他者から受けた思いやりに対する人間としての心の在り方である。人間は、互いに助け合い、協力し合って生きている。その関係を根柢で支えているのは、互いの感謝の心であり、そこには申し訳ないという気持ちも含まれている場合がある。その意味で、感謝の心は、潤いのある人間関係を築く上で欠かすことのできない大切なものである。人がおのずと感謝の念を抱くのは、他者の思いやりに触れ、それを有り難いと感じ、素直に受け止めたときである。そして、自分が現在いるのは、多くの人々によって支えられてきたからであることを自覚するようになる。人との関わりの中で、温かい人間愛の精神を深めるとともに、これを模索し続けることは極めて大切なことである。

「人間愛の精神」は、互いの存在を、強さも弱さももれ合わせた身の人間として、肯定的に受け止めようとする思いが普遍化されたものである。それは、人間尊重の精神、生命に対する畏敬の念に基づく人間理解を基盤として、他者に対する思いやりと感謝の心を通して具現化される。

第3章 道徳科の内容 2 内容項目の指導の観点 D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

22 よりよく生きる喜び

人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることに喜びを見いだすこと。

誰でも、自分に自信がもてなかったり、劣等感に悩んだり、誰かを妬んだり、恨んだりすることがある。欠点や弱点がない人間はいない。ありのままの人間は、決して完全なものではない。誰の心の中にも弱さや醜さがある。自分を律することができず、つい思いやせてしまうことがある。してはいけないと知りつつ、意地悪なことをしてしまうこともある。自分の利益を損傷すること、他人の不利益を無視して行動してしまうこともある。人間の存在自体、「人間はひとびとの羣にすぎない。自然の中で最も弱いものである。」というバカルの言葉の通り、風にもよく進むようにはかなく弱いものである。しかしながら、同時に、人間はその弱さや醜さを克服したいと願う心をもっている。バカルは、「だが、それは考える筆である。」と続け、思考が人間の偉大さをつくると考えた。人間は、総体として弱さをもっているが、それを乗り越え、次に向かっていくところにはばらばらがある。時として様々な誘惑に負け、やすきに流れることもあるが、誰もがもつ良心によって悩み、苦しみ、良心の責めと闘いながら、阿鼻に耐えきれない自分の存在を深く意識するようになる。こうした苦しみで打ち勝つと、恥とは何か、誇りとは何かを知り、自分に誇りがもつことができるとき、人間として生きる喜びに気付くことができる。そして、人間として生きることに喜びや人間の行為の美しさに気付いたとき、人間は強く、また、気高い存在になり得るのである。「気高く生きようとする心」とは、自己の良心にしたがって人間性に外れずに生きようとする心である。良心とは、自己の行為や性格の善悪を自覚し、善を行うことを命じ、悪を避けることを求める心の働きである。義務の概念と深く関わり、義務を遂行できなかつたとき深い後悔の念を抱き、義務を遂行でき他者との絆を守れたとき本来の自己を取り戻せたとして喜びを感じる。このことは、自己の弱さや醜さに向き合うことがなければ、気付くことができない自己の強さであり、気高さである。人間の強さと気高さは、弱さと醜さと決して離れているわけではなく、言わば、表裏の両面というところになる。ここで言う人間としての生きる喜びとは、自己満足ではなく、人間としての誇りや深い人間愛でもあり、崇高な人生を目指し、同じ人間として共に生きていくことへの深い喜びでもある。

知恵を体得する力を育成する（「徳は身に於いて得るなり」『礼記』）
情動 X（反射）システム「こころは大脳辺縁系でつくられる」
ホットな共感 拙速 アクセル
意志 C（熟考）システム「こころの在り方は大脳皮質（前頭前野）で理解される」 慎重 優柔不断 ブレーキ
知性 頭頂部 左右側頭 クールな共感 三者のネットワークに良心（「哲学 天地の化育を知る 教育 天地の化育を賛ける」『中庸』）
つながり、心を読む、調和する（「徳は孤ならず、必ず隣あり」『論語』）
「愛と信頼」「信用」（相手の能力を信じる）ではなく「信頼」（相手の人間性に賭ける）する 温か、厳しく、支えるの3つのバランス
ニコライ・ハルトマン「人間関係の不思議は、自分が相手の中にあると信じたものが相手の中で育ってくる。」
学習上、注意集中・行動抑制、他者との社会的関係性の困難がある等の特別の支援の必要な生徒に配慮する（「道は人に遠からず。人の道を為して人に遠きは、以て道と為すべからず。』『中庸』）



上越教育大学上廣道德教育アカデミーの意義について

－講師派遣依頼の研修テーマの変遷と、提供した内容を中心に－

早川 裕隆*・小宮 健**・田村 博久**・佐藤 賢治***・
岩城 淑樹**・林 泰成****

(令和2年8月28日受付；令和2年11月4日受理)

要 旨

本稿の目的は、上越教育大学に寄付研究部門として設けられた上廣道德教育アカデミーにおける「研修会への無償による講師派遣事業」の内容を概観しながら、本アカデミーの意義について検討することである。そのために、派遣回数の変遷など、派遣事業の概要を示し、研修での提供内容の概要として、3つの報告、すなわち、「教師を子どもに見立てた模擬授業を核としたメニュー」、「示範授業を核とした研修メニュー」、「参加者から授業者を募り、一緒に授業を行う模擬授業を核としたメニュー」を示し、それらの内容を振り返りながら、考察を行う。

結論としてアカデミーの意義という点で整理すると以下の2点にまとめられる。

- ① 「特別の教科 道徳」の完全実施に合わせて、学校現場からの要望に応え、評価や授業方法等の研修会を実施できたこと。
- ② 授業方法等の研修内容として、さまざまな形の模擬授業や示範授業を提供できたこと。

KEY WORDS

上廣道德教育アカデミー Uehiro Academy for Moral Education 道徳授業 Moral Lesson 研修会 Workshop
模擬授業 Mock Lesson 示範授業 Demo Lesson 上廣倫理財団 the Uehiro Foundation on Ethics and Education

1 問題と目的

平成30年（小学校。中学校は平成31年）4月1日より、それまでの「道徳の時間」が、「特別の教科 道徳」（以下、道徳科）として教科化された。だが、道徳の時間に対して、例えば、小・中学校の教員を対象とした調査（東京学芸大学、2012）^①では、小学校では66%以上、中学校では約4分の3の教員が、「道徳の時間」について「十分には行われていないと思う」と回答し、その理由として、小・中学校ともに、「忙しくて他の指導に時間がとられがちである」（一般の小学校50.1%、一般の中学校49.8%）が第一に、「指導の仕方が難しい」（一般の小学校25.4%、一般の中学校40.0%）が第二に上げられた。前者は教科化されたことにより、検定教科書が無償で配布されたこともあって、減少すると思われるが、後者は教師の指導力の問題として、教科化されることでは解決されず、十分な研修の必要性があると考えられる。

そこで、学校現場の教員が子ども達に対して充実した授業展開ができるよう、研修と研究の推進を支援することを目的に、本学に、公益財団法人上廣倫理財団（以下、財団）からの寄附による寄付研究部門、「上廣道德教育アカデミー」（以下、アカデミー）が、教科化に合わせた平成30年4月1日に設置された。統括監督者と所長をそれぞれ、本学の兼務教員がつとめる他、特任教員2名（うち1名は、平成31年4月1日着任）、研修支援コーディネーター1名（平成31年4月1日より、現コーディネーターに交代）、事務補助員1名で構成し（スタッフや事業内容等に関する詳細は<https://www.juen.ac.jp/400academy/>参照）、アカデミーの運営費、及び、兼務教員以外の人件費は、全て財団からの寄附による。アカデミーでは、その目的から、活動内容として大きく次の3つを柱としている。

① 研修会等への原則無償での講師派遣

・各学校、教育委員会、教育センター、各種研究団体主催の研修会等に、アカデミーの職員を講師として交通費を含めて無償（原則として、新潟県内とその近隣の県。その他の都道府県については、交通費、及び宿泊を伴う場合は宿泊費のみの負担を求めている。）で派遣する。

*学校教育学系、上廣道德教育アカデミー所長 **上廣道德教育アカデミー

上越教育大学特任教授（前上廣道德教育アカデミー） *学校教育学系、上廣道德教育アカデミー統括監督者

【註】公益財団法人上廣倫理財団による寄附研究部門「上越教育大学上廣道德教育アカデミー」の第1期事業は、平成30年4月1日から令和3年3月31日までである。

② 研修の開設・実施

本学や地域の教育センター等と連携し、道徳教育の研修講座を開設・実施する。

③ 研修プログラムの構築と、道徳教育に関わる新しいスタイルの探究

財団と連携し、毎年県内で道徳教育研究大会を開催し、道徳教育や道徳科授業の多様なスタイルを探究しながら、様々な研修プログラムを構築する。

本稿は、このうち①の事業における内容を概観しながら、本アカデミーの意義について考察することを目的とする。

2 派遣事業の概要

開設1年目の2018年度の講師派遣事業には、統括監督者、所長、特任教授の3名を、開講2年目2019年度には、特任教授が1名増えた4名を講師として派遣した。

2. 1 派遣回数の変遷

2年間の派遣回数(表1)と、1受講機関あたりの派遣回数(概要)(表2)を示す。

【表1 派遣回数】

		2018年度	2019年度
全体		83	122
地域別	新潟県内	73 (88%)	89 (73%)
	新潟県外	10 (12%)	33 (27%)
		・千葉県…9	・千葉県…12
		・長野県…1	・長野県…1
			・石川県…14
			・富山県…2
			・栃木県…2
			・東京都…1
	・大分県…1		
校種別	小学校	43 (46%)	55 (45%)
	中学校	32 (34%)	38 (31%)
	教育委員会	5 (5%)	9 (7%)
	高等・特支 小中一貫校	1 (1%)	2 (2%)
	その他	13 (14%)	18 (15%)

【表2 1受講機関あたりの派遣回数】

		2018年度	2019年度	
全体	1回	58 (81%)	57 (69%)	
	2回	8 (11%)	18 (22%)	
	3回	4 (5%)	4 (5%)	
	4回	2 (3%)	3 (3%)	
	5回	0 (0%)	1 (1%)	
地域別	県内	1回	48 (78%)	34 (62%)
		2回	8 (13%)	13 (24%)
		3回	4 (6%)	4 (7%)
		4回	2 (3%)	3 (5%)
		5回	0 (0%)	1 (2%)
	県外	1回	10 (100%)	23 (82%)
		2回	0 (0%)	5 (18%)
		3回	0 (0%)	0 (0%)
		4回	0 (0%)	0 (0%)
		5回	0 (0%)	0 (0%)
小学校	県内	1回	21 (75%)	9 (45%)
		2回	3 (11%)	8 (40%)
		3回	3 (11%)	0 (0%)
		4回	1 (3%)	2 (10%)
		5回	0 (0%)	1 (5%)
中学校	県内	1回	14 (66%)	9 (50%)
		2回	5 (24%)	4 (22%)
		3回	1 (5%)	4 (22%)
		4回	1 (5%)	1 (6%)
		5回	0 (0%)	0 (0%)

1年目から2年目の派遣回数の増加については、派遣スタッフ1名の増加がその主たる要因である。

一方、「1受講機関あたりの派遣回数」については、複数回の計画での依頼の伸びが見られる。この要因については、次節で依頼内容の変遷と関連して考察する。

2. 2 依頼内容と1受講機関あたりの派遣依頼回数の変遷

依頼された研修内容を、「講話」（道徳科の目標や今までの道徳の時間との違い、道徳科のあり方等に関する一般的な内容）、「道徳科の評価」、「模擬授業」（研修に参加した教員を児童・生徒に見立てて実施）、「授業公開」（派遣依頼先の学校等で公開された道徳科の授業に関する助言・指導）、「示範授業」（派遣依頼先の児童・生徒を対象に道徳科の授業を実施）、「その他」の6つに分類した（1機関で複数の依頼内容があった場合には、分類したそれぞれを1つずつカウントした）。本稿ではこのうち、依頼数の割合の変化が大きかった「道徳科の評価」「示範授業」について述べる。なお、特に初年度には、「道徳科の評価」のみを依頼してくるところもあったが、その際には、道徳科の模擬授業か、道徳科授業づくりに関する講話、ないしはその両方を内容として加えることを承諾してもらえた場合のみ、派遣申請を受理するようにしてきた。

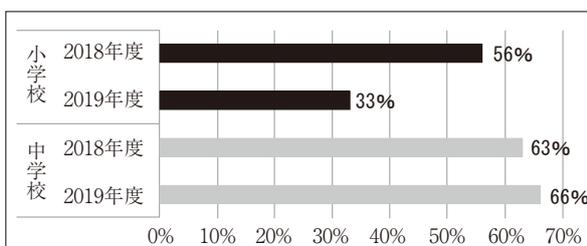
図1は、依頼内容における「評価」の割合をグラフであらわしたものである。 χ^2 検定の結果、小学校では2018年度に比べて2019年度は、「道徳の評価」についての依頼の割合の減少が有意であった（ $\chi^2_{(1)}=9.799$, $p<.01$ ）。中学校では有意差が認められなかった。

図2は、小、中学校からの依頼内容における「示範授業」の割合をグラフであらわしたものである。 χ^2 検定の結果、小学校（ $\chi^2_{(1)}=15.177$, $p<.01$ ）も中学校（ $\chi^2_{(1)}=23.054$, $p<.01$ ）も、2018年度に比べて2019年度は「示範授業」の実施の依頼の割合に、有意な上昇が認められた。

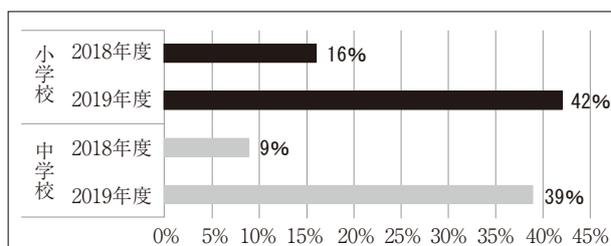
図3と図4は、県内小中学校別に、1機関あたりの派遣要請回数（単数と複数）の割合を年度毎にグラフに表したものである。 χ^2 検定の結果、小学校（ $\chi^2_{(1)}=17.521$, $p<.01$ ）も中学校（ $\chi^2_{(1)}=5.27$, $p<.05$ ）も、2018年度に比べて2019年度は1機関あたり複数回の派遣申請をする割合に有意な上昇が認められた。

以上のことから、「特別の教科 道徳（道徳科）」が始まった当初は、初めての「評価」について不安が大きかったが、評価に関する理解や経験が深まるにつれ、「評価に値する授業」、すなわち、「よい道徳科の授業をしたい」という道徳科の授業の質的な変容を強く求める真摯な想いが高まって、依頼内容が「評価」から「示範授業」へと変わっていったととらえることができるのではないだろうか。

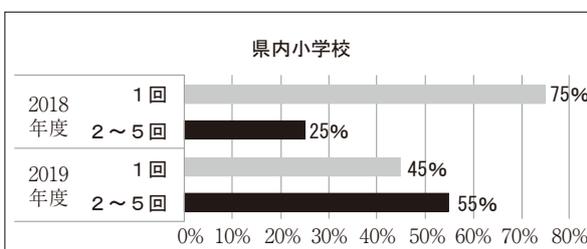
例えば、複数回の派遣申請の内容を見ると、1回目は参観授業を踏まえての指導や道徳科の授業の作り方についての講話、2回目は、示範授業を参観し、学びを深めるというような、構造的、計画的なものが少なくない。これは、まさしく道徳教育に真摯に取り組もうとする教員の熱い想いと、本アカデミーがそれに答えるプログラムを提供できている証と考える次第である。次章から、提供した内容について述べる。



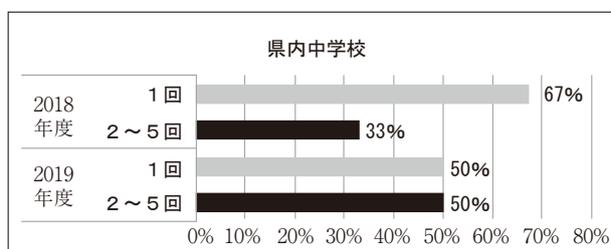
【図1 依頼内容における「評価」の割合】



【図2 依頼内容における「示範授業」の割合】



【図3 県内小学校1校あたりの派遣要請回数】



【図4 県内中学校1校あたりの派遣要請回数】

3 提供内容の実際

3. 1 教師を子どもに見立てた模擬授業を核としたメニュー

道徳科の校内研修についての打ち合わせで、「先生方に子ども役になっていただく模擬授業を入れるのはいかがですか?」と投げかけると、「是非、お願いします」と二つ返事で希望されるケースが圧倒的に多い。そこで、道徳の教科化のポイント等の講話を短くし、研修時間の多くを模擬授業に費やす「教師を子どもに見立てた模擬授業を核としたメニュー」について、具体的な事例を基にこの研修メニューの有効性や課題を考察したい。次に紹介する「研修の実際」は、令和元年度に新潟県内の小学校で行われた「道徳教育研修会」での実践事例である。

3. 1. 1 研修の実際の様子

○模擬授業の実際<抜粋> (T:教職員 R:授業者=アカデミー講師)

<p><教材名:手品師> <授業のねらい:スターになる夢の実現をあきらめ、可哀想な少年との約束を果たす方を選んだ手品師の行動や生き方について考え、自分の気持ちに正直になって人を思いやることや誠実に生きることの大切さ、難しさについて理解を深める。> <模擬授業の意図:手品師の行動について自由に自分の考えを述べられる授業。授業者は発言への共感者に徹し、まとめをしない。></p>	
<p>教材文「手品師」を通読する。(腕は良いが売れない手品師が町で寂しそうな少年と出会う。父が亡くなり母は遠くの町に働きに行き帰って来ないことを聞き、手品を見せて元気づけ少年に明日も来てくれるかと聞かれ約束する。その夜、友人から大劇場出演チャンスの電話が入る。日にちは明日でなければダメ。手品師は迷うが友人の誘いを断り、翌日少年の前で次々に見事な手品を披露する。)</p>	
<p>[発問] みなさん、手品師の行動をどう思いますか? 近くの人と話し合ったり考えたりしてみてください。</p>	
<p>T 1:大劇場の夢を捨ててまで男の子のためにもつたいない。(出演を)一日延ばしてもらおうとか、ほかにも策があったのでは…。</p>	<p>R 1:あなたはこっち(少年との約束)を選ばない方がいいと思ったの?よく考えればそうだね。</p>
<p>T 2:(劇場出演の)チャンスはまだあるけど少年を勇気づけられるチャンスはもうないかも。共感できました。</p>	<p>R 2:そうか、手品師に共感したんだね。</p>
<p>T 3:少年との約束が先だったのだからそちらを守るのが当たり前。</p>	<p>R 3:順番を守るのは私達の生活では当たり前。あなたは普段からそれを大事にしているんだね。</p>
<p>T 4:夢を持った方が先だから、少年へはチャンスはまだあると思う。</p>	<p>R 4:自分の夢の実現が先。それが大事だろうということだね。</p>
<p>T 5:少年には手紙を送って伝えればいい。手品師の奥さんなら怒る。</p>	<p>R 5:家族がいるだろうね。そして貧しいということですね。</p>
<p>T 6:手品師はそもそも人を喜ばせたいのだから、目の前の人を喜ばせたいという思いに心を揺さぶられたのだと思う。</p>	<p>R 6:少年にマジックを見せるのも夢の一つなんだね。少年は寂しくて、町で出会った手品師にさぞ元気づけられたろうね。</p>
<p>[発問] 行動からもう一歩進んで、この手品師の生き方についてどう思いますか?</p>	
<p>T 7:手品師は(挿絵の顔を見て)いい顔しているので後悔していないと思う。自分の選んだ道だから。</p>	<p>R 7:いい発言だね。みんなそう思います?</p>
<p>T 8:この人は本当に自分に正直に何が大切か考えていると思う。私は大劇場を選ぶから手品師と一致しない。</p>	<p>R 8:いいじゃないですか手品師と一致しなかったって。手品師のすごさが分かったのだから。</p>
<p>T 9:少年との約束を守らないと後ろめたさがある。でも自分のことなら何とかかなと思えるから潔い。</p>	<p>R 9:この手品師は、自分のことより約束を守らないことに後ろめたさを感じる人なんだ。</p>
<p>[発問] お話の続きを考えてみましょう。手品のあと二人はどんな会話をするとする? 大劇場のことを少年が知って「おじさん、ありがとう。大劇場を断ってまで来てくれたんでしょう。」と言われたら何と答えると思いますか?</p>	
<p>T 10:何てことないさ。君が一番のぼくのファンだから。</p>	<p>R 10:すごいこと言うね。</p>
<p>T 11:君のような笑顔を見るために手品師になったんだから、気にすることないよ。</p>	<p>R 11:気にしないでいいんだと気遣っている。</p>
<p>T 12:君がこんなに喜んでくれてうれしいよ。ありがとう。この少年は手品師と心がつながったから…。</p>	<p>R 12:皆、「君のために大劇場出演を断ったんだ」なんて言わず男の子との出会いを喜んでいます。</p>
<p>[発問] では自分の考えをまとめましょう。</p>	

3. 1. 2 アンケートの自由記述から

研修後に実施したアンケートでは、次の2つの記述を依頼した。

(1) 本日の研修内容でよかったものは何か

道徳＝難しいというイメージだった。講話の中の「呪縛」というのがまさにそれだが、難しく考えずに子ども達と楽しめばよいということが分かったことが良かった。授業への取り組み方が少し変わるかなと思う。「自分ごと」にしなくても、子どもの価値観が引き出せるということも安心材料になった。

模擬授業によって一つ一つの考えを温かく受け入れ、価値づけていく姿を見せていただけたことが大変ありがたかったです。多様な考えに触れること、自分の考えを誠実に探すことなどの良さを体験できたので、自分の授業にぜひ取り入れたいと思いました。

多様な考えが出たことで、より深く自己を見つめ、どう生きたらよいかを考えることができた模擬授業でした。子どもの発言に共感したり、確認したり、丁寧に板書したりすることで、子ども達が安心して本音を言えるようにしていくことが大切だということを改めて感じさせていただきました。

模擬授業では、子どもの思いを引き出す問いかけや、流れなどが分かりやすくとても印象的でした。特に課題、発問を新たにつくっていき、一緒につくっているように感じました。

(2) 本日の研修内容を今後の道徳教育また道徳授業の充実にとどのように役立てたいか

子どもが本音で語り、価値について深く考えられる発問を大切にしていきたい。これが難しいとも感じた。

考える場面はどこにすればよいか。発問の言葉はどうあればよいか。

発言を価値づけたり認めたりできるように心がけたいと思いました。(自分も)意見を言いたくなったからです。

価値を教えるためにどうするかを考えてきたが、子ども達の自由な考えから広げる、考える授業をしてみたい。

全員に価値に気づかせることを意識せず、多様な視点の考え方があってよいと感じ、自由に発言できる道徳を目指したい。

3. 1. 3 効果と課題

(1) 効果について

「研修の実際」で紹介した学校の教職員は、「高学年の子になったつもりで自由に参加してください」という講師の誘いを聞くまでもなく、かなり自由に自分の思う所を発言している。普段なかなか味わえない学習者としての子どもの立場を楽しむ姿が、この学校に限らずとても多かった。黙って聞く講義型の研修と違い、気楽で自由さがある体験型の研修の魅力を満喫している姿も見られた。その中で、自分の実践してきた「～しなければならぬ」「～してはいけぬ」といった道徳特有の「呪縛」から解放され、授業についてのイメージを新たに安心して、今後の授業改善に意欲を高めた様子が記述から読み取れた。まとめると次のような姿が明らかになった。

○子どもの立場から、自分の考えを肯定的に受け止めてもらえる安心感、多様な考えに触れながら自分の考えを探したり自己を深く見つめたりする満足感等を味わい、これらの良さを実感することで、道徳科授業のあり方を再考する機会となった。

○教師の役割として、子どもの思いを引き出すような問いかけを工夫する姿、子どもの発言を価値づける姿、子どもと一緒に発問をつくる姿等の重要性を、子ども目線で改めて見直すことができた。

○ねらいをどう設定し、どう発問して考えさせるかを吟味する必要性、子どもの発言の受け止め方、子どもが自由に発言できる場の設定等、今後の授業づくりにおける課題を個々につかんでいた。

そして、同様の模擬授業を行った別の学校でも、「今日の内容を受けて早く授業がしたくなった。」「手をあげずに自分の気持ちを心に持っている子たちのことがよく分かった。もっと子どもの心を聞いてみたいと思った。」というように、新たな道徳科授業を実践したいという意欲的な言葉を数多く目にすることができた。

(2) 課題について

「同じ大人(教員)でも解釈がこんなに違うのだと分かり楽しかった」「校内の先生方の発想がすばらしかった」「校内でお互いに(授業を)見合い、何でもざっくばらんに言い合える協議会が開けたら楽しいだろうなあと思います」といった記述が多く見られた。本アカデミーによる研修が、教職員がお互いに自由に意見を交わせることの楽しさ、校内研修の可能性に気づく契機となっていた。アンケートは本アカデミーの研修内容の評価のためにさせていただいているものではあるが、各学校がアンケートの記述内容を共有する等、「研修のその後」に生かせるようにアプローチしていきたい。

3. 2 示範授業を核とした研修メニュー

3. 2. 1 研修の実際の様子

○示範授業に向けて 示範授業は、要請校の教職員が一堂に会し、外部の「飛び込み」授業者の道徳授業を参観できる機会である。そのため授業は、子どもや参観者に、分かりやすく、かつ、意欲的に、楽しく参加でき、さらには、今まで見たり、経験したりしたことのない機会であることが望まれる。そして、授業者と初対面の子どもの多くが、自ら「語り出す」、「つながり合う」場を目にした時、自校の子ども達への思いは一変する。示範授業は「成功しても、失敗しても、何等かの手本となる」を前提に進めているが、「この子たちは素晴らしい、自分たちにもやれる」と要請校の教職員に思ってもらえる場になるよう心がけている。その際、子ども達を信じ、初めての授業者を受け容れてもらえる前提が重要である。

○示範授業の実際

- ・事前の準備 要請を受け、示範授業の学年、教材は要請校の希望を優先する。1週間前に、道徳科指導略案、講話資料等をデータで担当者に送付し、印刷・配布を依頼する。教材によっては、事前に子ども達に読んでもらい、ワークシートに記述してもらい、挨拶を含め、授業前に5分程度、子ども達との出会いの時間を設定する。
- ・教材の捉え 第一義に何を考えさせたいのか、その内容を明確にするため、子ども達の道徳性の発達段階に合わせた内容項目の解釈を行い、子どもの主体的な問題解決へ、構造化された授業像を描く。また、子ども達の思考の流れが見える構造的な板書を計画する。
- ・授業の捉え 学習の約束として、筆者は「相互指名」で友達につなぐ全員参加の授業を前提にしている。また、授業は、一つの問題を追究する「問題解決的学習のスタイル」で行う。授業者は、子どもの発言を受容し、何でも言える、自由で安心できる雰囲気づくりと、子どもの発言が次々とつながることで学級全体が聞き合い、個々の考え方が広がっていく場づくりに徹する。
- ・評価の捉え 主に「分かったこと、考えたこと」を記述でまとめるワークシートを活用する。

○示範授業を通じた講話 子どもの「主体的、対話的、深い学び」を学びのプロセスとして提示し、本時の子ども達が、自ずと「主体性」の基に、「対話的」なつながりを広めていたことを示す。また、子どもの主体的な学びから、「問題解決的な道徳授業」の意義を示す。

○実施後の支援 継続を力とするために、各校で取り組める事項から「まずやってみる」ことを推奨している。

3. 2. 2 アンケートの自由記述から分かること

○実施対象 示範授業と講話による道徳研修を実施した、N（新潟）県内の各中学校 9校 対象教員 122名

○実施時期 2019年5月から2019年11月

○自由記述アンケート Q1「本日の研修内容でよかったものは何か」

Q2「本日の研修内容を今後の研究・研修等の充実にどのように役立てたいか」

○KH Coderを用いた計量テキスト分析（概要）⁽²⁾自由記述アンケートQ1、Q2の抽出語出現回数（上位20語抜粋）

	抽出語	出現回数		抽出語	出現回数		抽出語	出現回数		抽出語	出現回数	
Q1	1	授業	148	自由記述文 298 総抽出語数 7,239 異なり語数 901 分析使用語 2,780 異なり語数 699	Q2	1	授業	101	自由記述文 225 総抽出語数 5,744 異なり語数 834 分析使用語 2,203 異なり語数 641	11	学ぶ	18
	2	生徒	91			2	思う	84		12	評価	17
	3	思う	48			3	考える	61		13	教材	16
	4	子ども	47			4	道徳	60		14	時間	16
	5	考える	43			5	生徒	40		15	研修	15
	6	道徳	42			6	子ども	39		16	考え	15
	7	感じる	32			7	自分	24		17	受容	15
	8	考え	31			8	実践	24		18	内容	14
	9	参考	29			9	大切	21		19	発言	13
	10	見る	28			10	感じる	20		20	今後	12

ここでは、上記抽出語を中心に共起ネットワークで分析し、さらに、KH CoderのKWICコンコーダンスのコマンドを用い、抽出語の上位が前後でつながっている教職員の記述部分を、原文をもとに抜粋した（原文の下線は上位の抽出語）。そして、3項目の特徴的な記述のまとめりと捉えた。それぞれQ1「示範授業から得た実感」、「子どもが考える姿の再確認」、Q2「子どもが主体的に考える授業を目指す」である。

○アンケートの自由記述例

Q1「本日の研修内容でよかったものは何か」（原文の下線は上位の抽出語）

「示範授業から得た実感」

- ・道徳授業を通して生徒と向き合う姿勢について、たくさんのポイントを示して頂きました。生徒が自分の言葉で話せるために授業者が共に考える、プラス思考で考える、私達のかまへのあり方を再確認しました。対話のある授業は、授業者の求めるものの明確さにあることと、授業を磨くことを日々行わなければと振り返りました。
- ・短い時間の中ですが、示範授業で多くの技を学ぶことができました。特に、相互指名は生徒達自身で授業を創り上げる雰囲気生まれ、日頃の授業で実践してみたいと感じました。

- ・生徒全員が考えるという授業になっていたこと、それを全体に発表する場が多々あったことで、今後自分が授業をする刺激となりました。

「子どもが考える姿の再確認」

- ・子ども達が一生懸命考え、自分の言葉で発表していた姿が、大変印象的でした。子どもの考えを引き出し、つなぎ、整理されていた先生のかかわり方が参考になりました。
- ・子ども達の考えを引き出す示範授業でした。子ども一人ひとりが考えている様子がとても伝わってきました。小グループで話すことなく、相互指名で話すことでクラスの子ども達から意見がどんどん出て、目からウロコでした。
- ・事前を書くワークシートなしで、あそこまで子ども達が考え、主体的に発表できる姿に驚きました。意見を待つ姿勢、出た意見を更に深めさせる発問、挙手を生み出す雰囲気作りなど、目指したい授業の形だなと思いました。
- ・示範授業で、子ども達の考える時間や発言する時間をたっぷり確保していた点が大変勉強になりました。授業後に子ども達から自然と拍手が起こったことで、子ども達が充実した授業だったと実感していたことが伺えました。
- ・子ども達が考え続けていたことがよかった。子どもの発言が問いになり、子どもの考えがつながり、深まっていた。
- ・子どもの思考をつなぐ相互指名で、子ども達の考える姿をまきに見ることができました。深く考えられるような指導を向上させる必要性を実感しました。

Q2「本日の研修内容を今後の研究・研修等の充実にどのように役立てたいか」（原文の下線は上位の抽出語）

「子どもが主体的に考える授業を目指す」

- ・授業の冒頭でテーマを提示し、それについて考え続けることを促す授業を実施してみたいと思いました。話し合いの時間を30分に近づけることを当面の目標にしてみたいと思います。
- ・教材文の理解と課題の提示は、教師の責任。その後の子ども主体の授業の在り方を考えていきたいと思いました。
- ・生徒が主体的に学べるために、学びのプロセスを意識して授業構成を考えていきたいです。
- ・今回の示範授業で、子ども達にとにかくたくさん話してもらおうという視点を知ることができました。今後、子ども達がたくさん考えて、たくさん話せる授業づくりをしていきたいと思います。

3. 2. 3 効果と課題

○効果

- ・示範授業を通じて、授業者の在り方、道徳の時間の在り方を再考する時間となり、新たに実践に踏み出そうと現場に、前向きな意欲付けができた。また、内容項目の理解、考え方を通して、子どもの道徳性の育成を深く考える道筋を示すことができた。
- ・主体的に考えて発言する子どもが、対話的に聞いている周囲の子どもにつないでいく授業を通じて、参観する教職員に学級の学びの広がりや雰囲気の大切さを体験してもらった。要請校の教員に、道徳授業に子どもの主体性が欠かせないと、その大切さを感じてもらうことができた。

○課題

- ・自分の考えや思いを何でも自由に話せ、周囲の友達の発言をよく聞ける「楽しい、面白い道徳授業」の普及には、理念・指導方法の取得だけでなく、授業者の在り方、生き方も関わってくる。示範授業・講話の研修が、後も活かしていけるよう、要請校側には、つなぎ役となる授業者の位置付けや子ども達との関係性の大切さを伝える、継続したフォローが必要である。
- ・昨今の社会情勢を踏まえ、示範授業をリモートで行う可能性とそのための課題を明らかにし、新たな状況下での道徳授業の在り方を模索する必要がある。

3. 3 参加者から授業者を募り、一緒に授業を行う模擬授業を核としたメニュー

3. 3. 1 展開する研修メニューの内容について

「道徳的行為に関する体験的な学習」が、道徳科における「質の高い多様な指導方法」⁽³⁾の一つとして例示されて以降、例えば、学習指導要領で「指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れる」⁽⁴⁾工夫が求められ、さらに、「読み物教材等を活用した場合には、その教材に登場する人物等を即興的に演技して考える役割演技など疑似体験的な表現活動を取り入れた学習も考えられる」⁽⁵⁾と解説されたこともあり、役割演技にはわかに注目を浴びている。だが、役割演技は、これまで、教科学習等において日常的に活用されてきた指導方法ではない。そのため、「体験的行為や活動を通して学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考え

を深める」⁶⁾ために用いるはずの役割演技が、「単なる技芸と理解されたり、行為の訓練や習得のために用いることに終始する実践が少なくない」(早川裕隆, 2019)⁷⁾。さらに、役割演技において、授業者は「監督」の役割を務める。「監督役の教師は、十分な演者体験を積み、監督の役割についても、熟練した監督指導を受けることが必要です」(時田光人, 1992)⁸⁾と言われるが、必ずしも各学校で、適切な監督養成が行えるものではない。

一方、菅原友ら(2016)⁹⁾は、監督である授業者が監督役割のうち、①「演出者役割」(適切な演者を指名する)を適切に取れるようになると、②適切な「授業者役割」によって、演じられた後の話し合いの進行によって、子ども達の発言をつなげながら、演じられた意味の理解を深める「分析者役割」が担えるようになることを明らかにした。

そこで、役割演技による道徳科授業の作り方、進め方等を依頼内容とする派遣申請校等において、①会場から授業者(監督)役割の希望者を募り、②早川が作成した指導案を基に、③早川と一緒に授業を進めながら、適宜、早川が解説を加えるスタイルの模擬授業を展開した。その際、特に、どのように演者を決めるのか(「演出者役割」と、演じた後に何についてどのように話し合うのか(「授業者役割」)の具体を明確に示し、体験を通して実感的に理解するようにした。

3. 3. 2 展開の実際(「一冊のノート」¹⁰⁾を教材とした模擬授業を中心に)

(1) 演者の見立て

授業では、祖母の書いたノートを読んだときの主人公の僕の気持ちを問うようにした。この際、授業者には、全体の顔をゆっくり見渡した後、4名の生徒役の教師を指名するよう指示した。例えば、次のような回答があったとする。

- ① おばあちゃんの気持ちに気付かなかった。おばあちゃんは、辛かったろうな。考えもしなかった。
- ② 何てひどいことを言ったのだろう。こんなにおばあちゃんは僕らのことを考えてくれていたのに…。おばあちゃんをあんなにおこったことが情けないし、申し訳ない。
- ③ おばあちゃんは、こんな気持ちで、僕たちを見ていてくれたんだな。
- ④ なんてひどいことをしてしまったのだろう。…言葉にならない。

この後、生徒の発言が大きく2種類に分けられることを話し、その2種類が何なのかを問うようにした。1つは、おばあちゃんに自我関与した発言であり、いま1つは、ほくに自我関与した発言であることに気付くと、発問が主人公(ほく)を問う内容であっても、中心発問まで来れば、子ども達は、登場人物の誰かに自分を重ねながら考え始めていることを理解した。さらに、先の発言が両者のどちらからのものなのかを吟味するようにした。例えば、①③の発言が、おばあちゃんの視点からの発言ではないかと、仮説が立てられる。役割演技では、多面的・多角的に考えるために、この立場の違う登場人物を出会わせれば良いことが理解された。

(2) 演者の創り方

主役の相手役割を補助自我と呼ぶことがある。適切な補助自我は、『「他者」の役割のなかで主役を解釈したり支持したりして、主役が内面的にも対人的にもよりよい適応と調和が得られるように援助する』¹¹⁾役割を担うため、演じ終わった後の話し合い(シェアリング)での観客の解釈や分析も手伝って、主役に、主役の内面的「理解と洞察に向けて援助し、ときには、主役の気づいていない感情にまで触れながら主役の自己表出を助ける」¹²⁾ことも可能とする。そのため、役割演技では、主役が演じたい役割を実現できるようにする適切な相手役割が大切である。本教材では「おばあちゃん」が主役(ほく)の相手役割であるが、誰もが適切な相手役としての補助自我を演じられるわけではない。また、セラピーとして用いられる心理劇のように、訓練された者が補助自我を演じるわけではない。その時間におばあちゃんに自我関与している子どもをみつけ、補助自我として登場できるように支援する(創る)ことが肝要である。

例えば、(1)でおばあちゃんに自我関与していると仮説を立てた子どもに対して、「なぜ『せめてあと5年』なのでしょう。」と補助発問をした。すると、なんとか二人の孫が、おばあちゃんの援助無しに「自立」できるぎりぎりの年数が5年であり、10年どころか、5年もしっかりしていられる自信が無いおばあちゃんが、自分自身にむち打って奮い立たせていることに気付く発言がみられた。その、孫に対する精一杯の思いの意味に十分気付いた者が、孫に対する深い愛情を示す補助自我としてのおばあちゃんを演じられることを理解することができた。

(3) 役割演技の実施の仕方

授業者に、前述の(2)を基に演者を指名させた後、演者紹介と演じる場面の設定の仕方の具体をモデルとして示した。以下、この後演じられたおばあちゃんとほく(まこと)の実際である。

まことは、草取りをしているおばあちゃんから離れてしばらく見守っていたが、意を決したようにおばあちゃんの隣に行っちゃがみ込み、同じ方向を向いて黙々と草取りを始めた。おばあちゃんは少し驚いたものの、そのまま二人で草取りを続ける。やがてまことは涙ぐみ、我慢できないように大きな声で「おばあちゃん」と声をかけた。おば

あちゃんは、その声の大きさに驚いたが、「どうしたんだい」と優しく声をかけると、まことは、「おばあちゃん、ご免ね、ひどいことばかり言って。…おばあちゃん、いつもありがとう。大好きだよ。」と語ることができた。おばあちゃんは、「おばあちゃんこそ、いつも迷惑ばかりでご免ね。」と謝ると、まことは「これからは、僕がおばあちゃんを守るから、だから、おばあちゃん、いつまでも元気でいてよね。」と話した。おばあちゃんは、「あんたも大きくなったんだね。一緒にやってくれるのかい。」と言って、穏やかに微笑みながら、二人で草取りを再開した。

演じた後の話し合いで、観客からの解釈を受け、まことは「(観客が指摘したように)おばあちゃんが今まで自分にしてくれたことを思い出しながら、見ていた。こんな風に一生懸命してくれていたんだなと思うと、おばあちゃんの隣に行きたい気持ちでいっぱいになった。隣に並んで草取りをしていて(感極まって)大声になってしまったけれど、『ご免なさい』もあるけれど、それ以上に、『ありがとう』と、『今度は自分がおばあちゃんを守るから、一日でも長生きしてね』という気持ちでいっぱいだった。」と語った。一方、監督がおばあちゃんに、「いいお孫さんだね。」と声を掛けると、おばあちゃんはニコニコしながら、「本当に、こんなに大きくなって、嬉しいよお。自慢の孫です。私の宝です。」と話し、さらに、まことがそばに来たとき怖く無かったこと、まことが手伝ってくれたことを、すまないと思っていること、それでも、二人のこの空間が安心で、幸せだったことを語った。

この後、全体で終末の在り方について考え、本時の主題名とねらいを確認して、模擬授業を終了した。

(4) 受講者の学びの内容(アンケート調査の自由記述から一部紹介)

- ・今まで役割演技を取り入れていたが、薄っぺらで、道徳的価値の理解の深まりに繋がっていなかった。演習を通して、「誰を演者にしたら良いのか」「演じた後、誰に何を聴けば良いのか」がわかり、早く授業をしたくなった。
- ・今まで講習会で役割演技を学んだことがあったが、よくわからないままであった。監督の経験をさせてもらい、具体的に手取り足取り教えてもらって「ああ、そうか」と何度も感じた。中2のクラスでどのくらいできるか楽しみ。
- ・難しいなと感じているが、「実践あるのみ」「やってみよう!」という気になった。「できるかな?」とも思うが、今日の、授業が終わって心が軽くなったあの感覚を生徒にも感じてもらいたい。
- ・模擬授業がわかりやすく、大切に進めていく点が具体的に分かった。
- ・改めて、役割演技の構造の詳細が分かった。役割演技のポイントや思考が深まっていく様子、深め方の具体が1冊の本を読むより、わかりやすかった。
- ・(提示された2つのポイント意外に)「どの場面を演じるか」、「演者をどう育てるか」ということも大切だと分かった。
- ・解説に書かれている文章(指導の要点)と実践の授業とを照らし合わせて、「なるほど。この発問によって、ねらいに近づけるのか。」と納得できる演習で分かりやすかった。「自分で直接に感じとることができる」という体験ができて、「実感による理解」の内容を納得した。
- ・(観客として)演習中に泣きだしてしまいました。15年近く前に亡くなった祖母との思い出が重なったのかも知れませんが、こんなことは普段ないので、私が一番驚きました。

(5) 結び

参加者から授業者を募り、筆者と一緒に授業を行う模擬授業の実際を中心に述べてきた。筆者一人が監督として模擬授業を展開するのと違い、監督として筆者と一緒に模擬授業を行った受講者の理解が、具体的かつ実感的に深まることに留まらず、自分たちと同じ立場の者が監督となることで、他の受講者がより切実な感覚を持つこと。また、監督としての働きかけの意味について適宜解説が加わるので、その都度立ち止まり、その意味を確認することができる。さらに、子ども役からのリアクションの分析や解釈の内容の吟味とその生かし方、子ども役の発言に対する具体的な補助発問や切り返しの発問の体験とその意味の理解、演者の育て方等の理解が実感的に生起するところが、研修を受ける側にも提供する側にもこの方法のよさであり、「今、ここで」何が起きたのか、そのことにどんな意味があるのかを、みんなで丁寧に吟味する役割演技の学習構造と、同じ構造の研修メニューになっていると考える。

4 考察

2018(平成30)年度の道徳教科化に合わせて本アカデミーの活動が始まった。以上では特に、研修会への無償による講師派遣事業の内容を概観してきたが、ここでは、その概要を確認しながらその意義について検討しよう。

4. 1 派遣事業の概要

本学が新潟県に位置することもあって、派遣先は県内が多い。とはいえ、講師の知名度などもあって、2年目には県外派遣も増えている。依頼内容は、教科化後の評価のやり方が明確ではなかったということもあり、小学校では、1年目には評価に関する依頼の割合が多かったが、2年目には減少している。中学校では、1年目と2年目の有意差はないが、これは、中学校における教科化が、小学校より1年遅れて2019（平成31）年度からスタートしていることと関係していると推測される。

示範授業の依頼の割合は、小中学校ともに、2年目の方が増えている。これは、「道徳科の授業の質的な変容を強く求める真摯な想いが高まって」と報告されているが、併せて、検定教科書が作られ、教材開発という部分に力を注ぐことが難しくなり、教師が一番注力できる部分が授業方法の工夫という点になったということも言えるのではないだろうか。

4. 2 教師を子どもに見立てた模擬授業

提供内容の実際として示されている1つ目は、教師を子どもに見立てた模擬授業である。授業の様子を模擬的に再現できるという点で、講義だけの研修よりも実践的と言える。が、同時に、教師が子どもの立場に立って体験できるという意味で、子ども理解にも役立つ方法である。報告には、「自分の実践してきた「～しなければならない」「～してはいけない」といった道徳特有の「呪縛」から解放され、授業についてのイメージを新たにして安心し、今後の授業改善意欲を高めた様子が記述から読み取れた」とある。たしかに、教科化前には、学習指導要領に明示されているのではないが、「一人の登場人物の気持ちをおいかけなければならない」とか、「道徳的価値は、教師が説明するのではなく、子どもに気付かせなければならない」とか、さまざまな縛りがあった。それが、子どもに多面的・多角的な見方を促す方向に変化し、指導法も多様化したことから、自由度が増したと言える。新しい授業方法を学びながら、自由に議論し合える研修が実施されていることが窺える。

4. 3 示範授業

2つ目は示範授業である。示範授業は、子どもを対象とした飛び込み授業である。日ごろ接している子ども達を対象とするのではないため、難しさもあるが、子ども達の相互指名などを利用しつつ、子ども達自身が楽しみながら授業に参加していたであろうことが、研修に参加していた教師の感想から読み取れる。報告者は課題として「楽しい、面白い道徳授業」の普及には、理念・指導方法の取得だけではなく、授業者の在り方生き方も関わってくる」と記している。たしかに、道徳科授業では、自分の生き方、人間としての生き方についても教えることになるため、知識伝達を中心とした授業とは異なる面がある。研修テーマとしては取り上げにくい内容ではあるが、様々な形でフォローアップを検討していきたい。また、課題として、「示範授業をリモートで行う可能性」にも言及している。コロナウイルス感染症の拡大で、一時的に停止せざるを得ないような状況が2020（令和2）年度には到来していることを考えれば、今後、アカデミーとして検討していかなければならないだろう。

4. 4 参加者から授業者を募り、派遣講師とともに実施する模擬授業

3つ目は、参加者から授業者を募り、派遣講師とともに実施する模擬授業である。模擬授業の対象は、教師であり、教師が子ども役割を演じる。また、授業者も教師集団の中から希望者を募る。派遣講師は、指導案を準備し、授業者とともに授業を作りながら、説明も行う。報告されている内容は役割演技を用いた授業である。いわば、役割演技を用いた授業を、役割演技によって行い、派遣講師が監督役割を担う、というスタイルである。

役割演技には、名人芸的な一面があり、言葉で説明を聞いても理解しにくい。また、形だけをまねても思ったように子ども達の心が動かないということもある。今回の報告の感想の中には、「（観客として）演習中に泣き出していました。…こんなことは普段ないので、私が一番驚きました」との記述もある。頭で理解するのは異なる理解を体験されたのだと考えると、意味のある研修だったと言えるだろう。

5 結論に代えて

本稿の目的は、研修会への無償による講師派遣事業の内容を概観しながら、本アカデミーの意義について検討することであった。そのために、派遣回数の変遷など、派遣事業の概要を示し、研修での提供内容の概要として、3つの報告を示し、それらの報告を振り返り、考察を行った。

意義という点で整理すると以下の2点にまとめられよう。

①「特別の教科 道徳」の完全実施に合わせて、学校現場からの要望に応え、評価や授業方法等の研修会を実施できたこと。

②授業方法等の研修内容として、さまざまな形の模擬授業や示範授業を提供できたこと。

本アカデミーの業務としては、ほかに、「研修講座の開設・実施」や「研修プログラムの構築と、道徳教育に関わる新しいスタイルの探究」もある。今後も、地域の学校と協力しながら、内容によっては、地域だけでなく全国に発信しながら、道徳教育に関する啓発活動と実践研究に取り組んでいきたい。

付記：本研究は、公益財団法人上廣倫理財団の寄附研究部門「上越教育大学上廣道德教育アカデミー」によるものである。

6 引用文献

- (1) 東京学芸大学 2019「総合的道德教育プログラム」推進本部「道徳教育に関する小・中学校の教員を対象とした調査－道徳の時間への取り組みを中心として－（結果報告書）」
- (2) 樋口耕一 2004「テキスト型データの計量分析－2つのアプローチの峻別と統合」『理論と方法』19 (1) p.101-115 数理社会学会
- (3) 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議 2016「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）」 p.6
- (4) 文部科学省 2018「小学校学習指導要領（平成29年告示）」p.171（中学校は、p.157）東洋館出版社
- (5) 文部科学省 2018「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編」p.96（中学校は、p.97）廣濟堂あかつき
- (6) 同上、p.96（中学校はp.97-98）
- (7) 早川裕隆 2019「道徳科の授業に役割演技を取り入れる意味と活用方法の理解－その目的から見た効果的活用方法と配慮事項を中心に－」『授業UD研究』7 p.21 日本授業UD学会
- (8) 時田光人 1992「教育心理劇による学生相談の実際－ロール・プレイングの効果－」p.24 千葉大学保健管理センター
- (9) 菅原友和, 早川裕隆 2017「役割演技を用いた道徳授業における教師の監督技量を養成する研修プログラムの開発についての研究」『道徳教育方法研究』22 p.41-50 日本道徳教育方法学会
- (10) 文部科学省 2014「一冊のノート」（一部改編）『私たちの道徳 中学校』p.186-193 廣濟堂あかつき
- (11) Moreno, Z. T. 1965 Psychodramatic Rules, Techniques and Adjunctive Methods. *Group Psychotherapy*, 18 pp.73-86
- (12) 高良 聖 2013『サイコドラマの技法』p.39 岩崎学術出版社

Significance of the Uehiro Academy for Moral Education at Joetsu University of Education: The Transition of the Training Theme for Lecturer Dispatch Requests and Contents

Hiroataka HAYAKAWA* · Tsuyoshi KOMIYA** · Hirohisa TAMURA** ·
Kenji SATO*** · Yoshiki IWAKI** · Yasunari HAYASHI****

ABSTRACT

This paper intended to examine the significance of the Uehiro Academy for Moral Education by providing an overview of its "Project for Dispatching Lecturers to the Workshop Free of Charge", which was established as a donation research department at the Joetsu University of Education. We explained the project's outline including changes in the number of dispatches and provided three reports: "A menu on mock lessons in which teachers play the role of children", "A menu on demo lessons", and "A menu on mock lessons in which one of participants is invited to play a role of teacher and hold a lesson together with the lecturer". Considering these contents, we determined the academy's significance as follows: (1) In response to the school site's request, we held a workshop on evaluation and lesson methods, among others, in line with the implementation of "special subject morals", (2) Regarding training content, we provided different mock lessons and demo lessons.

* School Education, Director of the Uehiro Academy for Moral Education

** the Uehiro Academy for Moral Education *** Specially Appointed Professor

**** School Education, General Supervisor of the Uehiro Academy for Moral Education

「あとがき」にかえて

上越教育大学上廣道德教育アカデミー所長
早川 裕隆

「お兄ちゃんは運だけで生きているね。」これは、過去に妹に言われた言葉です。

「道德の時間」が「特別の教科 道德」として教科化するにあたり、お世話になっている新潟に対する貢献として、先生方が充実した道德科授業が展開できるよう支援し、子ども達に充実した道德科授業を届けたい…。そんな思いが、平成 30 年 4 月 1 日、公益財団法人上廣倫理財団の寄附による、本学で初めての寄附研究部門、上越教育大学上廣道德教育アカデミーとして実現しました。私達の思いを理解し、信頼し、寄附という形で実現して下さった公益財団法人上廣倫理財団に、改めて深謝申し上げます。

私の「運」とは、人との出会いです。本事業も、上廣倫理財団を始め、多くの人たちの支援があって実現しました。本事業を支えてくださった多くの皆様に、深謝申し上げます。私にとって上廣道德教育アカデミーは、感謝を込めてそれらの「人」という私の全財産を、多くの皆さんや、そんな皆さんの授業を受ける子ども達とシェアすることであり、それを受け取った皆さんがより発展させ、充実させることを願う祈りであります。

どうか、そんな思いが皆さんに届きますように…。これからも、皆さんの意味ある学びを生みますように…。心から願う次第です。

【上越教育大学上廣道德教育アカデミー】

- | | |
|---------------|---------------------------|
| ・統括監督者 | 林 泰成 |
| ・所長 | 早川 裕隆 |
| ・特任教授 | 小宮 健 |
| | 田村 博久 (2019 年 4 月 1 日より) |
| ・研修支援コーディネーター | 佐藤 賢治 (2019 年 3 月 31 日まで) |
| | 岩城 淑樹 (2019 年 4 月 1 日より) |
| ・事務補助員 | 水澤 一 |
| ・上越教育大学担当事務局 | 研究連携課 |

上越教育大学上廣道德教育アカデミー 第 I 期 (平成30年度～令和 2 年度) 事業報告書

令和 3 年 3 月

発行 上越教育大学上廣道德教育アカデミー
新潟県上越市山屋敷町 1 番地
印刷 永田印刷株式会社
新潟県上越市高土町 3 丁目 10 番 3 号
